

板橋区地域福祉に関するアンケート調査
調査報告書

令和7年2月
板 橋 区

目 次

第1章 調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	3
2 調査の対象.....	3
3 調査の方法.....	3
4 調査の期間.....	3
5 回答結果.....	3
6 留意点.....	4
第2章 調査結果.....	5
1 あなたご自身のことについて.....	7
(1) 性別.....	7
(2) 年齢.....	7
(3) 家族構成.....	8
(4) 国籍.....	9
(5) 居住地区.....	9
(6) 居住年数.....	9
(7) 住まいの種類.....	10
(8) 就労・就学等.....	11
(9) 世帯年収.....	12
2 人とのつながりについて.....	13
(1) 離れて暮らす家族や友人とのコミュニケーションの頻度.....	13
(2) 同居人とのコミュニケーションの頻度.....	17
(3) 孤独であると感じる頻度.....	18
3 相談に関する状況について.....	20
(1) 悩みや困りごとの相談先.....	20
(2) 現在の生活について相談したい内容.....	25
(3) 行政の相談窓口の利用経験.....	30
(4) 行政の相談窓口利用時の困りごと.....	31
(5) 行政の相談窓口を利用しない理由.....	32
(6) 相談支援体制の充実に必要なこと.....	33
(7) 現在の生活について.....	35
4 地域づくりについて.....	36
(1) 現在の近所との関わり方.....	36
(2) 望ましい近所との関わり方.....	39
(3) 地域とのつながりの必要性.....	42
(4) 住民の相互扶助に必要なだと思ふ取組.....	44
(5) 地域活動やボランティア活動への参加状況.....	46

(6) 地域活動やボランティア活動で課題や負担に感じる事	49
(7) 地域活動やボランティア活動に参加しなかった理由.....	50
(8) 今後参加したい地域活動やボランティア活動	52
(9) 地域活動やボランティア活動に求める事	55
(10) 地域活動やボランティア活動の活性化に必要な事.....	57
(11) 公共施設における休憩スペースの充実度.....	59
(12) 地域の居場所	60
(13) 地域の交流の場として望む場所	61
5 日常生活の課題について	63
(1) 日常的な外出頻度	63
(2) 地域や日常生活における優先課題.....	65
(3) 困りごとや悩みの解決に必要なだと思う事	68
(4) 地域保健福祉の推進に向けて強化してほしい取組.....	70
6 ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）について.....	72
(1) 社会的排除の状態にある人の存在	72
(2) 社会的排除の状態にある人への支援に必要な取組.....	73
7 ひきこもりについて	75
(1) ひきこもり状態にある(あった)世帯員	75
(2) ひきこもり状態の解消に有用なもの.....	76
8 外国人との共生について.....	78
(1) 多様性と活力ある地域社会の実現に向けて行政に求める事	78
9 再犯防止に向けた取組について	80
(1) 罪を犯した人への支援の必要性	80
(2) 罪を犯した人の立ち直りに協力したいと思うか.....	81
(3) 再犯防止に向けて区に求められる取組	82
10 行政の相談先や福祉等の関連用語について	84
(1) 相談支援窓口及び福祉・保健関連用語の認知度	84
11 意見・要望・感想.....	87
(1) 福祉サービス・相談支援について	87
(2) ケア・共生・社会的包摂について.....	88
(3) 生活環境・防犯・防災について	88
(4) 地域保健福祉について.....	89
(5) 地域活動・ボランティア活動について	89
(6) アンケートについて.....	90
(7) その他.....	90

第3章 調査結果概要.....	91
1 人とのつながりについて.....	93
2 相談に関する状況について.....	93
3 地域づくりについて.....	93
4 日常生活の課題について.....	95
5 ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）について.....	95
6 ひきこもりについて.....	95
7 外国人との共生について.....	96
8 再犯防止に向けた取組について.....	96
9 行政の相談先や福祉等の関連用語について.....	96
資料編.....	97

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、現在の「板橋区地域保健福祉計画 地域でつながるいたばし保健福祉プラン2025」（平成28年度～令和7年度）が目標年次に達することに伴い、次期計画の準備を進めている中で、地域福祉に関する区民の実態や意識、さまざまな取組、意見等を把握し、今後の計画策定の基礎資料として活用するために実施しました。

2 調査の対象

調査の対象	配付数
板橋区内に住所を有する18歳以上の者（無作為抽出）	3,000件

3 調査の方法

郵送による配付、郵送又はWebフォームによる回答

4 調査の期間

令和6年7月31日（水）～8月21日（水）

5 回答結果

配付数	回答数			回答率
	郵送	Webフォーム	合計	
3,000件	711件	119件	830件	27.7%

6 地域区分

地域名	対象地域
①板橋地域	板橋・熊野・仲宿・仲町・富士見地域センター管内
②常盤台地域	大谷口・常盤台・桜川地域センター管内
③志村地域	清水・志村坂上・中台・前野地域センター管内
④赤塚地域	下赤塚・成増・徳丸地域センター管内
⑤高島平地域	蓮根・舟渡・高島平地域センター管内



7 留意点

- 回答結果の割合（％）は、回答数に対する選択肢ごとの割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合も、回答数に対する選択肢ごとの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- グラフや表の「n」は、n数（number of case）であることを示し、その設問における集計対象者の総数、あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人数を表しています。
- 「その他」や「無回答」など、回答から読み取れるものが少ない、又はないものについては、言及しないことがあります。
- 本文中の設問番号等について、報告書の便宜上、実際の調査票と異なる設定を行っている場合があります。

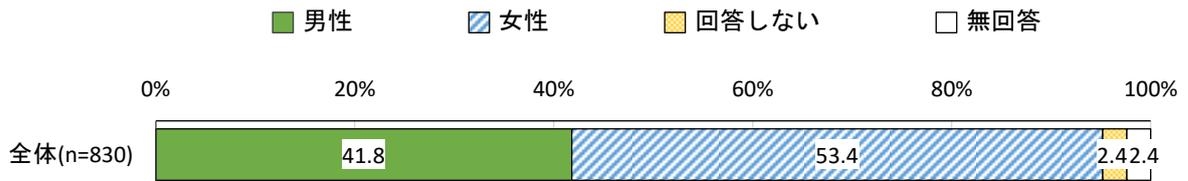
第2章 調査結果

1 あなたご自身のことについて

(1) 性別

ア あなたの性別をお答えください。(〇は1つだけ)

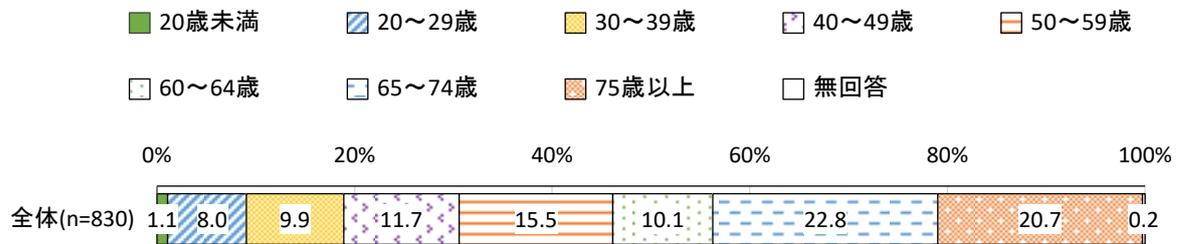
○性別は、「女性」が53.4%、「男性」が41.8%となっています。



(2) 年齢

イ あなたの年齢をお答えください。(令和6年7月1日現在) (〇は1つだけ)

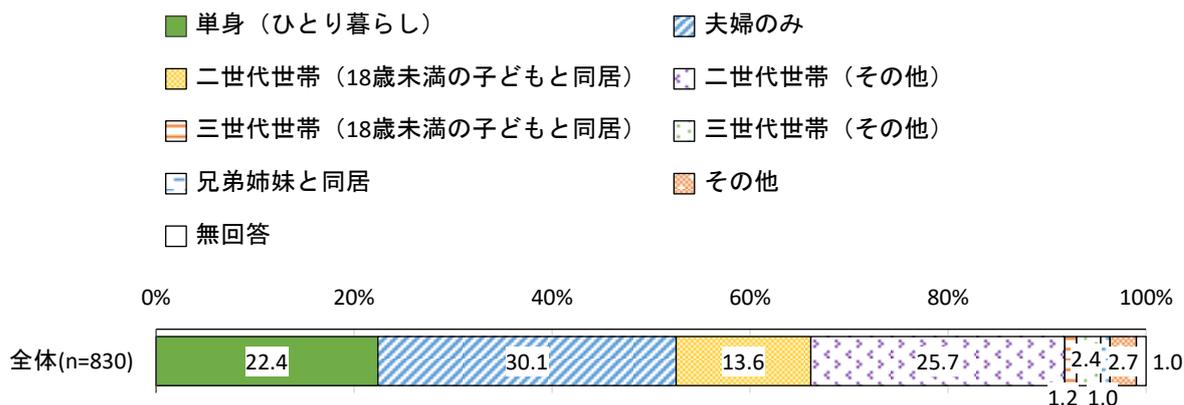
○年齢は、「65～74歳」が22.8%で最も多く、以下「75歳以上」が20.7%、「50～59歳」が15.5%、「40～49歳」が11.7%、「30～39歳」が9.9%、「20～29歳」が8.0%、「20歳未満」が1.1%となっています。



(3) 家族構成

ウ あなたの家族構成は、次のうちどれにあてはまりますか。(〇は1つだけ)

○家族構成は、「夫婦のみ」が30.1%で最も多く、以下「二世帯世帯（その他）」が25.7%、「単身（ひとり暮らし）」が22.4%、「二世帯世帯（18歳未満の子どもと同居）」が13.6%、「三世帯世帯（その他）」が2.4%、「三世帯世帯（18歳未満の子どもと同居）」が1.2%、「兄弟姉妹と同居」が1.0%となっています。



○年齢別でみると、「二世帯世帯（18歳未満の子どもと同居）」は30歳代及び40歳代で、「二世帯世帯（その他）」は20歳代、50歳代、60歳代で、「夫婦のみ」は65歳以上で最も多くなっています。

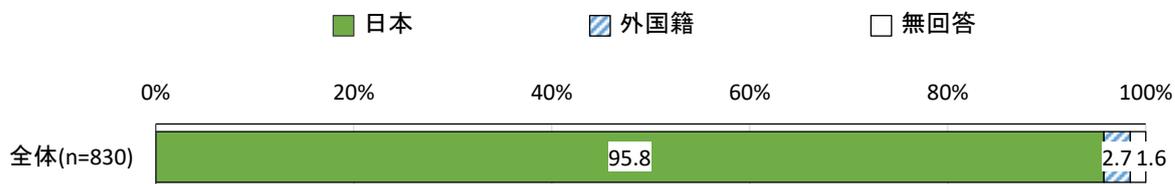
単位: %

	合計	単身（ひとり暮らし）	夫婦のみ	二世帯世帯（18歳未満の子どもと同居）	二世帯世帯（その他）	三世帯世帯（18歳未満の子どもと同居）	三世帯世帯（その他）	兄弟姉妹と同居	その他	無回答
全体	830	22.4	30.1	13.6	25.7	1.2	2.4	1.0	2.7	1.0
年齢	20歳未満	9	33.3	0.0	55.6	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	66	25.8	15.2	3.0	31.8	0.0	6.1	3.0	13.6
	30～39歳	82	30.5	19.5	32.9	13.4	0.0	1.2	0.0	2.4
	40～49歳	97	16.5	13.4	50.5	16.5	2.1	0.0	0.0	1.0
	50～59歳	129	20.9	20.2	17.1	34.9	0.8	3.9	0.0	1.6
	60～64歳	84	16.7	34.5	1.2	42.9	1.2	1.2	1.2	1.2
	65～74歳	189	25.4	43.9	1.6	21.7	2.1	1.6	1.6	1.6
	75歳以上	172	20.9	42.4	2.3	24.4	1.2	3.5	1.2	2.3

(4) 国籍

エ あなたの国籍をお答えください。(○は1つだけ)

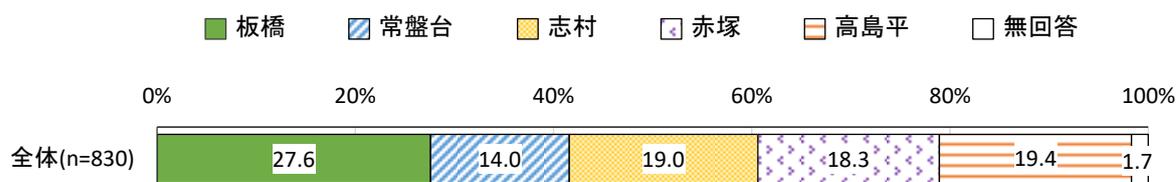
○国籍は、「日本」が95.8%、「外国籍」が2.7%となっています。



(5) 居住地区

オ あなたのお住まいの地区名をお答えください。(○は1つだけ)

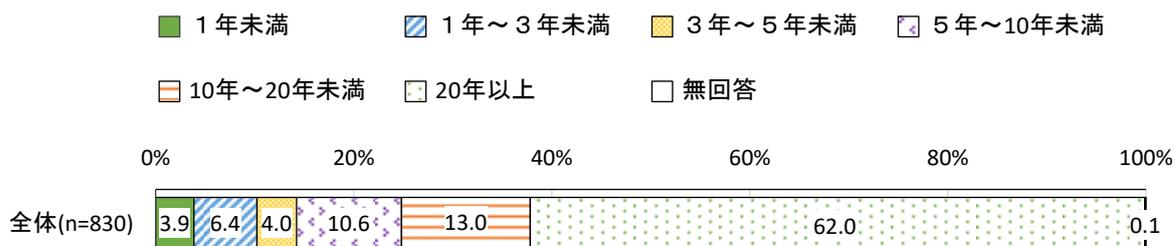
○居住地区は、「板橋」が27.6%で最も多く、以下「高島平」が19.4%、「志村」が19.0%、「赤塚」が18.3%、「常盤台」が14.0%となっています。



(6) 居住年数

カ あなたは板橋区に何年住んでいますか。(○は1つだけ)

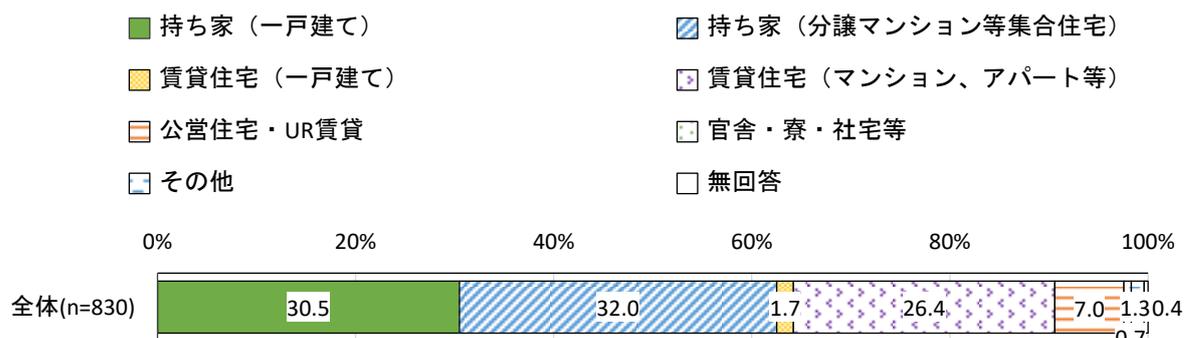
○居住年数は、「20年以上」が62.0%で最も多く、以下「10年～20年未満」が13.0%、「5年～10年未満」が10.6%、「1年～3年未満」が6.4%、「3年～5年未満」が4.0%、「1年未満」が3.9%となっています。



(7) 住まいの種類

キ お住まいは次のどれにあたりますか。(○は1つだけ)

○住まいの種類は、「持ち家（分譲マンション等集合住宅）」が32.0%で最も多く、以下「持ち家（一戸建て）」が30.5%、「賃貸住宅（マンション、アパート等）」が26.4%、「公営住宅・UR賃貸」が7.0%、「賃貸住宅（一戸建て）」が1.7%、「その他」が1.3%、「官舎・寮・社宅等」が0.7%となっています。



○年代別でみると、20歳代から30歳代では「賃貸住宅（マンション、アパート等）」が6割前後と最も多くなっていますが、40歳代以上では年齢とともに低くなっています。40歳代以上では「持ち家（一戸建て）」と「持ち家（分譲マンション等集合住宅）」の割合が高く、それぞれ合わせた「持ち家」は約6割から7割を占めています。

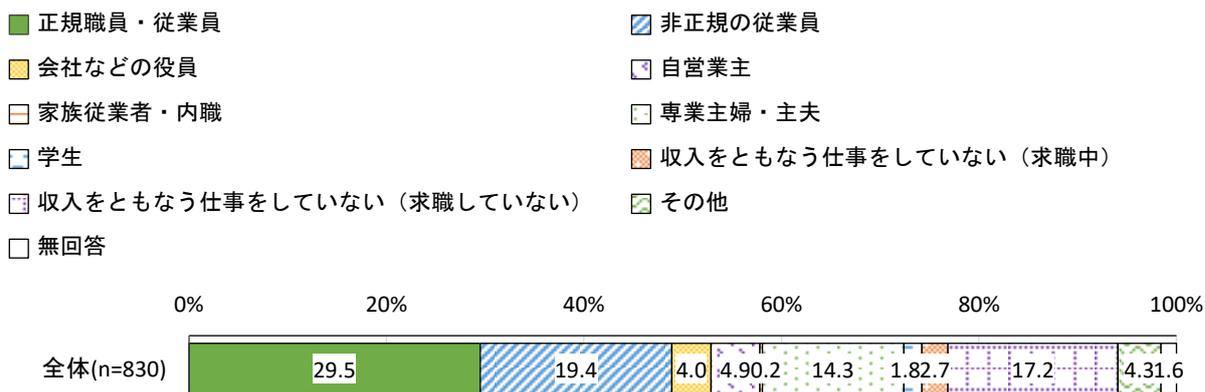
単位：%

	合計	住まいの種類								
		持ち家（一戸建て）	持ち家（分譲マンション等集合住宅）	賃貸住宅（一戸建て）	賃貸住宅（マンション、アパート等）	公営住宅・UR賃貸	官舎・寮・社宅等	その他	無回答	
全体	830	30.5	32.0	1.7	26.4	7.0	0.7	1.3	0.4	
年齢	20歳未満	9	22.2	44.4	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	66	18.2	15.2	4.5	57.6	1.5	1.5	1.5	0.0
	30～39歳	82	6.1	24.4	1.2	62.2	2.4	2.4	0.0	1.2
	40～49歳	97	24.7	34.0	2.1	35.1	3.1	0.0	1.0	0.0
	50～59歳	129	31.8	34.1	2.3	23.3	6.2	0.8	1.6	0.0
	60～64歳	84	35.7	34.5	0.0	20.2	9.5	0.0	0.0	0.0
	65～74歳	189	34.9	39.2	1.6	15.9	6.3	0.5	1.6	0.0
	75歳以上	172	41.9	30.2	1.2	9.3	14.0	0.6	2.3	0.6

(8) 就労・就学等

ク あなたの現在の就労・就学等の状況はどれになりますか。(○は1つだけ)

○就労・就学等は、「正規職員・従業員」が29.5%で最も多く、以下「非正規の従業員」が19.4%、「収入をとまなう仕事をしていない(求職していない)」が17.2%、「専業主婦・主夫」が14.3%、「自営業主」が4.9%、「会社などの役員」が4.0%、「収入をとまなう仕事をしていない(求職中)」が2.7%、「学生」が1.8%、「家族従業者・内職」が0.2%となっています。



○年齢別でみると、20歳代から50歳代までは「正規職員・従業員」が最も多く、なかでも30歳代では約7割を占めています。60～64歳では「非正規の従業員」が、65歳以上では「収入をとまなう仕事をしていない(求職していない)」がいずれも最も多くなっています。

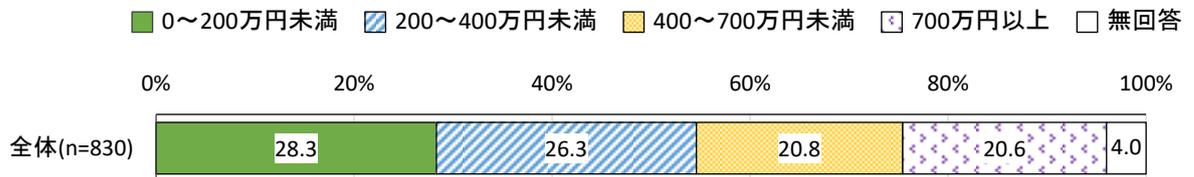
単位: %

	合計	正規職員・従業員	非正規の従業員	会社などの役員	自営業主	家族従業者・内職	専業主婦・主夫	学生	収入をとまなう仕事をしていない(求職中)	収入をとまなう仕事をしていない(求職していない)	収入をとまなう仕事をしていない(求職していない)	その他	無回答
全体	830	29.5	19.4	4.0	4.9	0.2	14.3	1.8	2.7	17.2	4.3	1.6	
年齢	20歳未満	9	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	55.6	0.0	0.0	0.0	11.1
	20～29歳	66	63.6	12.1	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	3.0	4.5	3.0	0.0
	30～39歳	82	68.3	15.9	1.2	2.4	0.0	6.1	0.0	0.0	3.7	2.4	0.0
	40～49歳	97	56.7	22.7	3.1	2.1	1.0	9.3	1.0	2.1	1.0	1.0	0.0
	50～59歳	129	49.6	20.2	5.4	10.1	0.0	7.0	0.0	5.4	1.6	0.8	0.0
	60～64歳	84	21.4	32.1	9.5	3.6	0.0	21.4	0.0	0.0	8.3	2.4	1.2
	65～74歳	189	2.6	27.5	5.8	6.3	0.5	19.0	0.0	3.7	28.6	4.8	1.1
	75歳以上	172	2.3	7.0	1.7	4.7	0.0	24.4	0.0	2.3	41.9	11.0	4.7

(9) 世帯年収

ケ あなたの現在の世帯年収についてお答えください。(〇は1つだけ)

○世帯年収は、「0～200万円未満」が28.3%で最も多く、以下「200～400万円未満」が26.3%、「400～700万円未満」が20.8%、「700万円以上」が20.6%となっています。



2 人とのつながりについて

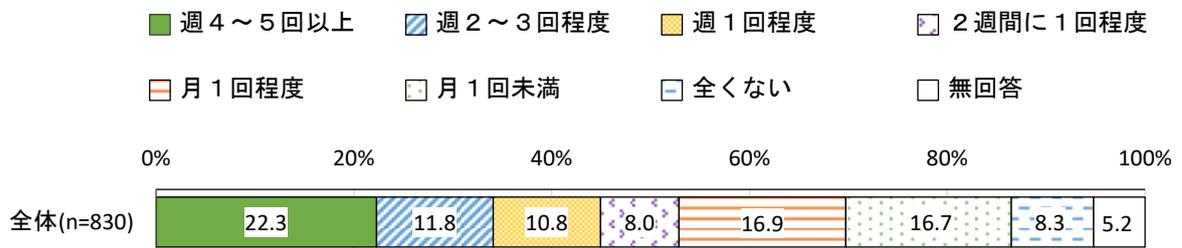
(1) 離れて暮らす家族や友人とのコミュニケーションの頻度

問1 あなたは普段、離れて暮らす家族やお友だちとどれくらいコミュニケーションを取っていますか。①～③ごとにそれぞれお答えください。(①～③について、それぞれ○は1つだけ)

※仕事や学校、近所での付き合い、SNS(X、Facebook、Instagramなど)上での交流など、場所や手段は問いません。

①直接会って話す

○離れて暮らす家族や友人とのコミュニケーションの頻度について、直接会って話す頻度は、「週4～5回以上」が22.3%で最も多く、以下「月1回程度」が16.9%、「月1回未満」が16.7%、「週2～3回程度」が11.8%などとなっています。



○年代別で見ると、65歳以上では「週4～5回以上」と「週2～3回程度」が多く、コミュニケーションの頻度が高くなっています。20歳代から65歳未満にかけては、30歳代と50歳代で「週4～5回以上」が最も多い一方、「月1回程度」と「月1回未満」を合わせると4割弱から5割弱を占め、特に40歳代でコミュニケーションの頻度が低くなっています。

単位: %

	合計	週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない	無回答
全体	830	22.3	11.8	10.8	8.0	16.9	16.7	8.3	5.2
年齢	20歳未満	9	88.9	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	66	19.7	7.6	7.6	13.6	22.7	18.2	6.1
	30～39歳	82	19.5	9.8	13.4	11.0	18.3	19.5	4.9
	40～49歳	97	12.4	10.3	5.2	9.3	18.6	29.9	14.4
	50～59歳	129	20.9	5.4	10.9	8.5	20.9	20.2	10.1
	60～64歳	84	20.2	7.1	11.9	6.0	21.4	22.6	4.8
	65～74歳	189	25.9	18.0	12.7	5.3	12.7	12.7	8.5
	75歳以上	172	25.0	15.7	12.2	7.6	13.4	7.0	8.1

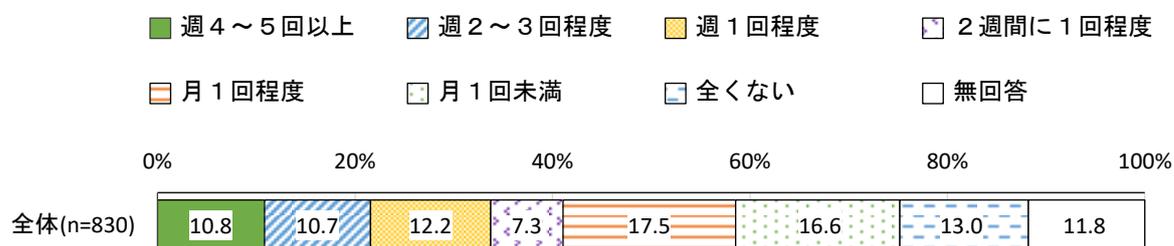
○孤独感でみると、孤独感をまったく感じない人では「週4～5回以上」が24.2%で最も多く、逆に、孤独をよく感じる人では「全くない」が29.2%で最も多くなっており、孤独感が高いほどコミュニケーションの頻度が低くなっています。

単位：%

		合計	週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない	無回答
全体		830	22.3	11.8	10.8	8.0	16.9	16.7	8.3	5.2
孤独感	よく感じる	24	16.7	8.3	8.3	4.2	8.3	16.7	29.2	8.3
	しばしば感じる	37	18.9	5.4	8.1	10.8	16.2	18.9	13.5	8.1
	たまに感じる	235	18.7	14.5	11.5	9.8	17.4	15.3	7.7	5.1
	まったく感じない	484	24.2	11.2	10.7	7.0	16.7	18.0	7.6	4.5

②電話（ビデオ通話含む）

○離れて暮らす家族や友人とのコミュニケーションの頻度について、電話（ビデオ通話含む）をする頻度は、「月1回程度」が17.5%で最も多く、以下「月1回未満」が16.6%、「全くない」が13.0%、「週1回程度」が12.2%などとなっています。



○年齢別でみると、20歳未満及び30歳代では「週4～5回以上」、「週1回程度」は75歳以上で、「月1回程度」は40歳代でそれぞれ最も多くなっています。また、「月1回未満」は60～64歳で約3割を占め、他年代と比べて割合が高くなっています。

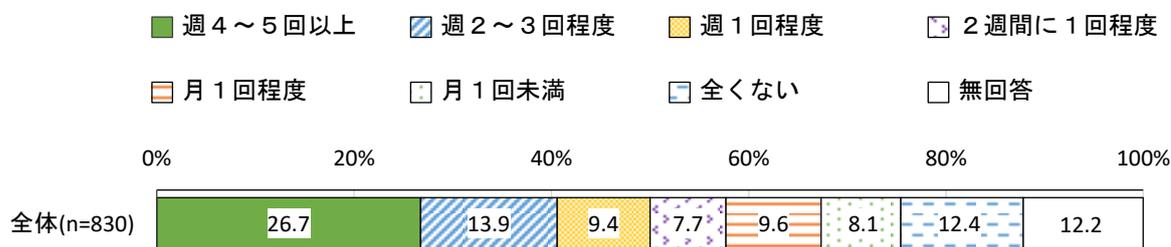
○孤独感でみると、孤独感をよく感じる人では「全くない」が約4割と最も多くなっているものの、「週4～5回以上」においても孤独を感じる頻度が低い人と比べてやや多くなっています。

単位：%

		合計	週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない	無回答
全体		830	10.8	10.7	12.2	7.3	17.5	16.6	13.0	11.8
年齢	20歳未満	9	55.6	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0
	20～29歳	66	10.6	13.6	7.6	4.5	19.7	19.7	16.7	7.6
	30～39歳	82	20.7	12.2	9.8	4.9	17.1	15.9	15.9	3.7
	40～49歳	97	9.3	4.1	10.3	13.4	24.7	20.6	15.5	2.1
	50～59歳	129	9.3	7.8	14.0	10.1	20.2	15.5	18.6	4.7
	60～64歳	84	4.8	11.9	9.5	8.3	15.5	29.8	11.9	8.3
	65～74歳	189	14.8	11.6	11.6	4.8	17.5	15.9	11.6	12.2
	75歳以上	172	4.7	13.4	16.9	7.0	12.2	9.3	7.0	29.7
孤独感	よく感じる	24	16.7	0.0	8.3	8.3	4.2	12.5	41.7	8.3
	しばしば感じる	37	8.1	8.1	13.5	8.1	16.2	18.9	16.2	10.8
	たまに感じる	235	11.1	12.3	12.3	6.0	17.9	16.2	13.6	10.6
	まったく感じない	484	9.9	10.3	13.0	7.4	19.0	16.9	11.0	12.4

③SNSや電子メールなど

○離れて暮らす家族や友人とのコミュニケーションの頻度について、SNSや電子メールなどを
する頻度は、「週4～5回以上」が26.7%で最も多く、以下「週2～3回程度」が13.9%、
「全くない」が12.4%、「月1回程度」が9.6%などとなっています。



○年齢別でみると、75歳以上を除くすべての年代で「週4～5回以上」が最も多く、特に20歳未満では100%、20歳代から30歳代の若年世代では約半数を占めています。一方で、75歳以上では「全くない」が約2割で最も多くなっています。

○孤独感別でみると、孤独を全く感じない人や孤独を感じる頻度が少ない人では「週4～5回以上」が最も多くなっていますが、孤独よく感じる人では「全くない」が最も多く、約3人に1人の割合となっています。

単位: %

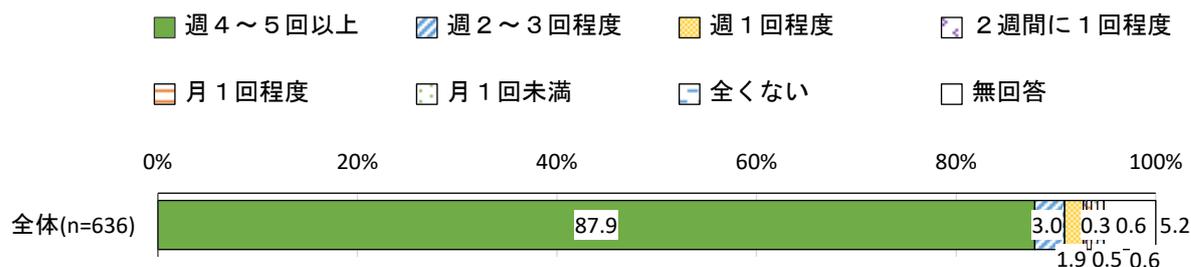
		合計	週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない	無回答
全体		830	26.7	13.9	9.4	7.7	9.6	8.1	12.4	12.2
年齢	20歳未満	9	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	66	45.5	16.7	6.1	10.6	9.1	3.0	6.1	3.0
	30～39歳	82	46.3	17.1	9.8	2.4	9.8	4.9	6.1	3.7
	40～49歳	97	26.8	20.6	10.3	13.4	14.4	7.2	5.2	2.1
	50～59歳	129	26.4	16.3	8.5	9.3	10.1	14.7	10.1	4.7
	60～64歳	84	27.4	9.5	9.5	8.3	15.5	11.9	6.0	11.9
	65～74歳	189	22.8	13.2	13.2	4.2	8.5	7.9	19.0	11.1
	75歳以上	172	11.0	9.3	7.0	8.7	5.8	5.2	20.3	32.6
孤独感	よく感じる	24	20.8	12.5	12.5	0.0	0.0	12.5	33.3	8.3
	しばしば感じる	37	29.7	13.5	5.4	10.8	13.5	8.1	8.1	10.8
	たまに感じる	235	31.1	10.2	10.2	7.2	13.6	6.0	8.9	12.8
	まったく感じない	484	24.4	15.7	9.5	8.5	8.3	8.3	13.0	12.4

(2) 同居人とのコミュニケーションの頻度

*同居している人がある場合にお答えください。

問1-1 あなたと同居している人たちとのコミュニケーションについて、直接話す頻度をお答えください。(〇は1つだけ)

○同居人とのコミュニケーションの頻度は、「週4～5回以上」が87.9%で最も多く、以下「週2～3回程度」が3.0%、「週1回程度」が1.9%、「月1回未満」が0.6%などとなっています。



○年齢別でみると、「週4～5回以上」がすべての年代において最も多くなっていますが、75歳以上では7割台にとどまります。

○孤独感でみると、「週4～5回以上」は孤独をまったく感じない人で約9割、孤独をよく感じる人で6割台と、孤独感を感じる頻度が多いほどコミュニケーションの頻度が低くなっています。

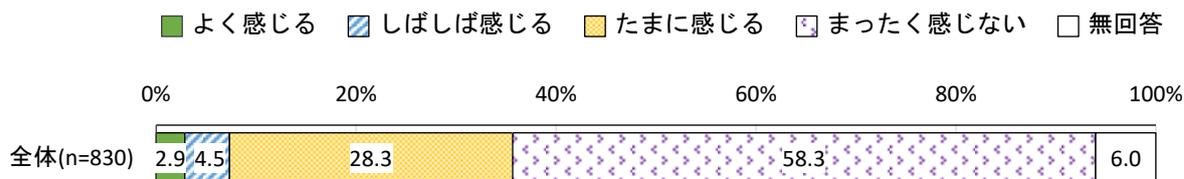
単位: %

		合計	週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない	無回答
全体		636	87.9	3.0	1.9	0.3	0.5	0.6	0.6	5.2
年齢	20歳未満	6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	48	87.5	2.1	2.1	0.0	0.0	0.0	4.2	4.2
	30～39歳	57	96.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.5
	40～49歳	81	91.4	3.7	1.2	0.0	1.2	1.2	0.0	1.2
	50～59歳	101	95.0	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0
	60～64歳	70	88.6	4.3	1.4	1.4	0.0	0.0	0.0	4.3
	65～74歳	140	86.4	2.1	2.9	0.0	0.7	1.4	0.0	6.4
	75歳以上	133	77.4	6.0	3.0	0.8	0.8	0.8	1.5	9.8
孤独感	よく感じる	12	66.7	8.3	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3
	しばしば感じる	21	76.2	0.0	9.5	0.0	0.0	0.0	9.5	4.8
	たまに感じる	165	84.8	6.7	3.6	0.0	1.2	1.2	0.0	2.4
	まったく感じない	429	92.1	1.6	0.7	0.2	0.2	0.5	0.5	4.2

(3) 孤独であると感じる頻度

問2 あなたはどの程度、孤独であると感じるがありますか。(○は1つだけ)

- 孤独であると感じる頻度は、「まったく感じない」が58.3%で最も多く、以下「たまに感じる」が28.3%、「しばしば感じる」が4.5%、「よく感じる」が2.9%となっています。
- 「よく感じる」から「たまに感じる」までを合わせた孤独を感じる人が35.7%、孤独を感じる頻度が高い人（よく感じる+しばしば感じる）は7.4%となっています。



- 性別でみると、男女ともに「まったく感じない」が過半数を占めています。孤独を感じる頻度が高い人は男性の方が多く、「たまに感じる」は女性の方が多くなっています。
- 年齢別でみると、「まったく感じない」は、年齢が高いほど多くなる傾向がみられ、逆に年齢が低いほど孤独を感じる頻度が高い人が多くなる傾向がみられます。

単位：%

		合計	よく感じる ①	しばしば感じる ②	たまに感じる ③	まったく感じない	無回答	孤独を感じる頻度 が高い①+②	孤独を感じる こと がある①+②+③
全体		830	2.9	4.5	28.3	58.3	6.0	7.4	35.7
性別	男性	347	2.9	5.8	23.3	62.8	5.2	8.7	32.0
	女性	443	2.7	3.2	32.3	55.5	6.3	5.9	38.2
	回答しない	20	10.0	5.0	25.0	50.0	10.0	15.0	40.0
年齢	20歳未満	9	11.1	11.1	22.2	44.4	11.1	22.2	44.4
	20～29歳	66	4.5	10.6	30.3	43.9	10.6	15.1	45.4
	30～39歳	82	2.4	7.3	31.7	51.2	7.3	9.7	41.4
	40～49歳	97	4.1	3.1	34.0	55.7	3.1	7.2	41.2
	50～59歳	129	2.3	3.9	29.5	56.6	7.8	6.2	35.8
	60～64歳	84	3.6	2.4	34.5	57.1	2.4	6.0	40.5
	65～74歳	189	2.1	2.1	24.3	65.6	5.8	4.2	28.5
75歳以上	172	2.3	5.2	23.8	63.4	5.2	7.5	31.3	

○家族構成でみると、「まったく感じない」は、単身（ひとり暮らし）を除いたすべての世帯で最も多く、過半数を占めています。一方、単身（ひとり暮らし）では「まったく感じない」は28.5%にとどまっており、孤独を感じることもある人が50.6%、孤独を感じる頻度が高い人が14.0%となっています。

○近所との関わり方でみると、近所との関わりが深いほど「まったく感じない」が多くなっており、親しく付き合っている人は73.1%を占めています。一方、近所との関わりが浅いほど「よく感じる」「しばしば感じる」「たまに感じる」が多くなっており、ほとんど付き合いがない人では、孤独を感じることもある人が50.3%、孤独を感じる頻度が高い人が17.4%となっています。

単位：%

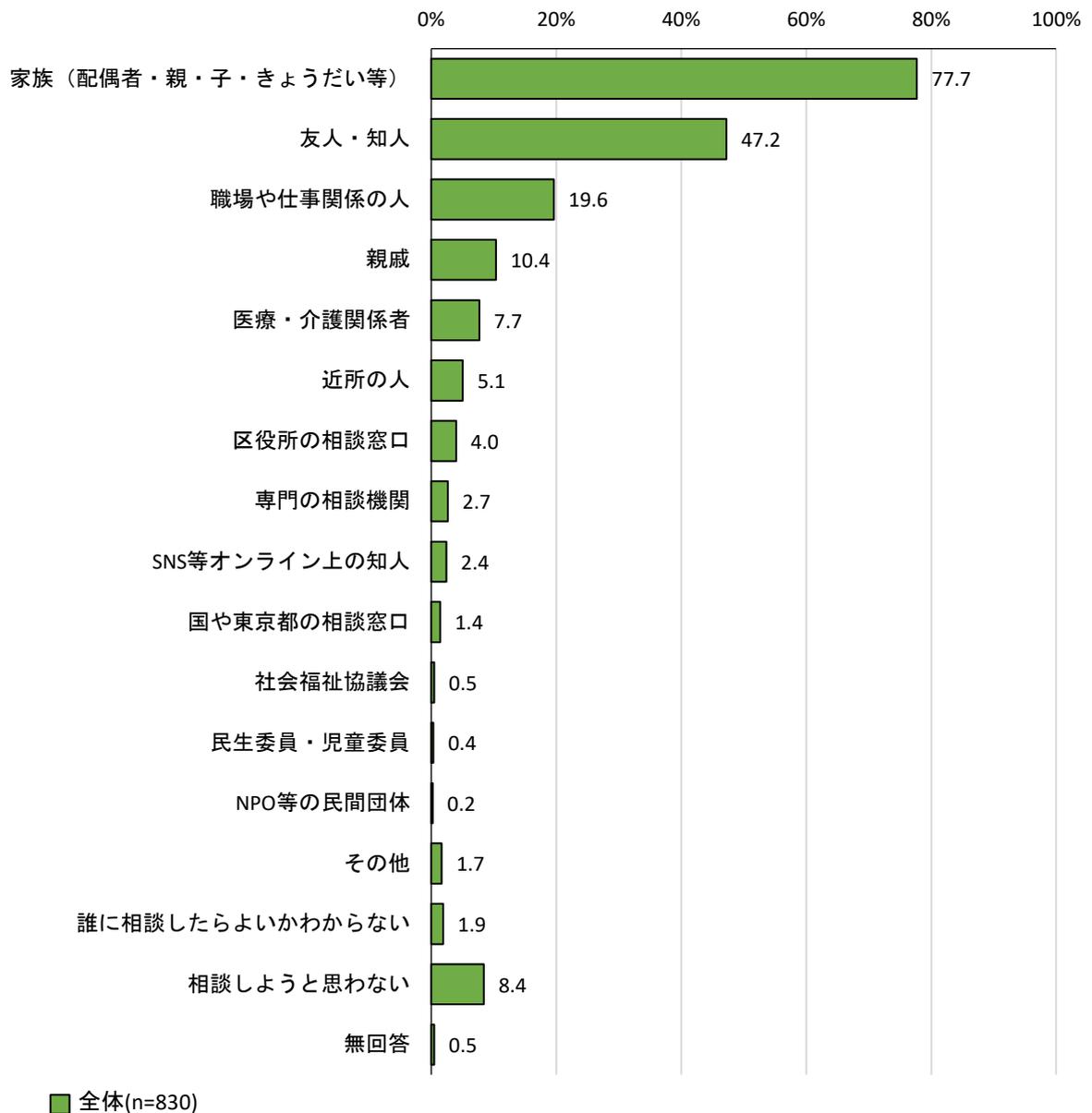
		合計	よく感じる①	しばしば感じる②	たまに感じる③	まったく感じない	無回答	孤独を感じる頻度が高い①+②	孤独を感じることもある①+②+③
全体		830	2.9	4.5	28.3	58.3	6.0	7.4	35.7
家族構成	単身（ひとり暮らし）	186	6.5	7.5	36.6	28.5	21.0	14.0	50.6
	夫婦のみ	250	1.6	2.0	23.2	70.8	2.4	3.6	26.8
	二世世代世帯（18歳未満の子どもと同居）	113	0.9	3.5	30.1	65.5	0.0	4.4	34.5
	二世世代世帯（その他）	213	2.8	3.3	31.0	62.0	0.9	6.1	37.1
	三世世代世帯（18歳未満の子どもと同居）	10	0.0	0.0	10.0	90.0	0.0	0.0	10.0
	三世世代世帯（その他）	20	0.0	5.0	5.0	85.0	5.0	5.0	10.0
	兄弟姉妹と同居	8	0.0	12.5	37.5	50.0	0.0	12.5	50.0
	その他	22	4.5	13.6	9.1	72.7	0.0	18.1	27.2
近所との関わり方	親しく付き合っている	67	0.0	0.0	23.9	73.1	3.0	0.0	23.9
	立ち話をする程度	186	1.6	2.2	26.9	65.1	4.3	3.8	30.7
	あいさつをする程度	405	2.2	3.7	27.7	60.7	5.7	5.9	33.6
	ほとんど付き合いがない	167	7.2	10.2	32.9	40.7	9.0	17.4	50.3

3 相談に関する状況について

(1) 悩みや困りごとの相談先

問3 あなたは悩みや困りごとをどなたに相談しますか。(〇はいくつでも)

〇悩みや困りごとの相談先は、「家族（配偶者・親・子・きょうだい等）」が77.7%で最も多く、以下「友人・知人」が47.2%、「職場や仕事関係の人」が19.6%、「親戚」が10.4%、「医療・介護関係者」が7.7%などとなっています。一方で、「相談しようと思わない」は8.4%となっています。



○年齢別で見ると、「友人・知人」は、60歳代以降で次第に割合が低くなり、75歳以上では約3割にとどまります。「職場や仕事関係の人」は40歳代までは年齢とともに割合が高くなり、50歳代以降は次第に低くなっています。

単位：%

		合計	家族（配偶者・親子・きょうだい等）	友人・知人	職場や仕事関係の人	親戚	医療・介護関係者	近所の人	区役所の相談窓口	専門の相談機関	SNS等オンライン上の知人
全体		830	77.7	47.2	19.6	10.4	7.7	5.1	4.0	2.7	2.4
年齢	20歳未満	9	55.6	44.4	11.1	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1
	20～29歳	66	72.7	63.6	24.2	6.1	4.5	0.0	3.0	0.0	6.1
	30～39歳	82	75.6	59.8	35.4	4.9	6.1	1.2	0.0	4.9	9.8
	40～49歳	97	81.4	53.6	41.2	8.2	5.2	5.2	2.1	3.1	5.2
	50～59歳	129	78.3	48.1	30.2	6.2	7.8	3.1	5.4	2.3	0.0
	60～64歳	84	78.6	59.5	19.0	16.7	15.5	7.1	6.0	4.8	0.0
	65～74歳	189	79.4	42.3	9.5	11.6	6.9	6.3	5.8	3.2	0.5
75歳以上	172	76.7	30.8	2.3	14.0	8.7	8.1	3.5	1.2	0.6	

		合計	国や東京都の相談窓口	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	NPO等の民間団体	その他	誰に相談したらよいかわからない	相談しようと思わない	無回答
全体		830	1.4	0.5	0.4	0.2	1.7	1.9	8.4	0.5
年齢	20歳未満	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	11.1
	20～29歳	66	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0	6.1	0.0
	30～39歳	82	1.2	0.0	0.0	0.0	1.2	2.4	11.0	1.2
	40～49歳	97	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	2.1	10.3	0.0
	50～59歳	129	3.1	0.8	0.8	0.8	2.3	0.8	11.6	0.0
	60～64歳	84	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	2.4	4.8	0.0
	65～74歳	189	1.6	0.5	0.0	0.5	2.1	1.6	5.8	0.5
75歳以上	172	1.7	1.2	0.0	0.0	1.7	2.3	8.7	0.6	

○単身（ひとり暮らし）の年齢別で見ると、単身者全体では「家族（配偶者・親・子・きょうだい等）」と「友人・知人」の割合はいずれも5割台となっています。年齢別で見ると、「家族（配偶者・親・子・きょうだい等）」は40歳代で6割台、「友人・知人」は20歳代で9割台とそれぞれ多くなっています。一方で、「相談しようと思わない」は30歳代及び40歳代で3割を超え、他年代と比べて割合が高くなっています。

単位：%

	合計	家族（配偶者・親・子・きょうだい等）	友人・知人	職場や仕事関係の人	親戚	医療・介護関係者	近所の人	区役所の相談窓口	専門の相談機関	SNS等オンライン上の知人
全体	830	77.7	47.2	19.6	10.4	7.7	5.1	4.0	2.7	2.4
【単身（ひとり暮らし）年齢】	全体	186	54.8	52.2	16.1	10.8	7.0	5.4	3.8	2.2
	20歳未満	3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	17	58.8	94.1	29.4	17.6	5.9	0.0	0.0	11.8
	30～39歳	25	44.0	52.0	24.0	4.0	4.0	0.0	4.0	8.0
	40～49歳	16	62.5	50.0	37.5	12.5	0.0	0.0	6.3	0.0
	50～59歳	27	59.3	48.1	22.2	7.4	7.4	0.0	7.4	0.0
	60～64歳	14	64.3	71.4	14.3	14.3	0.0	7.1	0.0	0.0
	65～74歳	48	52.1	50.0	8.3	8.3	12.5	8.3	4.2	0.0
75歳以上	36	55.6	36.1	2.8	13.9	8.3	13.9	5.6	2.8	0.0

	合計	国や東京都の相談窓口	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	NPO等の民間団体	その他	誰に相談したらよいかわからない	相談しようと思わない	無回答	
全体	830	1.4	0.5	0.4	0.2	1.7	1.9	8.4	0.5	
【単身（ひとり暮らし）年齢】	全体	186	1.6	1.1	0.5	0.5	1.1	4.8	14.5	1.1
	20歳未満	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
	20～29歳	17	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0
	30～39歳	25	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	32.0	4.0
	40～49歳	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	31.3	0.0
	50～59歳	27	7.4	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0	18.5	0.0
	60～64歳	14	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65～74歳	48	0.0	2.1	0.0	2.1	0.0	6.3	10.4	0.0
75歳以上	36	2.8	2.8	0.0	0.0	2.8	11.1	11.1	0.0	

○家族構成でみると、「家族（配偶者・親・子・きょうだい等）」は、単身（ひとり暮らし）で5割台にとどまっており、二世代世帯や夫婦のみの世帯を大きく下回っています。

単位：%

	合計	家族（配偶者・親・子・きょうだい等）	友人・知人	職場や仕事関係の人	親戚	医療・介護関係者	近所の人	区役所の相談窓口	専門の相談機関	SNS等オンライン上の知人	
全体	830	77.7	47.2	19.6	10.4	7.7	5.1	4.0	2.7	2.4	
家族構成	単身（ひとり暮らし）	186	54.8	52.2	16.1	10.8	7.0	5.4	5.4	3.8	2.2
	夫婦のみ	250	87.6	39.6	14.0	11.2	7.2	4.8	3.2	2.0	1.2
	二世代世帯（18歳未満の子どもと同居）	113	89.4	54.0	31.9	8.8	8.0	4.4	2.7	2.7	7.1
	二世代世帯（その他）	213	79.8	49.3	23.5	8.9	8.5	5.6	4.7	1.9	1.9
	三世代世帯（18歳未満の子どもと同居）	10	80.0	50.0	20.0	40.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0
	三世代世帯（その他）	20	85.0	50.0	25.0	20.0	20.0	10.0	0.0	10.0	0.0
	兄弟姉妹と同居	8	100.0	50.0	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0
	その他	22	59.1	36.4	18.2	0.0	9.1	0.0	4.5	4.5	4.5

	合計	国や東京都の相談窓口	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	NPO等の民間団体	その他	誰に相談したらよいかわからない	相談しようと思わない	無回答
全体	830	1.4	0.5	0.4	0.2	1.7	1.9	8.4	0.5
家族構成	単身（ひとり暮らし）	186	1.6	1.1	0.5	0.5	1.1	4.8	1.1
	夫婦のみ	250	1.6	0.0	0.4	0.0	1.6	0.8	5.2
	二世代世帯（18歳未満の子どもと同居）	113	0.9	0.0	0.0	0.0	1.8	0.9	4.4
	二世代世帯（その他）	213	1.9	0.9	0.0	0.5	1.4	1.9	8.9
	三世代世帯（18歳未満の子どもと同居）	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0
	三世代世帯（その他）	20	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	5.0
	兄弟姉妹と同居	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	22	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	0.0	18.2

○近所との関わり方でみると、「家族（配偶者・親・子・きょうだい等）」は、近所付き合いのある層でいずれも約8割ですが、近所付き合いがほとんどない人では6割にとどまっています。「友人・知人」についても、近所付き合いのない人で4割未満と低くなっています。

単位：%

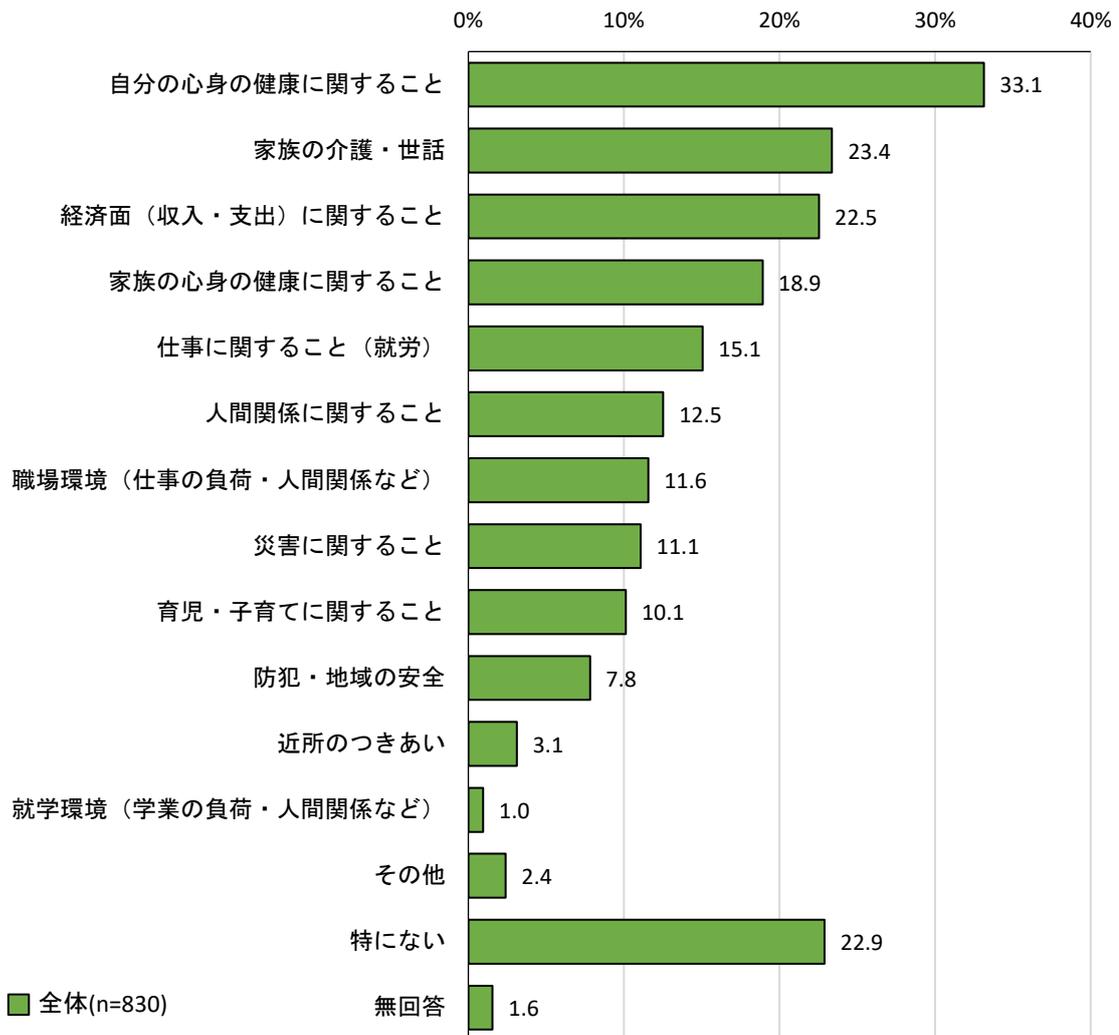
		合計	家族 (配偶者・親・子・きょうだい等)	友人・知人	職場や仕事関係の人	親戚	医療・介護関係者	近所の人	区役所の相談窓口	専門の相談機関	SNS等オンライン上の知人
全体		830	77.7	47.2	19.6	10.4	7.7	5.1	4.0	2.7	2.4
近所との関わり方	親しく付き合っている	67	82.1	46.3	11.9	26.9	4.5	17.9	0.0	1.5	0.0
	立ち話をする程度	186	84.4	50.5	14.0	14.0	10.8	11.8	4.3	2.7	2.7
	あいさつをする程度	405	81.7	49.4	24.2	7.2	7.2	1.5	4.4	3.2	2.7
	ほとんど付き合いがない	167	60.5	39.5	18.6	7.2	6.6	1.2	3.6	1.8	2.4

		合計	国や東京都の相談窓口	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	NPO等の民間団体	その他	誰に相談したらよいかわからない	相談しようと思わない	無回答
全体		830	1.4	0.5	0.4	0.2	1.7	1.9	8.4	0.5
近所との関わり方	親しく付き合っている	67	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	1.5	6.0	0.0
	立ち話をする程度	186	2.7	0.5	0.5	0.0	1.6	1.1	3.8	0.0
	あいさつをする程度	405	1.2	0.2	0.2	0.5	1.2	1.2	7.2	0.0
	ほとんど付き合いがない	167	1.2	1.2	0.6	0.0	1.8	4.8	18.0	0.6

(2) 現在の生活について相談したい内容

問4 あなたは、もし現在の生活について相談をしたらどのようなことを相談したいと思いますか。(〇はいくつでも)

○現在の生活について相談したい内容は、「自分の心身の健康に関すること」が33.1%で最も多く、以下「家族の介護・世話」が23.4%、「経済面(収入・支出)に関すること」が22.5%、「家族の心身の健康に関すること」が18.9%などとなっています。一方、「特にない」は22.9%となっています。



○年齢別でみると、「仕事に関すること（就労）」は20歳代で、「家族の介護・世話」は50歳代で、「自分の心身の健康に関すること」は60歳代以上の各年代で最も多く挙げられています。また、30歳代では「経済面（収入・支出）に関すること」と「仕事に関すること（就労）」が、40歳代では「自分の心身の健康に関すること」「育児・子育てに関すること」は同率で最上位となっています。

単位：%

		合計	自分の心身の健康に関すること	家族の介護・世話	経済面（収入・支出）に関すること	家族の心身の健康に関すること	仕事に関すること（就労）	人間関係に関すること	職場環境（仕事の負荷・人間関係など）	災害に関すること
全体		830	33.1	23.4	22.5	18.9	15.1	12.5	11.6	11.1
年齢	20歳未満	9	11.1	11.1	22.2	11.1	11.1	22.2	0.0	22.2
	20～29歳	66	24.2	12.1	31.8	7.6	40.9	27.3	19.7	6.1
	30～39歳	82	30.5	15.9	32.9	13.4	32.9	17.1	23.2	8.5
	40～49歳	97	32.0	23.7	27.8	19.6	24.7	24.7	23.7	13.4
	50～59歳	129	27.1	38.0	23.3	21.7	17.1	10.9	17.1	11.6
	60～64歳	84	38.1	28.6	26.2	28.6	11.9	8.3	11.9	10.7
	65～74歳	189	39.2	19.0	19.6	21.2	4.8	7.4	3.7	12.2
	75歳以上	172	35.5	23.3	11.6	16.3	2.9	6.4	1.2	10.5

		合計	育児・子育てに関すること	防犯・地域の安全	近所のつきあい	就学環境（学業の負荷・人間関係など）	その他	特にない	無回答
全体		830	10.1	7.8	3.1	1.0	2.4	22.9	1.6
年齢	20歳未満	9	0.0	22.2	0.0	22.2	0.0	11.1	11.1
	20～29歳	66	7.6	3.0	0.0	3.0	4.5	16.7	0.0
	30～39歳	82	31.7	3.7	1.2	0.0	0.0	13.4	2.4
	40～49歳	97	32.0	11.3	1.0	3.1	2.1	14.4	0.0
	50～59歳	129	12.4	9.3	3.1	0.8	3.1	17.8	0.8
	60～64歳	84	2.4	10.7	6.0	0.0	6.0	16.7	1.2
	65～74歳	189	2.1	6.9	2.1	0.0	2.6	33.9	1.1
	75歳以上	172	0.0	7.0	5.8	0.0	0.6	29.7	3.5

○居住地区でみると、「家族の介護・世話」は赤塚で27.0%、「仕事に関すること（就労）」は常盤台で22.4%、「経済面（収入・支出）に関すること」は志村で27.2%、「災害に関すること」は高島平で16.8%と、それぞれ他地区と比べて多く挙げられています。

単位：%

		合計	自分の心身の健康に関すること	家族の介護・世話	経済面（収入・支出）に関すること	家族の心身の健康に関すること	仕事に関すること（就労）	人間関係に関すること	職場環境（仕事の負荷・人間関係など）	災害に関すること
全体		830	33.1	23.4	22.5	18.9	15.1	12.5	11.6	11.1
居住地区	板橋	229	33.6	24.0	18.8	15.7	14.0	9.2	9.6	10.5
	常盤台	116	36.2	18.1	19.8	19.0	22.4	14.7	12.1	10.3
	志村	158	36.1	23.4	27.2	19.0	12.7	13.3	19.0	7.6
	赤塚	152	30.9	27.0	24.3	21.1	15.1	18.4	9.2	9.9
	高島平	161	30.4	23.6	23.6	21.7	13.7	9.3	9.9	16.8

		合計	育児・子育てに関すること	防犯・地域の安全	近所のつきあい	就学環境（学業の負荷・人間関係など）	その他	特にない	無回答
全体		830	10.1	7.8	3.1	1.0	2.4	22.9	1.6
居住地区	板橋	229	9.2	8.7	3.1	1.7	2.2	23.1	2.2
	常盤台	116	12.1	7.8	3.4	1.7	2.6	19.8	2.6
	志村	158	9.5	5.7	4.4	0.6	2.5	21.5	0.6
	赤塚	152	11.2	7.9	4.6	0.0	1.3	23.7	1.3
	高島平	161	10.6	9.3	0.6	0.6	3.1	24.8	1.2

○家族構成でみると、二世帯世帯（18歳未満の子どもと同居）では「育児・子育てに関すること」が他世帯と比べて多く挙げられています。

単位：%

		合計	自分の心身の健康に関すること	家族の介護・世話	経済面（収入・支出）に関すること	家族の心身の健康に関すること	仕事に関すること（就労）	人間関係に関すること	職場環境（仕事の負荷・人間関係など）	災害に関すること
全体		830	33.1	23.4	22.5	18.9	15.1	12.5	11.6	11.1
家族構成	単身（ひとり暮らし）	186	30.6	12.9	25.8	7.0	16.7	11.3	14.0	7.5
	夫婦のみ	250	31.2	30.0	17.6	22.8	8.0	7.6	7.2	11.2
	二世帯世帯（18歳未満の子どもと同居）	113	31.9	16.8	27.4	13.3	27.4	19.5	15.9	14.2
	二世帯世帯（その他）	213	36.6	28.6	21.6	26.3	15.0	13.6	11.7	11.3
	三世帯世帯（18歳未満の子どもと同居）	10	60.0	30.0	20.0	30.0	10.0	20.0	10.0	20.0
	三世帯世帯（その他）	20	45.0	40.0	25.0	35.0	20.0	15.0	15.0	15.0
	兄弟姉妹と同居	8	50.0	12.5	25.0	25.0	12.5	37.5	0.0	12.5
	その他	22	27.3	9.1	36.4	4.5	22.7	9.1	22.7	9.1

		合計	育児・子育てに関すること	防犯・地域の安全	近所のつきあい	就学環境（学業の負荷・人間関係など）	その他	特にない	無回答
全体		830	10.1	7.8	3.1	1.0	2.4	22.9	1.6
家族構成	単身（ひとり暮らし）	186	1.1	5.4	2.7	0.5	4.3	25.8	1.6
	夫婦のみ	250	2.8	7.2	4.0	0.0	2.4	30.8	2.4
	二世帯世帯（18歳未満の子どもと同居）	113	57.5	10.6	3.5	1.8	0.0	8.8	0.0
	二世帯世帯（その他）	213	2.8	9.4	1.4	1.4	1.9	18.8	0.9
	三世帯世帯（18歳未満の子どもと同居）	10	10.0	10.0	0.0	10.0	0.0	30.0	10.0
	三世帯世帯（その他）	20	10.0	15.0	5.0	0.0	0.0	5.0	0.0
	兄弟姉妹と同居	8	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5	12.5	0.0
	その他	22	4.5	0.0	0.0	4.5	4.5	36.4	0.0

○世帯年収で見ると、いずれの世帯年収層においても「自分の心身の健康に関すること」が最上位となっており、なかでも200～400万円未満の世帯では4割近くにのぼります。「経済面（収入・支出）に関すること」は世帯年収700万以上では1割弱にとどまっていますが、700万未満の各世帯では2割台となっています。

○暮らし向きで見ると、生活にゆとりのある層では「特にない」が、ややゆとりのある層では「自分の心身の健康に関すること」が、生活のやや苦しい層及び苦しい層では「経済面（収入・支出）に関すること」がそれぞれ最上位となっています。「経済面（収入・支出）に関すること」は、生活の苦しさが増すにつれて割合が高くなっており、生活の苦しい層では約半数を占めています。

単位：%

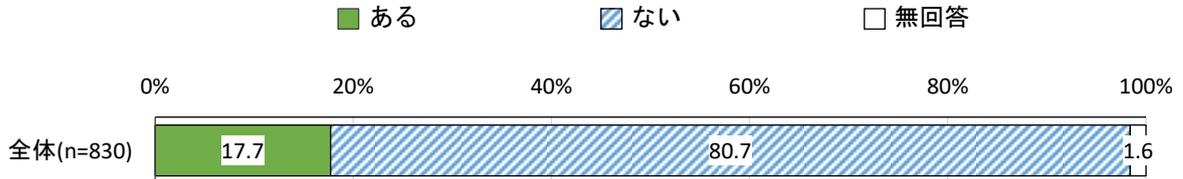
	合計	自分の心身の健康に関すること	家族の介護・世話	経済面（収入・支出）に関すること	家族の心身の健康に関すること	仕事に関すること（就労）	人間関係に関すること	職場環境（仕事の負荷・人間関係など）	災害に関すること	
全体	830	33.1	23.4	22.5	18.9	15.1	12.5	11.6	11.1	
世帯年収	0～200万円未満	235	31.9	18.3	23.8	14.9	11.9	13.2	4.3	9.8
	200～400万円未満	218	39.0	23.4	26.1	22.9	11.0	7.3	10.1	13.3
	400～700万円未満	173	32.4	30.1	27.7	19.7	23.1	17.3	18.5	12.7
	700万円以上	171	28.7	25.7	12.3	19.9	19.3	13.5	17.5	9.4
暮らし向き	ゆとりがある	123	26.8	21.1	6.5	15.4	10.6	12.2	8.9	4.9
	ややゆとりがある	363	35.5	23.4	12.4	19.6	12.7	12.7	11.6	12.9
	やや苦しい	262	35.5	28.6	38.5	22.9	19.5	13.0	13.4	11.5
	苦しい	58	24.1	10.3	50.0	6.9	24.1	15.5	12.1	6.9

	合計	育児・子育てに関すること	防犯・地域の安全	近所のつきあい	就学環境（学業の負荷・人間関係など）	その他	特にない	無回答	
全体	830	10.1	7.8	3.1	1.0	2.4	22.9	1.6	
世帯年収	0～200万円未満	235	4.7	7.7	5.5	0.9	2.1	24.7	3.0
	200～400万円未満	218	4.1	7.8	2.3	0.9	1.4	26.1	0.5
	400～700万円未満	173	13.3	6.4	1.2	0.0	1.7	16.8	1.2
	700万円以上	171	23.4	9.9	1.2	1.8	4.1	22.2	0.0
暮らし向き	ゆとりがある	123	8.9	7.3	0.0	1.6	1.6	36.6	0.8
	ややゆとりがある	363	11.8	9.4	3.0	1.1	1.4	24.0	1.1
	やや苦しい	262	10.7	6.9	4.2	0.8	3.4	16.0	0.4
	苦しい	58	3.4	5.2	5.2	0.0	5.2	17.2	0.0

(3) 行政の相談窓口の利用経験

問5 あなたは、生活における困りごとに関して、これまで行政の相談窓口にご相談したことはありますか。(〇は1つだけ)

○行政の相談窓口の利用経験は、「ない」が80.7%、「ある」が17.7%となっています。



○年齢別でみると、「ある」は60～64歳及び65～74歳で2割を超え、60～64歳では25.0%と4人に1人が窓口相談の経験があると回答しています。一方、20歳代では1割未満にとどまっています。

○世帯年収でみると、「ある」は700万円以上で約1割、200万円以上700万円未満で1割台半ば、200万円未満では2割台半ばとなっており、世帯年収が低いほど「ある」の割合が高くなっています。

単位：%

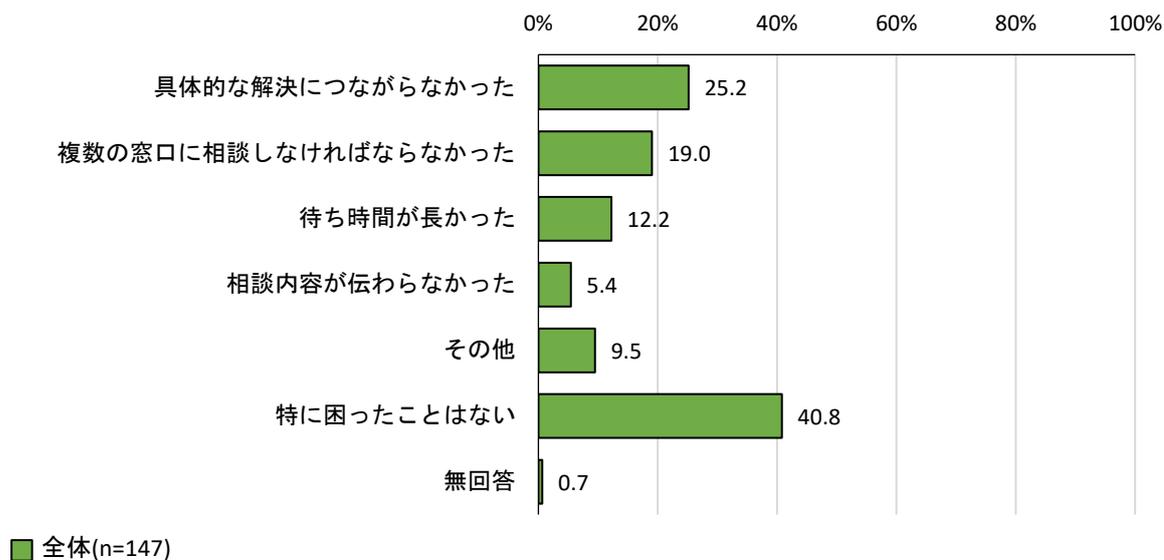
	合計	ある	ない	無回答	
全体	830	17.7	80.7	1.6	
年齢	20歳未満	9	11.1	77.8	11.1
	20～29歳	66	7.6	92.4	0.0
	30～39歳	82	15.9	82.9	1.2
	40～49歳	97	19.6	80.4	0.0
	50～59歳	129	17.1	82.9	0.0
	60～64歳	84	25.0	71.4	3.6
	65～74歳	189	22.2	76.2	1.6
	75歳以上	172	14.0	83.1	2.9
世帯年収	0～200万円未満	235	26.0	71.9	2.1
	200～400万円未満	218	16.1	82.6	1.4
	400～700万円未満	173	16.2	83.2	0.6
	700万円以上	171	11.7	88.3	0.0

(4) 行政の相談窓口利用時の困りごと

問5-1 【問5で「1 ある」を回答した方へ】

行政の窓口で相談をした際に、どのようなことに困りましたか。(〇はいくつでも)

○行政の相談窓口利用時の困りごとは、「具体的な解決につながらなかった」が25.2%で最も多く、以下「複数の窓口に相談しなければならなかった」が19.0%、「待ち時間が長かった」が12.2%、「相談内容が伝わらなかった」が5.4%となっています。一方、「特に困ったことはない」は40.8%となっています。



○年齢別で見ると、30歳代で「複数の窓口に相談しなければならなかった」が、50歳代では「具体的な解決につながらなかった」が最も多く挙げられています。40歳代及び60～64歳では上記2項目が同率で上位に挙げられています。

単位：%

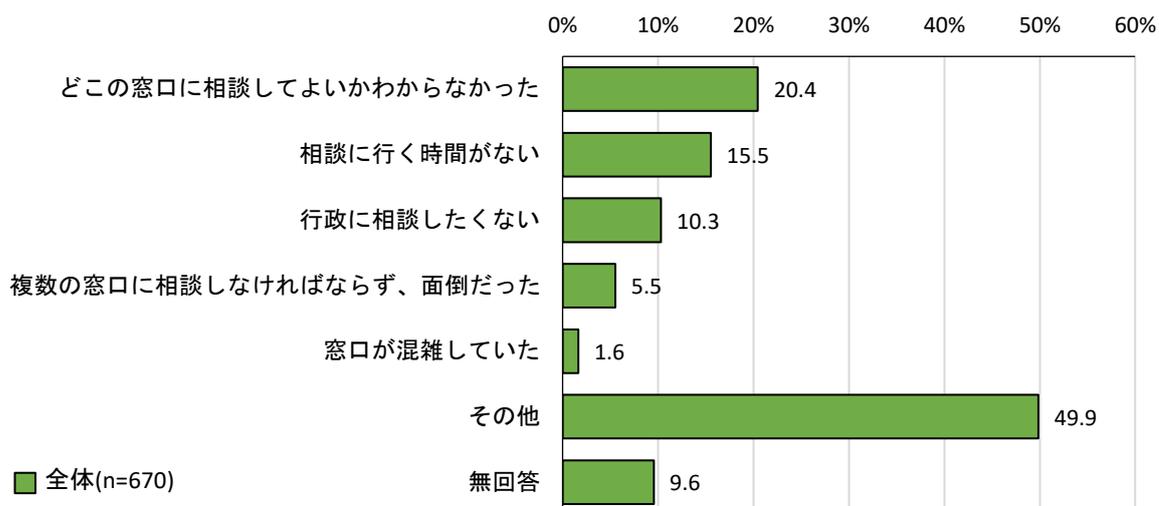
	合計	困りごと							
		具体的な解決につながらなかった	複数の窓口に相談しなければならなかった	待ち時間が長かった	相談内容が伝わらなかった	その他	特に困ったことはない	無回答	
全体	147	25.2	19.0	12.2	5.4	9.5	40.8	0.7	
年齢	20歳未満	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	20～29歳	5	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0
	30～39歳	13	23.1	30.8	15.4	7.7	15.4	30.8	0.0
	40～49歳	19	21.1	21.1	15.8	10.5	21.1	31.6	5.3
	50～59歳	22	36.4	22.7	9.1	4.5	22.7	27.3	0.0
	60～64歳	21	23.8	23.8	19.0	0.0	0.0	42.9	0.0
	65～74歳	42	23.8	9.5	11.9	7.1	7.1	45.2	0.0
	75歳以上	24	25.0	20.8	8.3	4.2	0.0	50.0	0.0

(5) 行政の相談窓口を利用しない理由

問5-2 【問5で「2 ない」を回答した方へ】

行政の相談窓口で相談したことがないのはなぜですか。(〇はいくつでも)

○行政の相談窓口を利用しない理由は、「どこの窓口で相談してよいかわからなかった」が20.4%で最も多く、以下「相談に行く時間がない」が15.5%、「行政に相談したくない」が10.3%、「複数の窓口で相談しなければならず、面倒だった」が5.5%、「窓口が混雑していた」が1.6%となっています。「その他」については、相談する必要がない、相談するほどのことではないとの記述が多く記載されています。



○年齢別でみると、「どこの窓口で相談してよいかわからなかった」は30歳代、60歳代以上の各年代で多く、30歳代では3割を超えています。「相談に行く時間がない」は20歳代以下、40歳代及び50歳代で多く、なかでも40歳代で約3割を占めています。

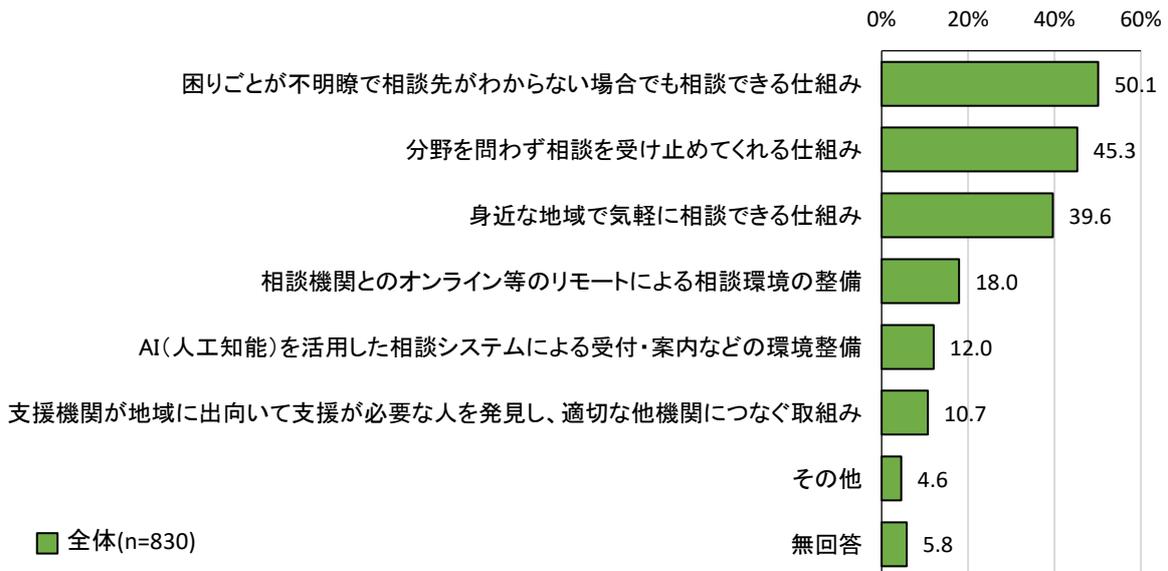
単位: %

	合計	理由							
		どこの窓口で相談してよいかわからなかった	相談に行く時間がない	行政に相談したくない	複数の窓口で相談しなければならず、面倒だった	窓口が混雑していた	その他	無回答	
全体	670	20.4	15.5	10.3	5.5	1.6	49.9	9.6	
年齢	20歳未満	7	14.3	28.6	28.6	14.3	0.0	42.9	0.0
	20～29歳	61	19.7	26.2	9.8	4.9	1.6	45.9	4.9
	30～39歳	68	32.4	27.9	14.7	4.4	2.9	42.6	4.4
	40～49歳	78	15.4	30.8	12.8	3.8	3.8	53.8	3.8
	50～59歳	107	16.8	18.7	12.1	2.8	0.0	47.7	7.5
	60～64歳	60	25.0	13.3	8.3	10.0	0.0	55.0	5.0
	65～74歳	144	18.8	6.9	7.6	4.2	0.0	58.3	8.3
	75歳以上	143	20.3	3.5	8.4	8.4	3.5	44.8	21.7

(6) 相談支援体制の充実に必要なこと

問6 あなたは、困りごとに対する相談支援体制を充実させるには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

○相談支援体制の充実に必要なことは、「困りごとが不明瞭で相談先がわからない場合でも相談できる仕組み」が50.1%で最も多く、以下「分野を問わず相談を受け止めてくれる仕組み」が45.3%、「身近な地域で気軽に相談できる仕組み」が39.6%、「相談機関とのオンライン等のリモートによる相談環境の整備」が18.0%などとなっています。



○性別でみると、「困りごとが不明瞭で相談先がわからない場合でも相談できる仕組み」や「身近な地域で気軽に相談できる仕組み」は男性より女性で多く、「AI（人工知能）を活用した相談システムによる受付・案内などの環境整備」は女性より男性で多くなっています。

○年齢別でみると、「分野を問わず相談を受け止めてくれる仕組み」が60歳以上で5割前後、「困りごとが不明瞭で相談先がわからない場合でも相談できる仕組み」は20歳代から64歳までいずれも5割以上と多く挙げられています。「身近な地域で気軽に相談できる仕組み」については、30歳代で2割台と他年代より低くなっています。また、「相談機関とのオンライン等のリモートによる相談環境の整備」は20歳代から40歳代において3割を超え、若い世代でのニーズが高くなっています。

単位：%

	合計	困りごとが不明瞭で相談先がわからない場合でも相談できる仕組み	分野を問わず相談を受け止めてくれる仕組み	身近な地域で気軽に相談できる仕組み	相談機関とのオンライン等のリモートによる相談環境の整備	AI（人工知能）を活用した相談システムによる受付・案内などの環境整備	支援機関が地域に出向いて支援が必要な人を発見し、適切な機関につなぐ取組み	その他	無回答	
全体	830	50.1	45.3	39.6	18.0	12.0	10.7	4.6	5.8	
性別	男性	347	45.5	46.4	36.6	17.0	16.7	9.5	4.9	5.5
	女性	443	54.2	44.5	43.1	18.1	8.8	11.5	4.1	5.6
	回答しない	20	55.0	55.0	25.0	35.0	15.0	20.0	10.0	0.0
年齢	20歳未満	9	33.3	33.3	33.3	22.2	22.2	22.2	11.1	11.1
	20～29歳	66	54.5	34.8	43.9	34.8	16.7	7.6	0.0	1.5
	30～39歳	82	57.3	41.5	24.4	32.9	30.5	8.5	6.1	2.4
	40～49歳	97	59.8	41.2	38.1	30.9	20.6	10.3	7.2	0.0
	50～59歳	129	52.7	43.4	37.2	20.2	11.6	9.3	7.0	1.6
	60～64歳	84	65.5	53.6	46.4	17.9	9.5	20.2	1.2	9.5
	65～74歳	189	47.1	48.1	44.4	10.1	5.8	12.2	4.2	5.3
75歳以上	172	34.3	47.7	39.5	4.1	4.7	7.6	4.1	14.0	

(7) 現在の生活について

問7 あなたは、現在の生活をどのように感じていますか。(○は1つだけ)

○現在の生活については、「ややゆとりがある」が43.7%で最も多く、以下「やや苦しい」が31.6%、「ゆとりがある」が14.8%、「苦しい」が7.0%となっています。



○年齢別でみると、すべての年代で「ややゆとりがある」が最も多くなっていますが、20歳代及び60～64歳では約1割が「苦しい」と回答しています。

○世帯年収でみると、200万円以上のすべての世帯において「ややゆとりがある」がいずれも約半数を占めていますが、200万円未満の世帯では「やや苦しい」が約4割で最も多くなっています。「ゆとりがある」は、700万円以上で3割を超えますが、700万円未満のすべての世帯ではいずれも約1割にとどまっています。

○孤独感でみると、「ややゆとりがある」は、孤独感をよく感じる層を除いていずれも4割前後を占めています。一方、「苦しい」は、孤独感をよく感じる人で約4割と突出して割合が高くなっています。

単位：%

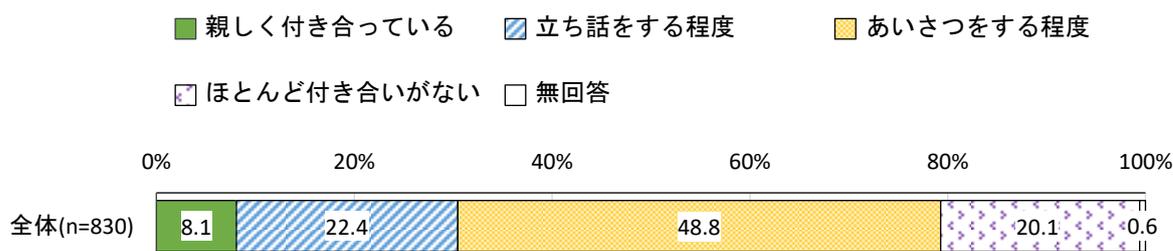
		合計	ゆとりがある	ややゆとりがある	やや苦しい	苦しい	無回答
全体		830	14.8	43.7	31.6	7.0	2.9
年齢	20歳未満	9	33.3	44.4	11.1	0.0	11.1
	20～29歳	66	18.2	40.9	28.8	12.1	0.0
	30～39歳	82	15.9	46.3	26.8	8.5	2.4
	40～49歳	97	24.7	38.1	33.0	4.1	0.0
	50～59歳	129	13.2	47.3	33.3	4.7	1.6
	60～64歳	84	10.7	44.0	32.1	10.7	2.4
	65～74歳	189	11.1	44.4	32.8	6.9	4.8
75歳以上	172	14.0	43.0	32.0	6.4	4.7	
世帯年収	0～200万円未満	235	9.8	34.5	39.1	13.6	3.0
	200～400万円未満	218	11.0	43.1	37.6	6.4	1.8
	400～700万円未満	173	10.4	53.8	28.3	3.5	4.0
	700万円以上	171	32.7	48.0	18.7	0.6	0.0
孤独感	よく感じる	24	12.5	16.7	25.0	41.7	4.2
	しばしば感じる	37	10.8	45.9	32.4	8.1	2.7
	たまに感じる	235	8.5	39.6	41.7	6.4	3.8
	まったく感じない	484	19.2	46.3	27.7	5.2	1.7

4 地域づくりについて

(1) 現在の近所との関わり方

問8 あなたは現在、ご近所とどのような関わり方をしていますか。(〇は1つだけ)

○現在の近所との関わり方は、「あいさつをする程度」が48.8%で最も多く、以下「立ち話をする程度」が22.4%、「ほとんど付き合いがない」が20.1%、「親しく付き合っている」が8.1%となっています。



○性別でみると、男女ともに「あいさつをする程度」が約半数を占めていますが、「立ち話をする程度」は女性が男性を、「ほとんど付き合いがない」は男性が女性をやや上回ります。

○年齢別でみると、20歳代では「ほとんど付き合いがない」が、30歳代から74歳までは「あいさつをする程度」が最も多くなっています。「親しく付き合っている」や「立ち話をする程度」は65歳以上の年代において割合が高く、高齢世代ほど親しい近所付き合いをしていることがうかがえます。

単位: %

		合計	親しく付き合っている	立ち話をする程度	あいさつをする程度	ほとんど付き合いがない	無回答
全体		830	8.1	22.4	48.8	20.1	0.6
性別	男性	347	7.2	18.7	49.9	23.6	0.6
	女性	443	8.4	24.6	49.4	17.2	0.5
	回答しない	20	5.0	25.0	35.0	35.0	0.0
	回答しない	20	5.0	25.0	35.0	35.0	0.0
年齢	20歳未満	9	11.1	0.0	55.6	33.3	0.0
	20～29歳	66	0.0	0.0	47.0	53.0	0.0
	30～39歳	82	3.7	3.7	54.9	36.6	1.2
	40～49歳	97	4.1	16.5	53.6	25.8	0.0
	50～59歳	129	4.7	16.3	57.4	20.9	0.8
	60～64歳	84	6.0	20.2	60.7	13.1	0.0
	65～74歳	189	10.6	33.3	45.5	9.5	1.1
	75歳以上	172	16.3	37.2	35.5	10.5	0.6

○居住地区でみると、板橋では「親しく付き合っている」が1割超え、常盤台では「立ち話をする程度」が2割台半ばとそれぞれ他地区より高い割合となっています。

○家族構成でみると、単身（ひとり暮らし）では「ほとんど付き合いがない」が4割強と、他の家族構成と比べて突出して割合が高くなっています。単身世帯を除いたすべての世帯では「あいさつをする程度」が最も多くなっており、なかでも二世帯世帯（18歳未満の子どもと同居）では6割台半ばを占めています。

単位：%

		合計	親しく付き合っている	立ち話をする程度	あいさつをする程度	ほとんど付き合いがない	無回答
全体		830	8.1	22.4	48.8	20.1	0.6
居住地区	板橋	229	10.5	21.0	49.8	17.5	1.3
	常盤台	116	6.0	25.9	49.1	19.0	0.0
	志村	158	8.9	22.2	48.1	20.9	0.0
	赤塚	152	7.2	22.4	47.4	21.7	1.3
	高島平	161	5.6	21.7	50.9	21.7	0.0
家族構成	単身（ひとり暮らし）	186	5.4	14.0	37.1	42.5	1.1
	夫婦のみ	250	11.6	26.4	48.4	13.2	0.4
	二世帯世帯（18歳未満の子どもと同居）	113	6.2	17.7	66.4	9.7	0.0
	二世帯世帯（その他）	213	6.6	28.2	51.2	14.1	0.0
	三世帯世帯（18歳未満の子どもと同居）	10	10.0	20.0	60.0	0.0	10.0
	三世帯世帯（その他）	20	15.0	20.0	45.0	20.0	0.0
	兄弟姉妹と同居	8	0.0	25.0	62.5	12.5	0.0
その他	22	13.6	13.6	36.4	36.4	0.0	

○住居形態別でみると、「あいさつをする程度」は持ち家（一戸建て、分譲マンション等集合住宅）及び賃貸住宅（一戸建て、マンション、アパート等）で最も多く、4割台から5割台を占めています。公営住宅・UR賃貸では「ほとんど付き合いがない」が32.8%で最多となっていますが、「立ち話をする程度」と「あいさつをする程度」についてもそれぞれ31.0%と同程度となっています。

○孤独感でみると、「あいさつをする程度」は孤独感をたまに感じる層とまったく感じない層で多く、「ほとんど付き合いがない」は孤独感をよく感じる層としばしば感じる層で多くなっています。「ほとんど近所付き合いがない」は、孤独感を感じる頻度が多いほど割合が高くなっています。

○暮らし向きでみると、「ほとんど付き合いがない」は生活が苦しいと感じる層で4割弱を占め、生活にゆとりがあると感じる層の約2倍高くなっています。

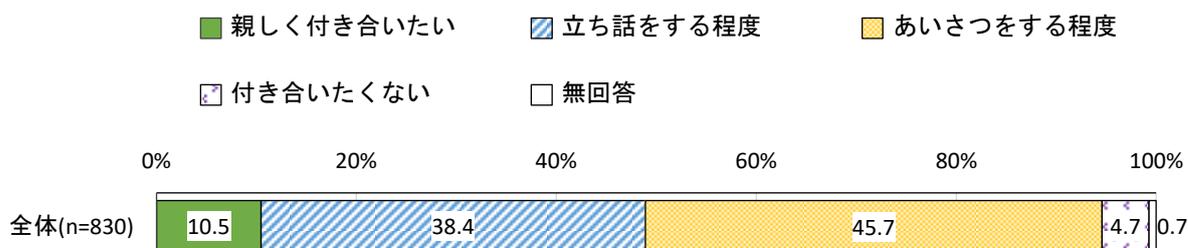
単位：%

		合計	親しく付き合っている	立ち話をする程度	あいさつをする程度	ほとんど付き合いがない	無回答
全体		830	8.1	22.4	48.8	20.1	0.6
住まいの種類	持ち家（一戸建て）	253	10.7	38.3	42.3	7.9	0.8
	持ち家（分譲マンション等集合住宅）	266	11.3	21.1	55.3	12.4	0.0
	賃貸住宅（一戸建て）	14	21.4	14.3	50.0	14.3	0.0
	賃貸住宅（マンション、アパート等）	219	1.8	5.0	53.0	39.7	0.5
	公営住宅・UR賃貸	58	5.2	31.0	31.0	32.8	0.0
	官舎・寮・社宅等	6	0.0	16.7	16.7	50.0	16.7
	その他	11	0.0	0.0	63.6	27.3	9.1
孤独感	よく感じる	24	0.0	12.5	37.5	50.0	0.0
	しばしば感じる	37	0.0	10.8	40.5	45.9	2.7
	たまに感じる	235	6.8	21.3	47.7	23.4	0.9
	まったく感じない	484	10.1	25.0	50.8	14.0	0.0
暮らし向き	ゆとりがある	123	11.4	15.4	52.0	20.3	0.8
	ややゆとりがある	363	8.8	23.4	51.2	16.5	0.0
	やや苦しい	262	6.5	25.6	46.6	21.4	0.0
	苦しい	58	1.7	13.8	46.6	37.9	0.0

(2) 望ましい近所との関わり方

問9 あなたが望ましいと思う、ご近所との関わり方はどれですか。(〇は1つだけ)

○望ましい近所との関わり方は、「あいさつをする程度」が45.7%で最も多く、以下「立ち話をする程度」が38.4%、「親しく付き合いたい」が10.5%となっています。一方で、「付き合いたくない」は4.7%となっています。



○性別でみると、男女ともに「あいさつをする程度」が4割台で最も多く、次いで「立ち話をする程度」が挙げられています。

○年齢別でみると、20歳未満から64歳までの各年代において「あいさつをする程度」が、65歳以上では「立ち話をする程度」がそれぞれ最も多く挙げられています。また、「立ち話をする程度」は年齢を重ねるとともに割合が高くなりますが、「あいさつをする程度」は年齢とともに割合が低くなっています。

単位：%

		合計	親しく付き合いたい	立ち話をする程度	あいさつをする程度	付き合いたくない	無回答
全体		830	10.5	38.4	45.7	4.7	0.7
性別	男性	347	12.4	36.3	47.0	3.7	0.6
	女性	443	8.4	40.6	45.6	5.0	0.5
	回答しない	20	10.0	25.0	50.0	15.0	0.0
年齢	20歳未満	9	0.0	11.1	66.7	22.2	0.0
	20～29歳	66	0.0	12.1	72.7	15.2	0.0
	30～39歳	82	6.1	30.5	51.2	11.0	1.2
	40～49歳	97	10.3	32.0	51.5	6.2	0.0
	50～59歳	129	7.0	34.9	55.0	2.3	0.8
	60～64歳	84	11.9	41.7	44.0	1.2	1.2
	65～74歳	189	12.2	49.2	34.9	2.6	1.1
75歳以上	172	17.4	45.9	34.3	1.7	0.6	

○家族構成でみると、単身世帯や二世帯世帯（その他）で「あいさつをする程度」が半数を超え、夫婦のみの世帯では「立ち話をする程度」が4割台半ばで最も多くなっています。

○住まいの種類でみると、持ち家（一戸建て）では「立ち話をする程度」が最も多く、持ち家（一戸建て）を除いたすべての住居形態では「あいさつをする程度」がそれぞれ最も多くなっています。

単位：%

		合計	親しく付き合いたい	立ち話をする程度	あいさつをする程度	付き合いたくない	無回答
全体		830	10.5	38.4	45.7	4.7	0.7
家族構成	単身（ひとり暮らし）	186	8.1	25.8	54.3	10.8	1.1
	夫婦のみ	250	12.4	46.4	36.0	4.4	0.8
	二世帯世帯（18歳未満の子どもと同居）	113	8.8	42.5	46.0	2.7	0.0
	二世帯世帯（その他）	213	10.8	38.5	50.2	0.5	0.0
	三世帯世帯（18歳未満の子どもと同居）	10	20.0	40.0	30.0	0.0	10.0
	三世帯世帯（その他）	20	15.0	35.0	45.0	5.0	0.0
	兄弟姉妹と同居	8	0.0	37.5	62.5	0.0	0.0
	その他	22	13.6	31.8	45.5	9.1	0.0
住まいの種類	持ち家（一戸建て）	253	13.8	51.0	31.6	2.8	0.8
	持ち家（分譲マンション等集合住宅）	266	12.0	42.5	43.6	1.9	0.0
	賃貸住宅（一戸建て）	14	21.4	21.4	57.1	0.0	0.0
	賃貸住宅（マンション、アパート等）	219	5.0	21.5	63.5	9.6	0.5
	公営住宅・UR賃貸	58	8.6	37.9	48.3	3.4	1.7
	官舎・寮・社宅等	6	0.0	16.7	50.0	16.7	16.7
	その他	11	0.0	27.3	36.4	27.3	9.1

- 孤独感でみると、「あいさつをする程度」は、孤独感をよく感じる層を除きいずれも4割台半ばと最も多くなっていますが、孤独感をよく感じる層では約3割にとどまります。「付き合いたくない」は、孤独をしばしば感じる人やよく感じる人で1割台半ばとなっています。
- 暮らし向きでみると、「あいさつをする程度」はいずれの暮らし向きにおいても最も多くなっています。
- 近所との関わり方でみると、近所付き合いのある層では、現在の近所との関わり方を維持することを望む傾向にあります。一方、ほとんど近所付き合いのない人においては、約6割が「あいさつをする程度」が望ましい関わり方であると回答しています。

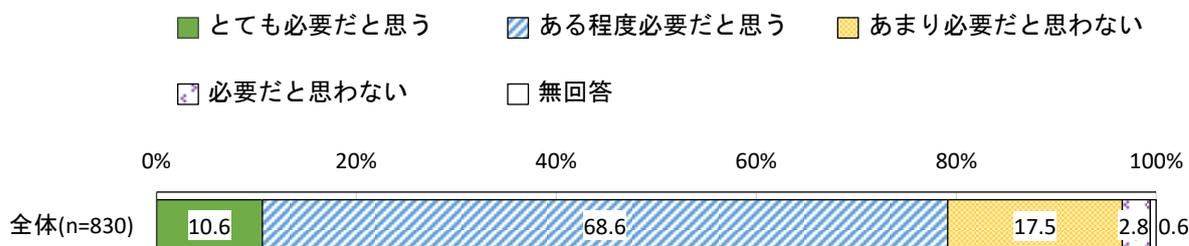
単位：%

		合計	親しく 付き合いたい	立ち話を する程度	あいさつを する程度	付き合 いたくない	無回 答
全体		830	10.5	38.4	45.7	4.7	0.7
孤独感	よく感じる	24	8.3	45.8	29.2	16.7	0.0
	しばしば感じる	37	10.8	24.3	45.9	16.2	2.7
	たまに感じる	235	12.3	36.6	46.0	4.3	0.9
	まったく感じない	484	10.1	40.7	45.7	3.3	0.2
暮らし向き	ゆとりがある	123	11.4	35.0	48.8	4.9	0.0
	ややゆとりがある	363	10.7	41.3	43.5	4.1	0.3
	やや苦しい	262	9.9	40.1	45.0	5.0	0.0
	苦しい	58	8.6	29.3	55.2	5.2	1.7
近所との関わり方	親しく付き合っている	67	70.1	22.4	6.0	0.0	1.5
	立ち話を する程度	186	8.1	86.0	5.9	0.0	0.0
	あいさつを する程度	405	4.7	28.9	64.4	1.7	0.2
	ほとんど 付き合いがない	167	3.6	16.2	61.1	19.2	0.0

(3) 地域とのつながりの必要性

問10 あなたは、地域とのつながりが必要だと思いますか。(〇は1つだけ)

○地域とのつながりの必要性は、「ある程度必要だと思う」が68.6%で最も多く、以下「あまり必要だと思わない」が17.5%、「とても必要だと思う」が10.6%、「必要だと思わない」が2.8%となっています。



○年齢別で見ると、すべての年代において「ある程度必要だと思う」が最も多く挙げられています。一方で、20歳代では「あまり必要だと思わない」「必要だと思わない」の割合が他年代と比べて高くなっています。

○家族構成で見ると、いずれの世帯においても「ある程度必要だと思う」が最多となっており、なかでも夫婦のみの世帯、二世帯世帯で7割前後と高い割合となっています。

単位: %

		合計	とても必要だと思う	ある程度必要だと思う	あまり必要だと思わない	必要だと思わない	無回答
全体		830	10.6	68.6	17.5	2.8	0.6
年齢	20歳未満	9	22.2	44.4	22.2	11.1	0.0
	20～29歳	66	6.1	50.0	33.3	9.1	1.5
	30～39歳	82	8.5	57.3	26.8	6.1	1.2
	40～49歳	97	7.2	74.2	16.5	2.1	0.0
	50～59歳	129	8.5	68.2	22.5	0.0	0.8
	60～64歳	84	7.1	76.2	14.3	2.4	0.0
	65～74歳	189	12.2	72.0	14.3	1.1	0.5
	75歳以上	172	16.3	71.5	8.7	2.9	0.6
家族構成	単身（ひとり暮らし）	186	5.9	61.3	24.7	7.0	1.1
	夫婦のみ	250	14.4	68.4	14.8	2.0	0.4
	二世帯世帯（18歳未満の子どもと同居）	113	12.4	69.9	16.8	0.9	0.0
	二世帯世帯（その他）	213	9.9	73.7	16.0	0.5	0.0
	三世帯世帯（18歳未満の子どもと同居）	10	20.0	50.0	20.0	0.0	10.0
	三世帯世帯（その他）	20	10.0	80.0	10.0	0.0	0.0
	兄弟姉妹と同居	8	0.0	87.5	12.5	0.0	0.0
	その他	22	9.1	63.6	13.6	13.6	0.0

○孤独感でみると、孤独を感じる頻度が少ない層では、7割前後が地域のつながりを「ある程度必要だと思う」と回答していますが、孤独感をしばしば感じる層とよく感じる層では4割台半ばから5割とやや低くなっています。しかし、「とても必要だと思う」は孤独感をよく感じる層で約2割と、他の層と比べて多くなっています。

○暮らし向きでみると、生活にゆとりのない人ではゆとりのある人に比べて地域とのつながりを重視していない傾向にあり、約4人に1人が「あまり必要だと思わない」と回答しています。

単位：%

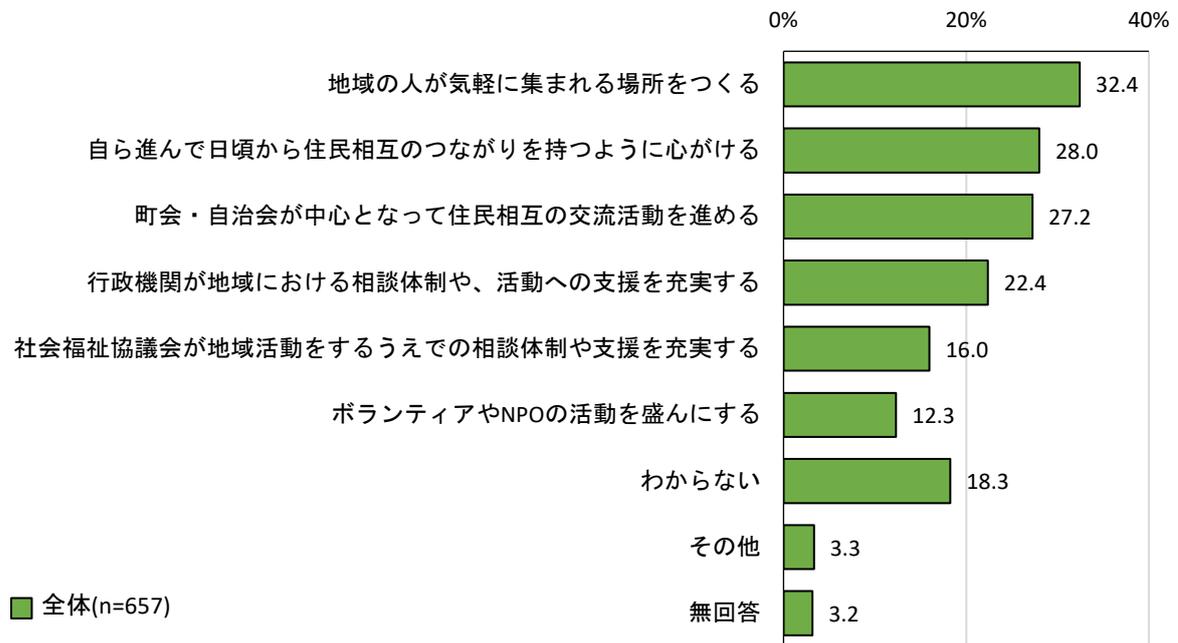
		合計	とても必要だと思う	ある程度必要だと思う	あまり必要だと思わない	必要だと思わない	無回答
全体		830	10.6	68.6	17.5	2.8	0.6
孤独感	よく感じる	24	20.8	45.8	25.0	8.3	0.0
	しばしば感じる	37	10.8	51.4	29.7	5.4	2.7
	たまに感じる	235	8.9	73.2	15.3	1.7	0.9
	まったく感じない	484	11.6	68.2	17.6	2.7	0.0
暮らし向き	ゆとりがある	123	14.6	65.9	16.3	3.3	0.0
	ややゆとりがある	363	11.3	69.1	17.1	2.2	0.3
	やや苦しい	262	7.3	74.0	17.2	1.5	0.0
	苦しい	58	10.3	56.9	25.9	6.9	0.0

(4) 住民の相互扶助に必要なと思う取組

【問10で「1 とても必要だと思う」、「2 ある程度必要だと思う」を回答した方へ】

問10-1 あなたは住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりするためには、どのような取組が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

○住民同士が自主的に支え合ったり助け合ったりするために必要な取組は、「地域の人気軽集まれる場所をつくる」が32.4%で最も多く、以下「自ら進んで日頃から住民相互のつながりを持つように心がける」が28.0%、「町会・自治会が中心となって住民相互の交流活動を進める」が27.2%、「行政機関が地域における相談体制や、活動への支援を充実する」が22.4%などとなっています。



○年齢別で見ると、20歳代で「自ら進んで日頃から住民相互のつながりを持つように心がける」、30歳代から50歳代及び65歳～74歳で「地域の人が気軽に集まれる場所をつくる」、75歳以上で「町会・自治会が中心となって住民相互の交流活動を進める」がそれぞれ最上位に挙げられています。

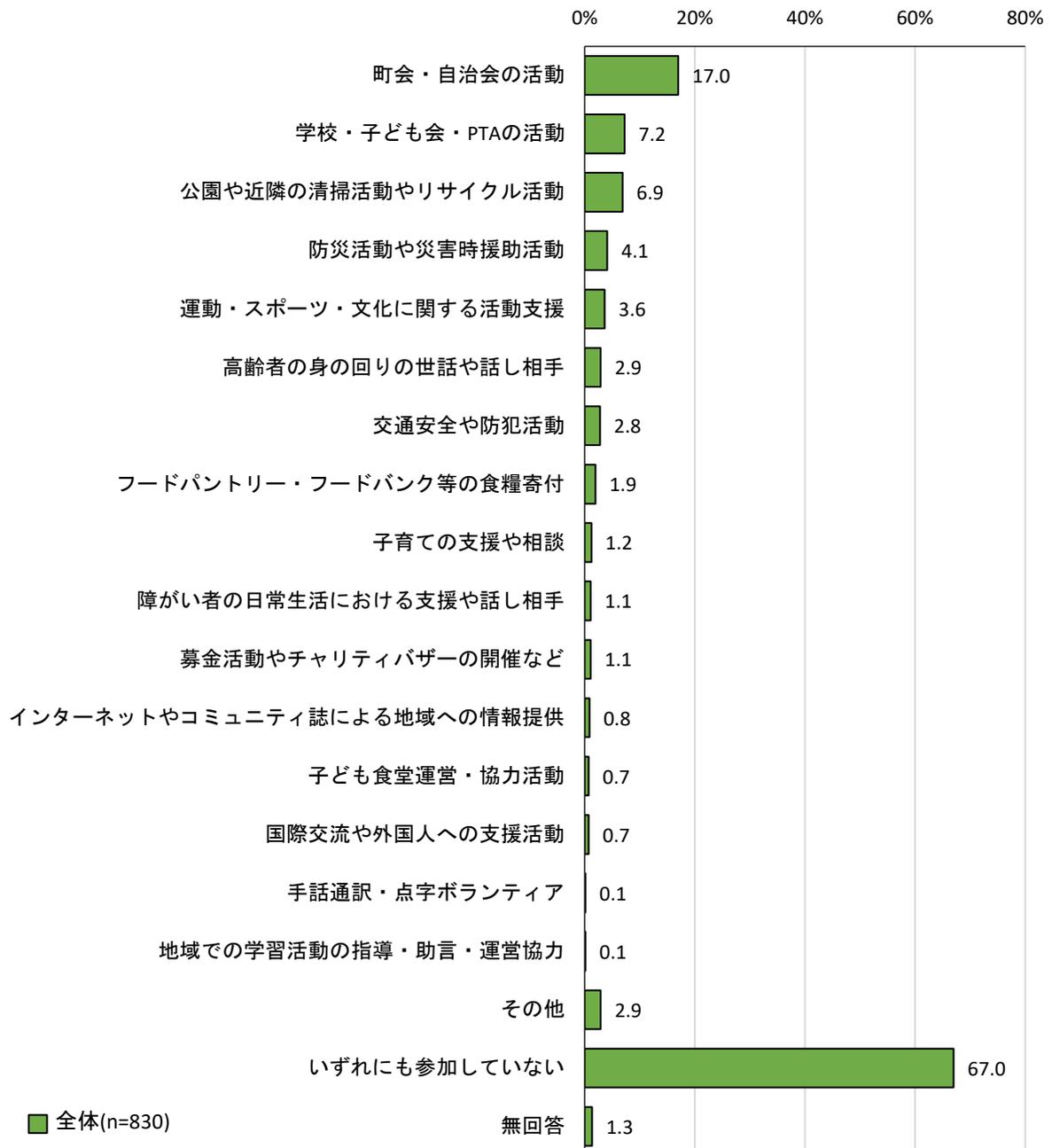
単位：％

	合計	地域の人が気軽に集まれる場所をつくる	自ら進んで日頃から住民相互のつながりを持つように心がける	町会・自治会が中心となって住民相互の交流活動を進める	行政機関が地域における相談体制や、活動への支援を充実する	行政機関が地域における相談体制や、活動への支援を充実する	社会福祉協議会が地域活動をするうえでの相談体制や支援を充実する	ボランティアやその他の活動を盛んにする	わからない	その他	無回答
全体	657	32.4	28.0	27.2	22.4	16.0	12.3	18.3	3.3	3.2	
年齢	20歳未満	6	33.3	16.7	16.7	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0
	20～29歳	37	18.9	24.3	10.8	10.8	13.5	5.4	24.3	10.8	0.0
	30～39歳	54	42.6	37.0	25.9	14.8	16.7	18.5	14.8	3.7	1.9
	40～49歳	79	32.9	30.4	29.1	15.2	11.4	10.1	19.0	6.3	1.3
	50～59歳	99	36.4	29.3	20.2	24.2	14.1	14.1	19.2	5.1	2.0
	60～64歳	70	30.0	30.0	30.0	32.9	27.1	20.0	15.7	1.4	1.4
	65～74歳	159	32.1	27.7	28.3	24.5	14.5	11.3	17.6	1.9	5.0
	75歳以上	151	30.5	23.8	33.8	23.2	15.9	8.6	17.9	1.3	5.3

(5) 地域活動やボランティア活動への参加状況

問11 あなたは過去1年くらいの間に、以下のような地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか。(〇はいくつでも)

○地域活動やボランティア活動への参加状況は、「町会・自治会の活動」が17.0%で最も多く、以下、「学校・子ども会・PTAの活動」が7.2%、「公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動」が6.9%、「防災活動や災害時援助活動」が4.1%などとなっています。一方、「いずれにも参加していない」は67.0%を占めています。



○年齢別で見ると、30歳代及び40歳代で「学校・子ども会・PTAの活動」が最も多く、40歳代では2割を超えています。50歳代以降では「町会・自治会の活動」が年代の高まりとともに多くなっており、75歳以上では約3割となっています。

単位：％

		合計	町会・自治会の活動	学校・子ども会・PTAの活動	公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動	防災活動や災害時援助活動	運動・スポーツ・文化に関する活動支援	高齢者の身の回りの世話や話し相手	交通安全や防犯活動	フードパントリー・フードバンク等の食糧寄付	子育ての支援や相談	障がい者の日常生活における支援や話し相手
	全体	830	17.0	7.2	6.9	4.1	3.6	2.9	2.8	1.9	1.2	1.1
年齢	20歳未満	9	33.3	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1
	20～29歳	66	1.5	3.0	0.0	1.5	4.5	1.5	0.0	0.0	0.0	1.5
	30～39歳	82	9.8	11.0	2.4	2.4	1.2	0.0	0.0	2.4	2.4	1.2
	40～49歳	97	9.3	22.7	6.2	0.0	6.2	1.0	0.0	3.1	1.0	0.0
	50～59歳	129	14.0	10.9	6.2	3.9	4.7	2.3	3.9	3.1	1.6	0.8
	60～64歳	84	19.0	6.0	8.3	3.6	1.2	0.0	3.6	1.2	1.2	2.4
	65～74歳	189	18.5	2.6	5.3	4.2	1.6	6.9	2.6	2.1	1.6	1.6
75歳以上	172	29.7	1.2	13.4	8.7	5.8	3.5	5.8	1.2	0.6	0.0	

		合計	募金活動やチャリティバザーの開催など	インターネットやコミュニティ誌による地域への情報提供	子ども食堂運営・協力活動	国際交流や外国人への支援活動	手話通訳・点字ボランティア	地域での学習活動の指導・助言・運営協力	その他	いずれにも参加していない	無回答
	全体	830	1.1	0.8	0.7	0.7	0.1	0.1	2.9	67.0	1.3
年齢	20歳未満	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	55.6	0.0
	20～29歳	66	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	1.5	87.9	0.0
	30～39歳	82	1.2	0.0	0.0	1.2	1.2	0.0	0.0	76.8	1.2
	40～49歳	97	1.0	2.1	1.0	2.1	0.0	0.0	1.0	64.9	0.0
	50～59歳	129	1.6	1.6	0.8	0.0	0.0	0.0	1.6	69.0	0.8
	60～64歳	84	0.0	1.2	1.2	0.0	0.0	0.0	2.4	65.5	1.2
	65～74歳	189	1.1	0.0	0.5	0.5	0.0	0.0	3.2	68.8	1.6
75歳以上	172	1.7	1.2	1.2	0.6	0.0	0.6	6.4	52.9	2.9	

○近所との関わり方でみると、近所付き合いが活発なほど地域活動に参加する割合が高く、親しい近所付き合いのある人では約7割が何らかの地域活動等に参加しています。参加内容は「町会・自治会の活動」が半数超えで最も多く、次いで「公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動」が2割台半ばとなっています。

単位：%

	合計	町会・自治会の活動	学校・子ども会・PTAの活動	公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動	防災活動や災害時援助活動	運動・スポーツ・文化に関する活動支援	高齢者の身の回りの世話や話し相手	交通安全や防犯活動	フードパントリー・フードバンク等の食糧寄付	子育ての支援や相談	障がい者の日常生活における支援や話し相手	
全体	830	17.0	7.2	6.9	4.1	3.6	2.9	2.8	1.9	1.2	1.1	
近所との関わり方	親しく付き合っている	67	53.7	16.4	25.4	19.4	11.9	11.9	16.4	0.0	4.5	1.5
	立ち話をする程度	186	32.3	7.0	12.9	7.5	4.8	3.2	2.7	1.6	1.1	
	あいさつをする程度	405	9.9	7.9	2.7	1.2	2.0	2.2	1.5	1.7	1.0	1.5
	ほとんど付き合いがない	167	1.8	2.4	2.4	0.6	3.0	0.6	0.6	2.4	0.0	0.0

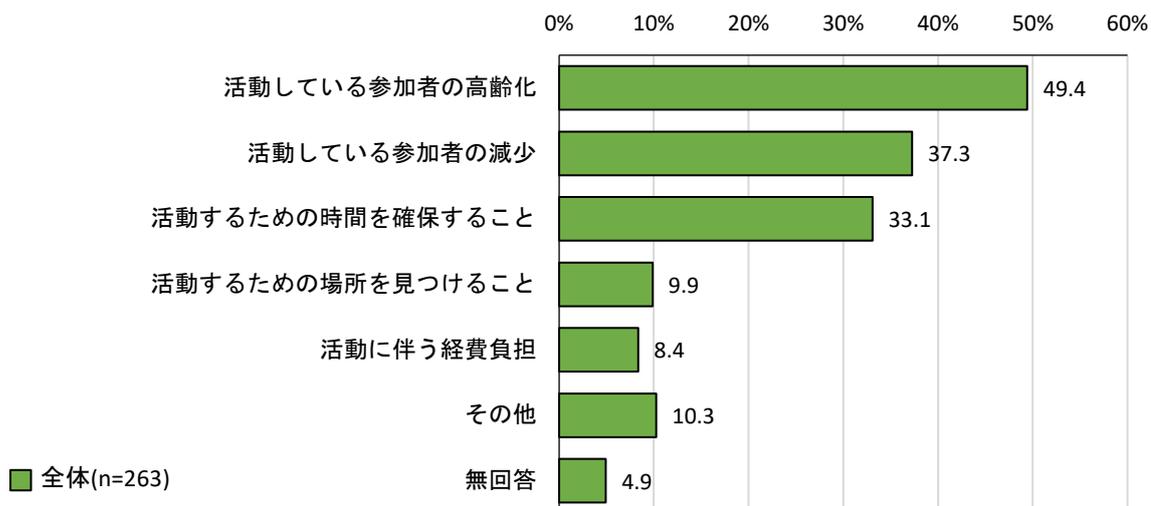
	合計	開催など 募金活動やチャリティバザーの開催など	インターネットやコミュニティ誌による地域への情報提供	子ども食堂運営・協力活動	国際交流や外国人への支援活動	手話通訳・点字ボランティア	運営協力 地域での学習活動の指導・助言・	その他	いずれにも参加していない	無回答
全体	830	1.1	0.8	0.7	0.7	0.1	0.1	2.9	67.0	1.3
近所との関わり方	親しく付き合っている	67	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	28.4	1.5
	立ち話をする程度	186	0.5	1.6	1.1	0.0	0.0	3.2	51.1	0.5
	あいさつをする程度	405	1.0	0.7	1.0	0.7	0.2	2.7	73.6	1.0
	ほとんど付き合いがない	167	0.6	0.6	0.0	1.8	0.0	1.8	85.0	2.4

(6) 地域活動やボランティア活動で課題や負担に感じること

【問11で1～17を回答した方へ】

問11-1 活動を行う上での課題や負担に感じていることはどれですか。(〇はいくつでも)

○地域活動やボランティア活動で課題や負担に感じることは、「活動している参加者の高齢化」が49.4%で最も多く、以下「活動している参加者の減少」が37.3%、「活動するための時間を確保すること」が33.1%、「活動するための場所を見つけること」が9.9%、「活動に伴う経費負担」が8.4%となっています。



○年齢別でみると、60歳代以降の高齢世代において「活動している参加者の高齢化」が5割超えから6割半ばで最も多く挙げられています。一方、30歳代から50歳代の働き世代では「活動するための時間を確保すること」が最も多く、30歳代では8割弱、40歳代及び50歳代では過半数を占めています。

単位: %

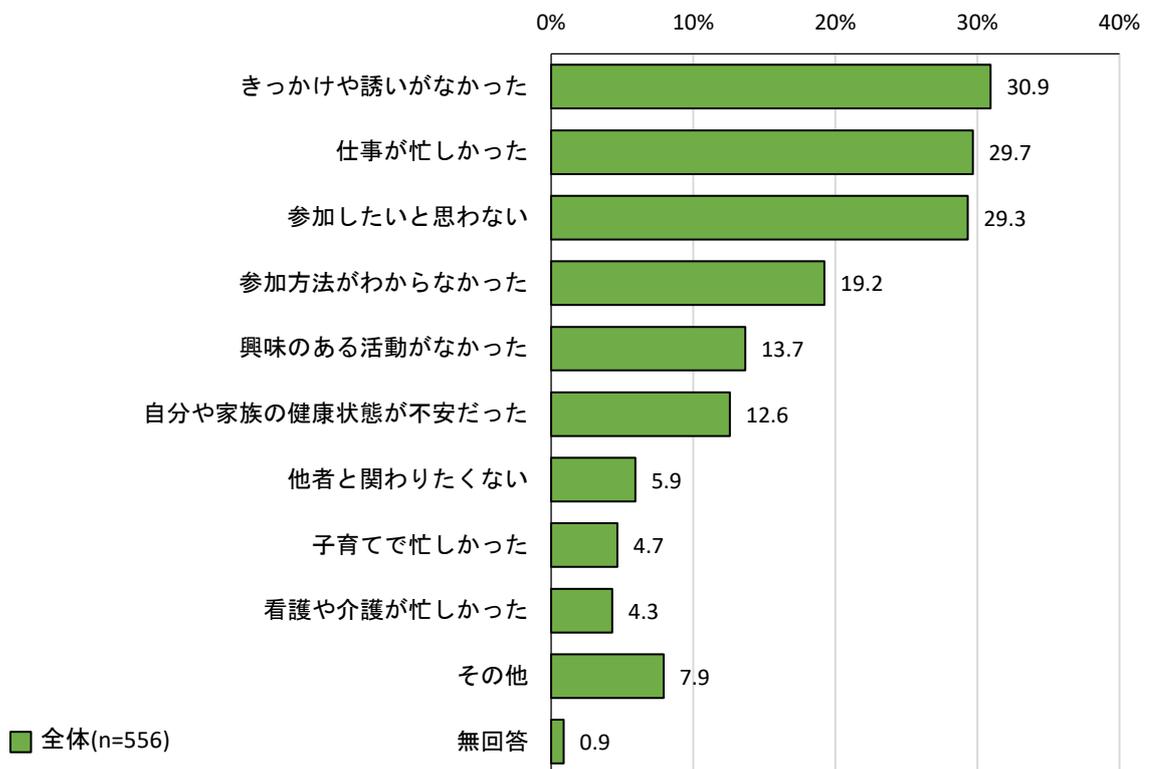
年齢	合計	活動している参加者の高齢化	活動している参加者の減少	活動するための時間を確保すること	活動するための場所を見つけること	活動に伴う経費負担	その他	無回答
全体	263	49.4	37.3	33.1	9.9	8.4	10.3	4.9
20歳未満	4	0.0	25.0	50.0	0.0	25.0	25.0	0.0
20～29歳	8	37.5	0.0	37.5	37.5	12.5	0.0	0.0
30～39歳	18	16.7	38.9	77.8	5.6	11.1	0.0	0.0
40～49歳	34	23.5	38.2	55.9	17.6	8.8	8.8	5.9
50～59歳	39	35.9	25.6	53.8	10.3	7.7	10.3	5.1
60～64歳	28	53.6	53.6	35.7	7.1	10.7	3.6	7.1
65～74歳	56	66.1	42.9	17.9	8.9	8.9	12.5	1.8
75歳以上	76	65.8	36.8	10.5	6.6	5.3	14.5	7.9

(7) 地域活動やボランティア活動に参加しなかった理由

【問11で18を回答した方へ】

問11-2 あなたが参加しなかった理由はなんですか。(〇はいくつでも)

○地域活動やボランティア活動に参加しなかった理由は、「きっかけや誘いがなかった」が30.9%で最も多く、以下「仕事が忙しかった」が29.7%、「参加したいと思わない」が29.3%、「参加方法がわからなかった」が19.2%などとなっています。



○年齢別で見ると、30歳代、50歳代、60～64歳では「仕事が忙しかった」が3割台半ばから4割台半ばで最も多く、20歳代、40歳代では「きっかけや誘いがなかった」が4割弱で最多となっています。一方で、「参加したいと思わない」は20歳未満、50歳代を除いた各年代でそれぞれ約3割となっています。

単位：%

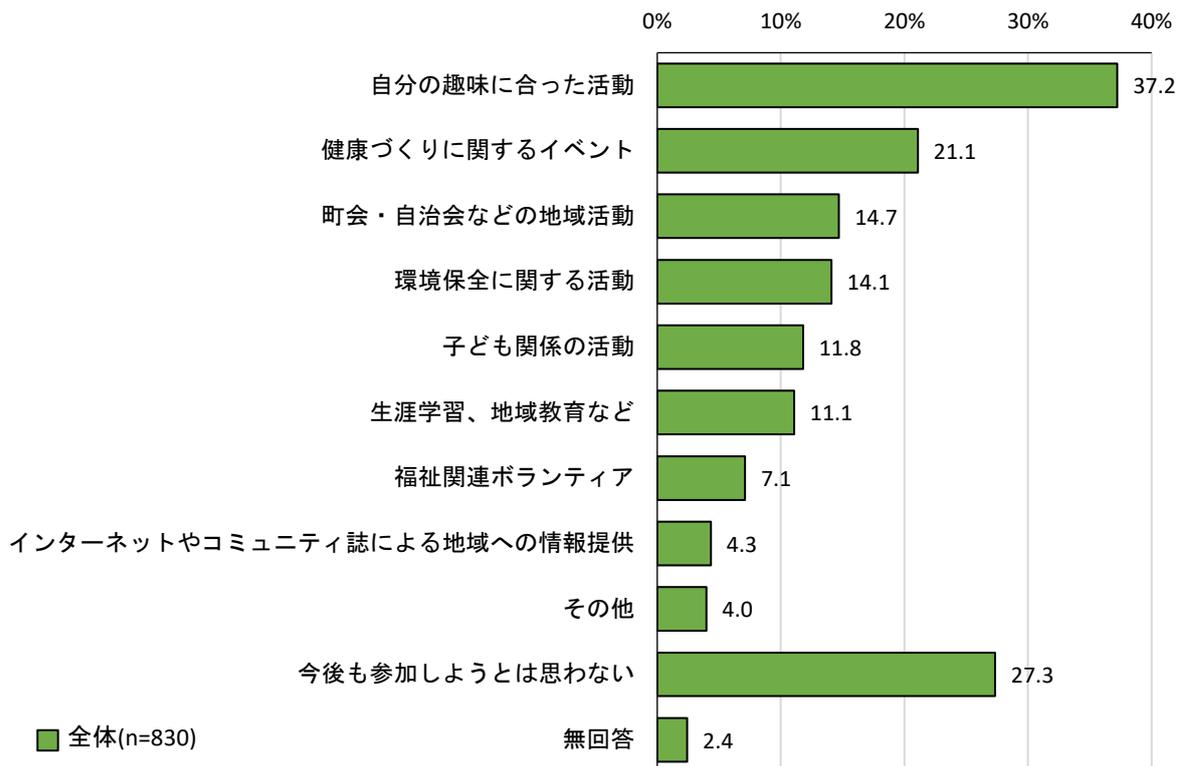
		合計	きっかけや誘いがなかった	仕事が忙しかった	参加方法がわからなかった	興味のある活動がなかった	自分や家族の健康状態が不安だった	他者と関わりたくない	子育てで忙しかった	看護や介護が忙しかった	参加したいと思わない	その他	無回答
全体		556	30.9	29.7	19.2	13.7	12.6	5.9	4.7	4.3	29.3	7.9	0.9
年齢	20歳未満	5	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0
	20～29歳	58	37.9	29.3	24.1	15.5	0.0	5.2	1.7	0.0	29.3	12.1	0.0
	30～39歳	63	33.3	34.9	22.2	15.9	3.2	7.9	9.5	1.6	33.3	3.2	0.0
	40～49歳	63	38.1	33.3	20.6	15.9	6.3	9.5	20.6	1.6	33.3	7.9	0.0
	50～59歳	89	36.0	44.9	22.5	12.4	12.4	10.1	3.4	5.6	22.5	5.6	0.0
	60～64歳	55	30.9	45.5	21.8	9.1	16.4	0.0	1.8	16.4	29.1	5.5	0.0
	65～74歳	130	27.7	22.3	16.2	13.1	16.9	3.8	0.0	2.3	30.8	10.8	2.3
	75歳以上	91	20.9	9.9	12.1	14.3	24.2	4.4	2.2	5.5	27.5	8.8	2.2

(8) 今後参加したい地域活動やボランティア活動

問12 今後、どのような地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。

(○はいくつでも)

○今後参加したい地域活動やボランティア活動は、「自分の趣味に合った活動」が37.2%で最も多く、以下「健康づくりに関するイベント」が21.1%、「町会・自治会などの地域活動」が14.7%などとなっています。一方、「今後も参加しようとは思わない」は27.3%となっています。



○年齢別で見ると、30歳代を除いたすべての年代において「自分の趣味に合った活動」が最多となっています。高齢世代では「健康づくりに関するイベント」への関心が高く、60歳代では約3割、75歳以上では年代でいずれも2割を超えています。30歳代と40歳代では「子ども関係の活動」が2割台と他年代より割合が高くなっています。一方で、「今後も参加しようとは思わない」は30歳代で4割弱と最も多くなっています。

単位：%

		合計	自分の趣味に合った活動	健康づくりに関するイベント	町会・自治会などの地域活動	環境保全に関する活動	子ども関係の活動	生涯学習、地域教育など
全体		830	37.2	21.1	14.7	14.1	11.8	11.1
年齢	20歳未満	9	44.4	11.1	33.3	22.2	44.4	11.1
	20～29歳	66	43.9	7.6	6.1	9.1	3.0	10.6
	30～39歳	82	32.9	17.1	11.0	11.0	25.6	15.9
	40～49歳	97	40.2	19.6	12.4	10.3	22.7	10.3
	50～59歳	129	37.2	12.4	16.3	13.2	14.7	13.2
	60～64歳	84	47.6	29.8	10.7	14.3	9.5	19.0
	65～74歳	189	29.1	28.6	18.0	15.9	10.1	11.1
	75歳以上	172	38.4	23.8	17.4	18.0	1.7	4.1

		合計	福祉関連ボランティア	誌による地域への情報提供	インターネットやコミュニティ	その他	今後も参加しようとは思わない	無回答
全体		830	7.1	4.3	4.0	27.3	2.4	
年齢	20歳未満	9	11.1	11.1	0.0	22.2	0.0	
	20～29歳	66	6.1	1.5	6.1	30.3	1.5	
	30～39歳	82	2.4	3.7	0.0	37.8	1.2	
	40～49歳	97	8.2	8.2	2.1	24.7	0.0	
	50～59歳	129	7.8	7.0	3.1	31.0	1.6	
	60～64歳	84	10.7	7.1	4.8	21.4	2.4	
	65～74歳	189	9.0	2.6	4.2	28.0	2.6	
	75歳以上	172	4.7	1.7	6.4	22.1	5.2	

○家族構成でみると、二世帯世帯（18歳未満の子どもと同居）において「子ども関係の活動」が4割超えと突出して多くなっています。また、単身世帯では「今後も参加しようとは思わない」が34.4%と、3人に1人が地域活動等に消極的であることがうかがえます。

単位：%

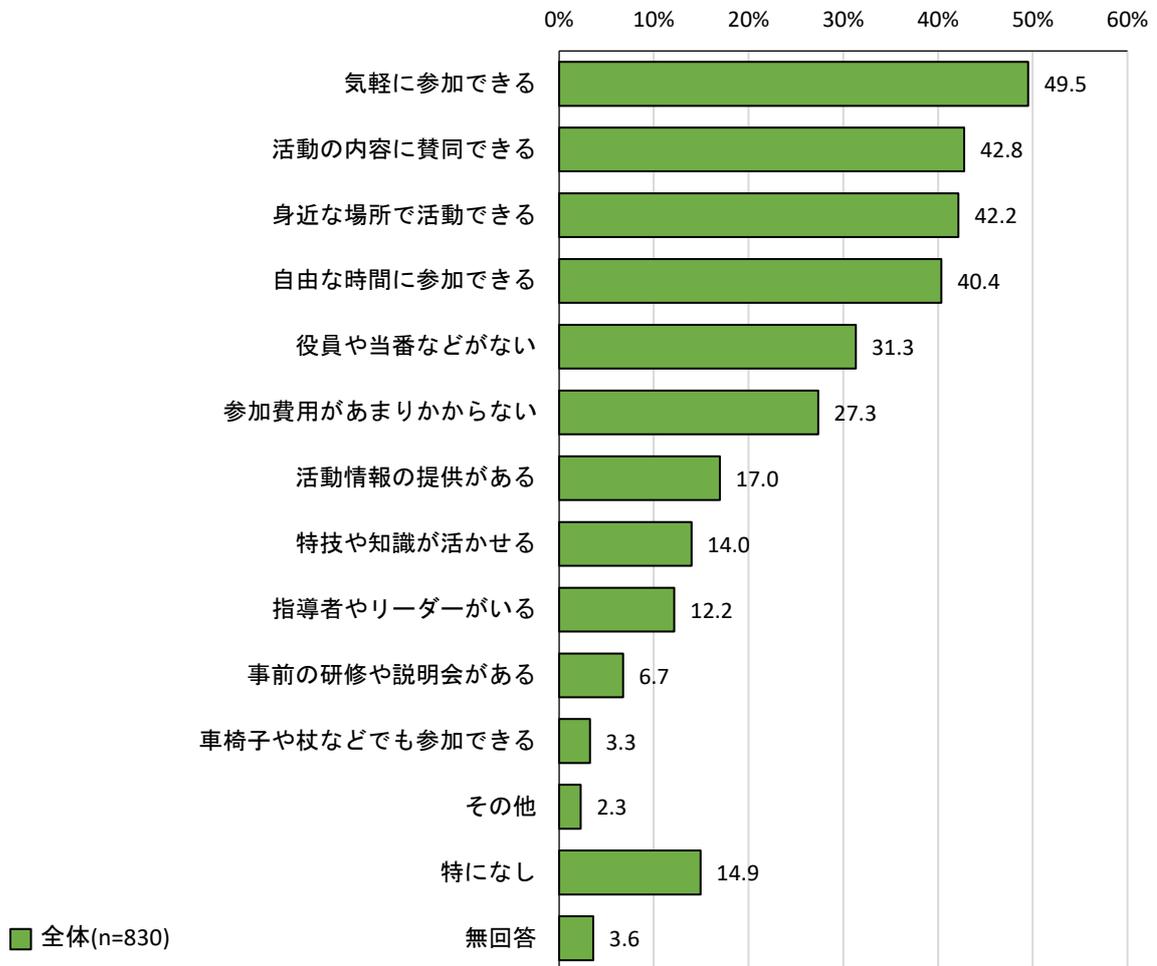
	合計	自分の趣味に合った活動	健康づくりに関するイベント	町会・自治会などの地域活動	環境保全に関する活動	子ども関係の活動	生涯学習、地域教育など	
全体	830	37.2	21.1	14.7	14.1	11.8	11.1	
家族構成	単身（ひとり暮らし）	186	35.5	21.0	6.5	12.4	4.3	10.8
	夫婦のみ	250	36.8	19.6	18.4	17.6	8.8	11.2
	二世帯世帯（18歳未満の子どもと同居）	113	38.9	19.5	19.5	8.8	41.6	15.0
	二世帯世帯（その他）	213	39.4	23.0	15.0	14.6	8.5	10.8
	三世帯世帯（18歳未満の子どもと同居）	10	50.0	40.0	20.0	30.0	0.0	10.0
	三世帯世帯（その他）	20	45.0	35.0	25.0	20.0	10.0	0.0
	兄弟姉妹と同居	8	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	その他	22	13.6	4.5	4.5	9.1	4.5	9.1

	合計	福祉関連ボランティア	インターネットやコミュニティ誌による地域への情報提供	その他	今後も参加しようとは思わない	無回答	
全体	830	7.1	4.3	4.0	27.3	2.4	
家族構成	単身（ひとり暮らし）	186	5.4	5.9	2.7	34.4	3.8
	夫婦のみ	250	6.8	3.2	5.2	25.2	2.8
	二世帯世帯（18歳未満の子どもと同居）	113	8.0	6.2	0.9	20.4	0.0
	二世帯世帯（その他）	213	8.5	3.3	3.8	25.8	1.9
	三世帯世帯（18歳未満の子どもと同居）	10	10.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	三世帯世帯（その他）	20	10.0	10.0	5.0	30.0	0.0
	兄弟姉妹と同居	8	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	その他	22	9.1	4.5	22.7	36.4	4.5

(9) 地域活動やボランティア活動に求めること

問13 あなたが活動へ参加するに当たって求めることは何ですか。(〇はいくつでも)

○地域活動やボランティア活動に求めることは、「気軽に参加できる」が49.5%で最も多く、以下「活動の内容に賛同できる」が42.8%、「身近な場所で活動できる」が42.2%、「自由な時間に参加できる」が40.4%などとなっています。



○年齢別で見ると、「気軽に参加できる」は75歳以上を除いたすべての年代で最も多く、75歳以上では「身近な場所で活動できる」が最も多くなっています。「自由な時間に参加できる」は30歳代、40歳代、60～64歳代で5割超えと他年代より多く、「身近な場所で活動できる」は、30歳代以下と比べて40歳代以上での割合が高くなっています。

単位：%

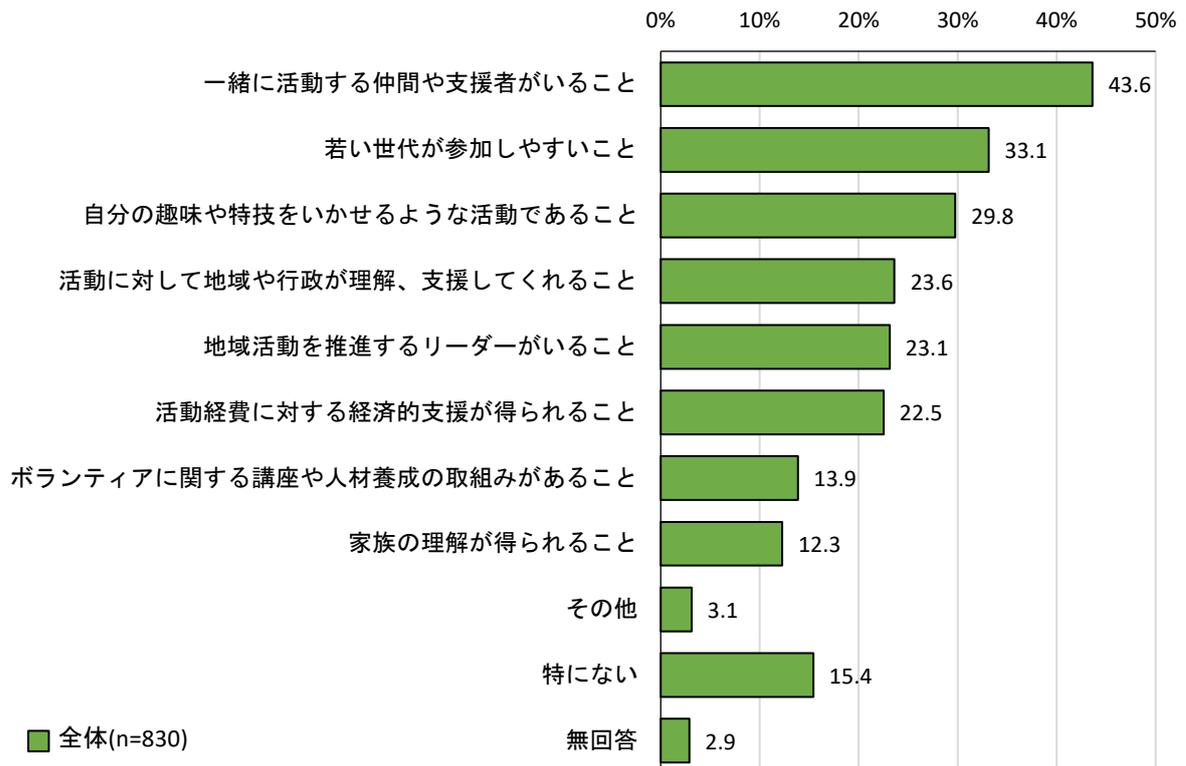
		合計	気軽に参加できる	活動の内容に賛同できる	身近な場所で活動できる	自由な時間に参加できる	役員や当番などがない	参加費用があまりかからない	活動情報の提供がある
全体		830	49.5	42.8	42.2	40.4	31.3	27.3	17.0
年齢	20歳未満	9	55.6	22.2	33.3	33.3	22.2	44.4	33.3
	20～29歳	66	42.4	39.4	28.8	30.3	34.8	34.8	18.2
	30～39歳	82	54.9	51.2	32.9	50.0	34.1	35.4	22.0
	40～49歳	97	59.8	53.6	51.5	52.6	37.1	40.2	22.7
	50～59歳	129	52.7	46.5	41.1	41.1	37.2	25.6	16.3
	60～64歳	84	59.5	54.8	46.4	53.6	45.2	35.7	25.0
	65～74歳	189	48.1	44.4	47.1	42.9	27.0	21.7	16.4
	75歳以上	172	38.4	25.0	40.7	23.8	19.2	15.7	7.6

		合計	特技や知識が活かせる	指導者やリーダーがいる	事前の研修や説明会がある	車椅子や杖などでも参加できる	その他	特になし	無回答
全体		830	14.0	12.2	6.7	3.3	2.3	14.9	3.6
年齢	20歳未満	9	33.3	0.0	0.0	11.1	11.1	22.2	0.0
	20～29歳	66	10.6	6.1	1.5	1.5	1.5	16.7	0.0
	30～39歳	82	14.6	11.0	4.9	0.0	6.1	14.6	1.2
	40～49歳	97	16.5	12.4	3.1	1.0	3.1	7.2	0.0
	50～59歳	129	16.3	7.0	3.9	3.1	0.8	13.2	1.6
	60～64歳	84	20.2	16.7	15.5	1.2	2.4	9.5	0.0
	65～74歳	189	13.8	16.9	12.2	5.3	1.6	15.9	5.3
	75歳以上	172	8.1	12.2	4.1	5.2	1.7	20.9	9.9

(10) 地域活動やボランティア活動の活性化に必要なこと

問14 今後、地域活動やボランティア活動を活性化していくためには何が必要だと思いますか。
(〇はいくつでも)

○地域活動やボランティア活動の活性化に必要なことは、「一緒に活動する仲間や支援者がいること」が43.6%で最も多く、以下「若い世代が参加しやすいこと」が33.1%、「自分の趣味や特技をいかせるような活動であること」が29.8%、「活動に対して地域や行政が理解、支援してくれること」が23.6%などとなっています。



○年齢別でみると、20歳未満から30歳代までの若年世代では「若い世代が参加しやすいこと」が、40歳代以降では「一緒に活動する仲間や支援者がいること」がそれぞれ最も多くなっています。

単位：%

		合計	一緒に活動する仲間や支援者がいること	若い世代が参加しやすいこと	自分の趣味や特技をいかせるような活動であること	活動に対して地域や行政が理解、支援してくれること	地域活動を推進するリーダーがいること	活動経費に対する経済的支援が得られること
全体		830	43.6	33.1	29.8	23.6	23.1	22.5
年齢	20歳未満	9	33.3	66.7	33.3	22.2	11.1	22.2
	20～29歳	66	45.5	48.5	22.7	15.2	16.7	18.2
	30～39歳	82	36.6	54.9	24.4	19.5	14.6	30.5
	40～49歳	97	50.5	40.2	32.0	27.8	21.6	29.9
	50～59歳	129	43.4	29.5	30.2	27.9	20.2	28.7
	60～64歳	84	50.0	33.3	41.7	31.0	31.0	34.5
	65～74歳	189	41.3	24.9	28.0	23.8	23.3	18.5
	75歳以上	172	42.4	23.3	29.7	19.2	29.7	9.9

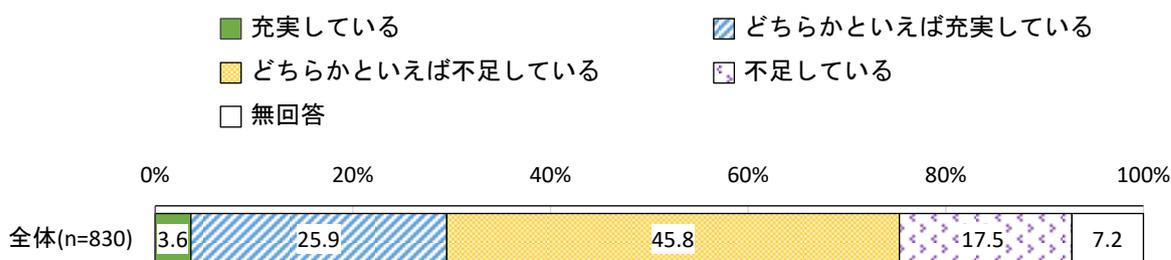
		合計	ボランティアに関する講座や人材養成の取組みがあること	家族の理解が得られること	その他	特にない	無回答
全体		830	13.9	12.3	3.1	15.4	2.9
年齢	20歳未満	9	11.1	22.2	0.0	11.1	0.0
	20～29歳	66	4.5	7.6	4.5	7.6	0.0
	30～39歳	82	19.5	13.4	7.3	12.2	1.2
	40～49歳	97	12.4	14.4	3.1	10.3	0.0
	50～59歳	129	15.5	11.6	2.3	15.5	1.6
	60～64歳	84	25.0	25.0	4.8	9.5	1.2
	65～74歳	189	17.5	9.5	1.6	21.7	3.7
	75歳以上	172	5.2	9.3	2.3	18.6	7.6

(11) 公共施設における休憩スペースの充実度

問15 板橋区の公共施設には、気軽に立ち寄れる休憩スペースが充実していると思いますか。

(○は1つだけ)

○公共施設における休憩スペースの充実度は、「どちらかといえば不足している」が45.8%で最も多く、以下「どちらかといえば充実している」が25.9%、「不足している」が17.5%、「充実している」が3.6%となっています。



○年齢別でみると、20歳未満を除いた各年代において「どちらかといえば不足している」が最も多く、20歳代から64歳までの各年代においては「不足している」と合わせると約7割を占めています。

○居住地区でみると、「どちらかといえば充実している」は志村で3割を超え、他地区よりやや高くなっています。一方、「どちらかといえば不足している」は高島平で半数を超え、「不足している」と合わせると7割近くにのぼります。

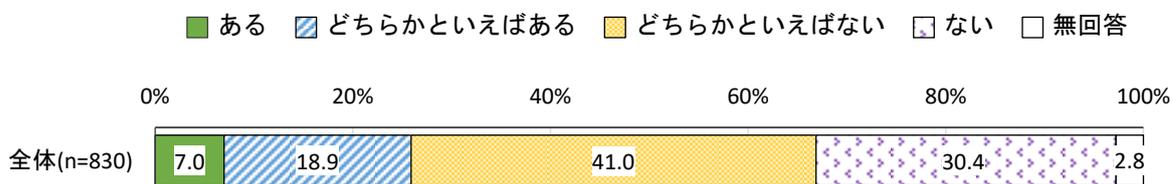
単位: %

		合計	充実している	どちらかといえば充実している	どちらかといえば不足している	不足している	無回答
全体		830	3.6	25.9	45.8	17.5	7.2
年齢	20歳未満	9	0.0	55.6	22.2	22.2	0.0
	20～29歳	66	7.6	24.2	48.5	18.2	1.5
	30～39歳	82	4.9	28.0	48.8	15.9	2.4
	40～49歳	97	4.1	23.7	52.6	17.5	2.1
	50～59歳	129	2.3	27.1	48.1	17.1	5.4
	60～64歳	84	0.0	28.6	46.4	19.0	6.0
	65～74歳	189	3.2	27.0	42.9	18.5	8.5
	75歳以上	172	4.7	21.5	41.9	16.3	15.7
居住地区	板橋	229	7.0	23.6	42.4	20.1	7.0
	常盤台	116	2.6	25.9	48.3	17.2	6.0
	志村	158	3.2	31.0	45.6	15.2	5.1
	赤塚	152	2.6	26.3	44.1	20.4	6.6
	高島平	161	1.2	22.4	52.2	14.9	9.3

(12) 地域の居場所

問16 あなたは、地域に気軽に立ち寄れる居場所があると思いますか。(○は1つだけ)

○地域の居場所は、「どちらかといえばない」が41.0%で最も多く、以下「ない」が30.4%、「どちらかといえばある」が18.9%、「ある」が7.0%となっています。



○年齢別でみると、20歳未満では、「どちらかといえばある」が最も多く、「ある」を合わせると6割台半ばとなりますが、20歳以上のすべての年代では「どちらかといえばない」が最も多く、「ない」と合わせると6割台半ばから8割近くにのぼります。

○居住地区でみると、「どちらかといえばない」は高島平で46.0%、「ない」は赤塚で36.8%とそれぞれ多くなっています。両項目を合わせると、赤塚で76.3%、高島平で74.0%、板橋で70.3%が気軽に立ち寄れる居場所がないと回答しています。

単位: %

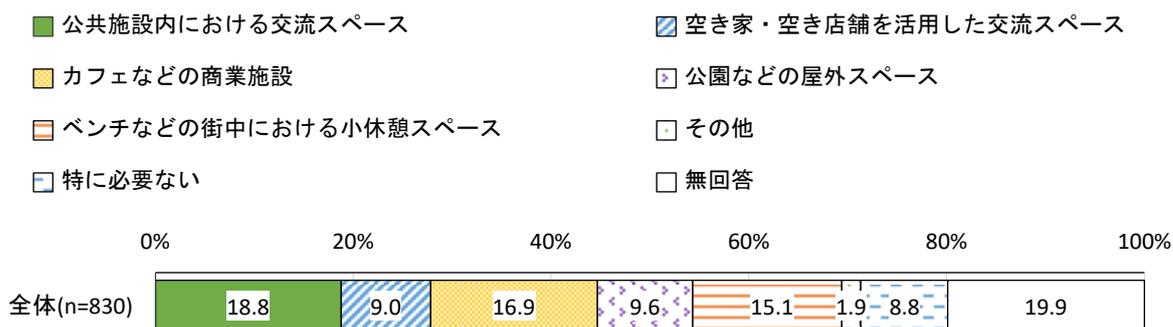
		合計	ある	どちらか かとい えばあ る	どちらか かとい えばな い	ない	無 回 答
全体		830	7.0	18.9	41.0	30.4	2.8
年 齢	20歳未満	9	11.1	55.6	0.0	33.3	0.0
	20～29歳	66	12.1	21.2	33.3	33.3	0.0
	30～39歳	82	7.3	19.5	40.2	31.7	1.2
	40～49歳	97	6.2	18.6	40.2	35.1	0.0
	50～59歳	129	3.1	18.6	41.1	34.9	2.3
	60～64歳	84	3.6	16.7	50.0	27.4	2.4
	65～74歳	189	7.4	16.4	47.6	24.3	4.2
	75歳以上	172	9.3	19.8	34.9	30.8	5.2
居 住 地 区	板橋	229	9.2	18.8	39.7	30.6	1.7
	常盤台	116	6.9	19.8	37.1	31.9	4.3
	志村	158	8.2	22.8	41.8	25.9	1.3
	赤塚	152	4.6	16.4	39.5	36.8	2.6
	高島平	161	5.0	17.4	46.0	28.0	3.7

(13) 地域の交流の場として望む場所

問17 地域の交流の場として、どのような場所があると良いと思いますか。

(○は最も必要と思う場所1つだけ)

○地域の交流の場として望む場所は、「公共施設内における交流スペース」が18.8%で最も多く、以下「カフェなどの商業施設」が16.9%、「ベンチなどの街中における小休憩スペース」が15.1%、「公園などの屋外スペース」が9.6%、「空き家・空き店舗を活用した交流スペース」が9.0%となっています。



○年齢別でみると、20歳代から50歳代までの各年代において「カフェなどの商業施設」が、60歳代以上では「公共施設内における交流スペース」が最も多くなっています。また、20歳未満及び65歳以上では、約2割が「ベンチなどの街中における小休憩スペース」を挙げています。

単位: %

	合計	公共施設内における交流スペース	空き家・空き店舗を活用した交流スペース	カフェなどの商業施設	公園などの屋外スペース	ベンチなどの街中における小休憩スペース	その他	特に必要ない	無回答	
全体	830	18.8	9.0	16.9	9.6	15.1	1.9	8.8	19.9	
年齢	20歳未満	9	11.1	11.1	22.2	11.1	22.2	0.0	11.1	11.1
	20～29歳	66	6.1	13.6	36.4	7.6	12.1	3.0	7.6	13.6
	30～39歳	82	13.4	13.4	23.2	14.6	8.5	1.2	3.7	22.0
	40～49歳	97	9.3	13.4	24.7	11.3	9.3	3.1	6.2	22.7
	50～59歳	129	17.1	9.3	22.5	7.0	13.2	2.3	8.5	20.2
	60～64歳	84	25.0	6.0	14.3	10.7	9.5	2.4	8.3	23.8
	65～74歳	189	22.8	6.9	8.5	9.0	19.0	1.6	13.2	19.0
75歳以上	172	25.6	6.4	8.1	9.3	22.1	1.2	8.7	18.6	

○居住地区でみると、常盤台以外のすべての地区で「公共施設内における交流スペース」が2割前後で最多となっており、常盤台では「カフェなどの商業施設」が最も多く挙げられています。また、高島平では「公共施設内における交流スペース」と「ベンチなどの街中における小休憩スペース」が同率で最も多くなっています。

単位：%

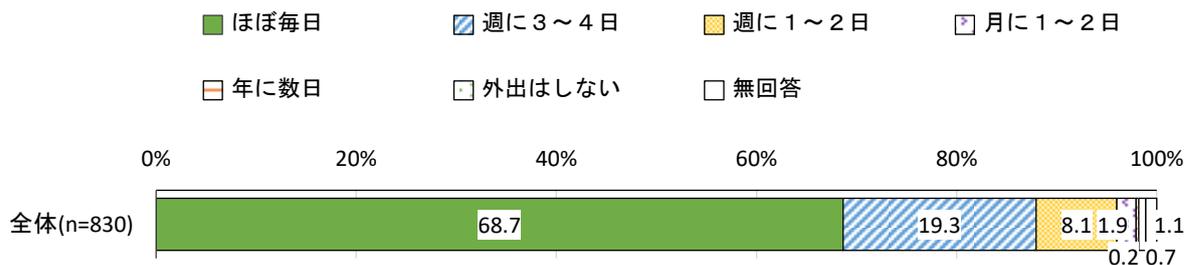
	合計	公共施設内における交流スペース	空き家・空き店舗を活用した交流スペース	カフェなどの商業施設	公園などの屋外スペース	ベンチなどの街中における小休憩スペース	その他	特に必要ない	無回答	
全体	830	18.8	9.0	16.9	9.6	15.1	1.9	8.8	19.9	
居住地区	板橋	229	20.1	6.6	16.2	12.7	18.8	0.9	7.4	17.5
	常盤台	116	9.5	10.3	20.7	9.5	12.9	3.4	8.6	25.0
	志村	158	20.3	13.9	17.1	7.0	10.8	1.3	8.9	20.9
	赤塚	152	23.0	7.2	15.8	11.2	13.8	2.6	8.6	17.8
	高島平	161	17.4	8.1	16.8	7.5	17.4	1.9	11.2	19.9

5 日常生活の課題について

(1) 日常的な外出頻度

問18 あなたは、日常どのくらい外出していますか。(通勤・通学を含む) (○は1つだけ)

○日常的な外出頻度は、「ほぼ毎日」が68.7%で最も多く、以下「週に3～4日」が19.3%、「週に1～2日」が8.1%、「月に1～2日」が1.9%、「年に数日」が0.2%となっています。一方、「外出はしない」は0.7%となっています。



○年齢別でみると、すべての年代で「ほぼ毎日」が最多となっていますが、40歳代以降では年代が上がるにつれて割合が低くなっています。65歳以上の年代では「週に3～4日」や「週に1～2日」の割合が65歳未満と比べてやや高くなっています。

○世帯年収でみると、「ほぼ毎日」は200万円未満の世帯で5割台半ば、200～400万円未満の世帯で約7割、400～700万円未満の世帯で7割台半ば、700万円以上の世帯で8割弱と、世帯年収が高いほど外出する割合が高くなっています。

単位: %

		合計	ほぼ毎日	週に3～4日	週に1～2日	月に1～2日	年に数日	外出はしない	無回答
全体		830	68.7	19.3	8.1	1.9	0.2	0.7	1.1
年齢	20歳未満	9	88.9	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	66	69.7	18.2	10.6	1.5	0.0	0.0	0.0
	30～39歳	82	75.6	15.9	3.7	2.4	0.0	1.2	1.2
	40～49歳	97	84.5	12.4	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	50～59歳	129	82.2	11.6	4.7	0.8	0.0	0.0	0.8
	60～64歳	84	78.6	13.1	3.6	2.4	0.0	2.4	0.0
	65～74歳	189	60.3	24.3	10.6	1.6	1.1	0.5	1.6
	75歳以上	172	49.4	28.5	14.5	4.1	0.0	1.2	2.3
世帯年収	0～200万円未満	235	56.6	23.8	13.2	2.6	0.4	1.7	1.7
	200～400万円未満	218	69.7	19.3	9.2	1.4	0.0	0.0	0.5
	400～700万円未満	173	76.9	16.8	3.5	2.3	0.0	0.0	0.6
	700万円以上	171	78.9	15.2	4.1	1.2	0.0	0.6	0.0

○孤独感でみると、「ほぼ毎日」は孤独をよく感じる層で6割弱、しばしば感じる層で6割強、たまに感じる層で7割弱、まったく感じない層で7割と、孤独を感じる頻度が少ないほど毎日の外出頻度が高くなっています。

○暮らし向きでみると、「ほぼ毎日」は生活が苦しいと感じる層を除いたすべての層で7割前後となっていますが、生活が苦しいと感じる層では5割台半ばにとどまります。また、生活が苦しいと感じる層では「週に1～2日」が約2割と他の層より高くなっています。

○近所との関わり方でみると、「ほぼ毎日」と「週に3～4日」を合わせた『週に3～4日以上』は、親しい近所付き合いのある人で92.5%ですが、ほとんど近所付き合いのない人では83.9%であり、近所付き合いの活発な人ほど毎日の外出頻度が高いことがうかがえます。

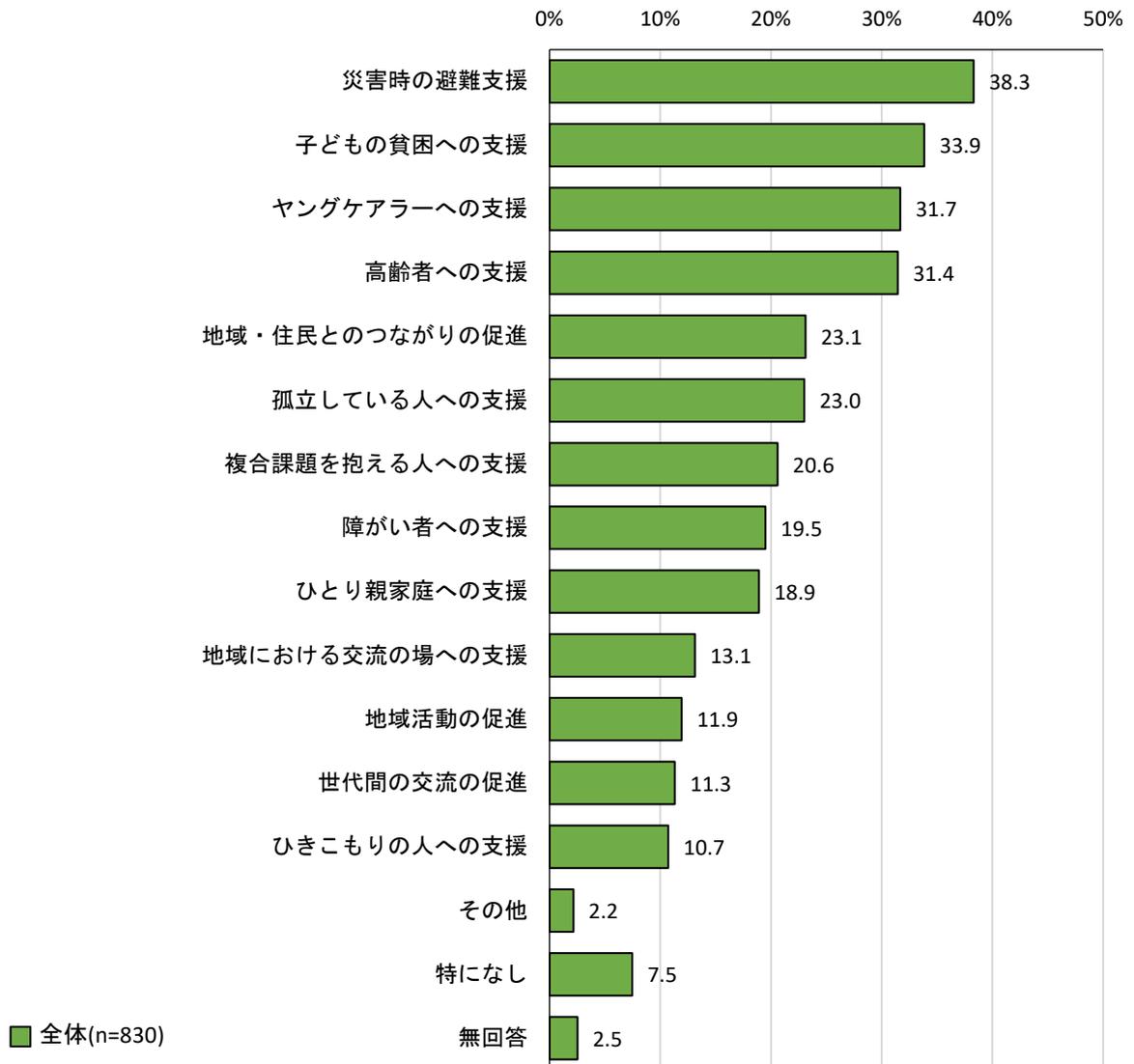
単位：%

		合計	ほぼ毎日	週に3～4日	週に1～2日	月に1～2日	年に数日	外出はしない	無回答
全体		830	68.7	19.3	8.1	1.9	0.2	0.7	1.1
孤独感	よく感じる	24	58.3	12.5	16.7	4.2	0.0	4.2	4.2
	しばしば感じる	37	62.2	18.9	10.8	5.4	0.0	2.7	0.0
	たまに感じる	235	68.9	20.0	6.8	2.1	0.9	0.4	0.9
	まったく感じない	484	70.2	19.0	7.9	1.4	0.0	0.4	1.0
暮らし向き	ゆとりがある	123	72.4	17.1	8.9	0.8	0.0	0.0	0.8
	ややゆとりがある	363	69.7	20.7	6.9	1.9	0.0	0.6	0.3
	やや苦しい	262	70.2	19.8	5.3	1.9	0.8	0.4	1.5
	苦しい	58	55.2	13.8	19.0	5.2	0.0	5.2	1.7
近所との関わり方	親しく付き合っている	67	71.6	20.9	4.5	1.5	0.0	0.0	1.5
	立ち話をする程度	186	64.5	23.7	8.6	1.6	0.5	0.0	1.1
	あいさつをする程度	405	70.4	18.5	8.6	1.5	0.0	0.2	0.7
	ほとんど付き合いがない	167	68.3	15.6	7.8	3.6	0.6	3.0	1.2

(2) 地域や日常生活における優先課題

問19 地域や日常生活における優先課題だと思ふことは何ですか。(〇はいくつでも)

○地域や日常生活における優先課題は、「災害時の避難支援」が38.3%で最も多く、以下「子どもの貧困への支援」が33.9%、「ヤングケアラーへの支援」が31.7%、「高齢者への支援」が31.4%などとなっています。



○年齢別でみると、20歳未満、20歳代、50歳代、60～64歳では「災害時の避難支援」が、30歳代では「子どもの貧困への支援」が、40歳代では「ヤングケアラーへの支援」が、65歳以上では「高齢者への支援」が最も多くなっています。

単位：%

		合計	災害時の避難支援	子どもの貧困への支援	ヤングケアラーへの支援	高齢者への支援	地域・住民とのつながりの促進	孤立している人への支援	複合課題を抱える人への支援	障がい者への支援
全体		830	38.3	33.9	31.7	31.4	23.1	23.0	20.6	19.5
年齢	20歳未満	9	66.7	33.3	33.3	22.2	33.3	33.3	33.3	33.3
	20～29歳	66	36.4	33.3	28.8	21.2	10.6	19.7	16.7	19.7
	30～39歳	82	36.6	43.9	42.7	7.3	18.3	20.7	29.3	14.6
	40～49歳	97	36.1	38.1	39.2	22.7	18.6	21.6	26.8	16.5
	50～59歳	129	47.3	45.7	38.8	29.5	18.6	24.8	27.1	21.7
	60～64歳	84	50.0	36.9	41.7	40.5	32.1	29.8	25.0	22.6
	65～74歳	189	34.4	30.2	28.0	39.2	26.5	25.9	18.0	22.8
	75歳以上	172	31.4	20.9	17.4	40.7	27.3	18.0	9.9	15.7

		合計	ひとり親家庭への支援	地域における交流の場への支援	地域活動の促進	世代間の交流の促進	ひきこもりの人への支援	その他	特になし	無回答
全体		830	18.9	13.1	11.9	11.3	10.7	2.2	7.5	2.5
年齢	20歳未満	9	33.3	11.1	11.1	22.2	22.2	0.0	11.1	0.0
	20～29歳	66	19.7	4.5	3.0	4.5	10.6	3.0	6.1	0.0
	30～39歳	82	23.2	15.9	18.3	17.1	11.0	6.1	7.3	1.2
	40～49歳	97	24.7	11.3	12.4	19.6	10.3	5.2	5.2	2.1
	50～59歳	129	17.8	7.8	6.2	10.9	14.7	2.3	7.8	0.0
	60～64歳	84	16.7	14.3	16.7	13.1	13.1	2.4	2.4	3.6
	65～74歳	189	18.5	17.5	14.8	6.3	9.5	0.0	10.1	2.6
	75歳以上	172	15.1	14.5	11.0	11.0	7.6	0.6	8.1	5.8

○居住地区でみると、板橋で「高齢者への支援」が、常盤台で「子どもの貧困への支援」が、その他の地区では「災害時の避難支援」がそれぞれ最上位に挙げられています。

単位：%

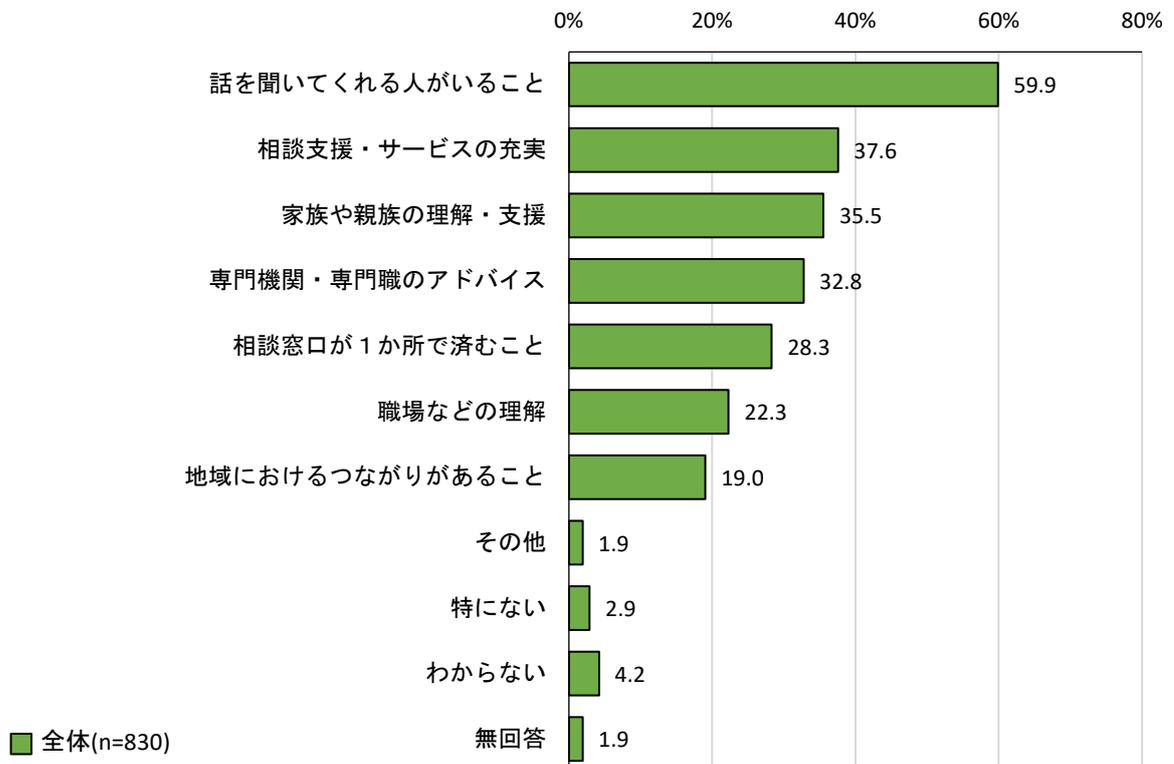
	合計	災害時の避難支援	子どもの貧困への支援	ヤングケアラーへの支援	高齢者への支援	地域・住民とのつながりの促進	孤立している人への支援	複合課題を抱える人への支援	障がい者への支援	
全体	830	38.3	33.9	31.7	31.4	23.1	23.0	20.6	19.5	
居住地区	板橋	229	37.1	33.6	29.7	38.9	26.6	24.5	18.3	20.5
	常盤台	116	35.3	37.1	35.3	21.6	23.3	15.5	31.9	14.7
	志村	158	39.2	38.0	36.1	31.0	24.1	21.5	24.7	22.8
	赤塚	152	41.4	34.2	31.6	28.3	24.3	24.3	12.5	16.4
	高島平	161	38.5	27.3	27.3	32.3	16.1	24.2	18.0	19.9

	合計	ひとり親家庭への支援	地域における交流の場への支援	地域活動の促進	世代間の交流の促進	ひきこもりの人への支援	その他	特になし	無回答	
全体	830	18.9	13.1	11.9	11.3	10.7	2.2	7.5	2.5	
居住地区	板橋	229	18.3	12.2	10.5	11.8	11.4	2.6	8.3	3.5
	常盤台	116	15.5	12.1	17.2	7.8	10.3	2.6	6.9	2.6
	志村	158	24.1	12.7	13.9	15.8	12.0	0.0	4.4	0.6
	赤塚	152	18.4	16.4	11.2	9.9	9.9	1.3	8.6	2.0
	高島平	161	17.4	12.4	8.1	10.6	8.1	3.7	8.1	3.7

(3) 困りごとや悩みの解決に必要なだと思うこと

問20 困りごとや悩みの解決において必要だと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

〇困りごとや悩みの解決に必要なと思うことは、「話を聞いてくれる人がいること」が59.9%で最も多く、以下「相談支援・サービスの充実」が37.6%、「家族や親族の理解・支援」が35.5%、「専門機関・専門職のアドバイス」が32.8%などとなっています。



○年齢別で見ると、すべての年代で「話を聞いてくれる人がいること」が最上位となっており、20歳未満から40歳代までは「家族や親族の理解・支援」が、50歳代以降では「相談支援・サービスの充実」が次いでそれぞれ上位に挙げられています。また、「職場などの理解」は30歳代が、「相談窓口が1か所で済むこと」は60～64歳が他年代に比べて多くなっています。

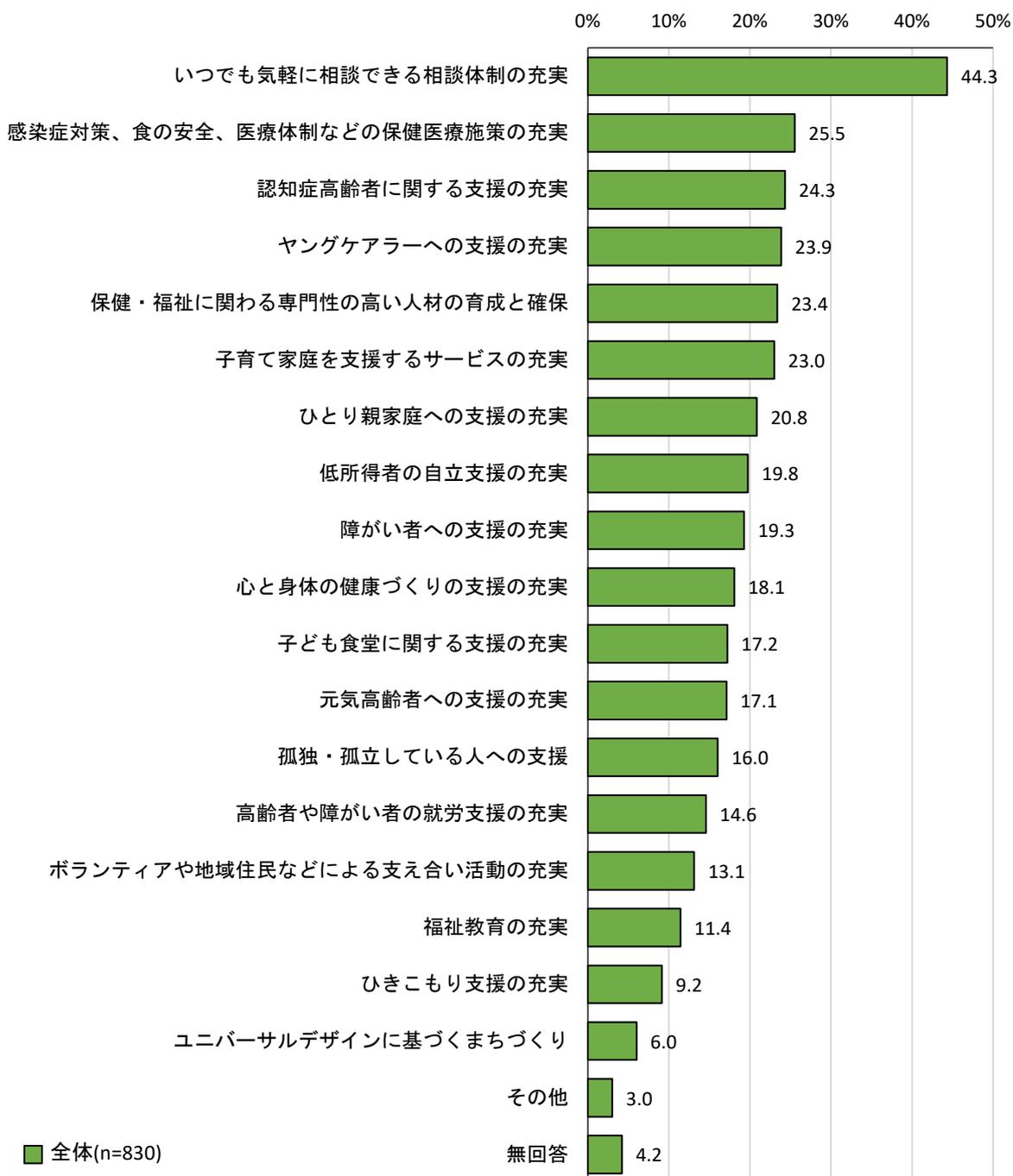
単位：%

	合計	話を聞いてくれる人がいること	相談支援・サービスの充実	家族や親族の理解・支援	専門機関・専門職のアドバイス	相談窓口が1か所で済むこと	職場などの理解	地域におけるつながりがあること	その他	特になし	わからない	無回答
全体	830	59.9	37.6	35.5	32.8	28.3	22.3	19.0	1.9	2.9	4.2	1.9
年齢	20歳未満	9	77.8	22.2	55.6	22.2	11.1	44.4	11.1	0.0	11.1	0.0
	20～29歳	66	62.1	33.3	40.9	25.8	24.2	30.3	7.6	1.5	1.5	6.1
	30～39歳	82	62.2	36.6	50.0	42.7	28.0	47.6	18.3	4.9	0.0	4.9
	40～49歳	97	66.0	45.4	48.5	44.3	28.9	35.1	18.6	3.1	0.0	1.0
	50～59歳	129	68.2	43.4	36.4	31.8	25.6	28.7	16.3	2.3	3.1	1.6
	60～64歳	84	58.3	50.0	42.9	41.7	40.5	28.6	20.2	3.6	1.2	1.2
	65～74歳	189	60.3	34.9	25.4	34.4	28.6	11.6	23.8	0.5	2.6	6.9
	75歳以上	172	47.1	28.5	25.6	19.8	26.7	2.9	20.3	0.6	7.0	5.8

(4) 地域保健福祉の推進に向けて強化してほしい取組

問21 板橋区では、地域の保健福祉の推進に取り組んでいます。あなたはどのようなことに力を入れてほしいですか。(〇はいくつでも)

○地域保健福祉の推進に向けて強化してほしい取組は、「いつでも気軽に相談できる相談体制の充実」が44.3%で最も多く、以下「感染症対策、食の安全、医療体制などの保健医療施策の充実」が25.5%、「認知症高齢者に関する支援の充実」が24.3%、「ヤングケアラーへの支援の充実」が23.9%などとなっています。



○年齢別でみると、20歳未満では「子ども食堂に関する支援の充実」が、20歳代から40歳代では「子育て家庭を支援するサービスの充実」が4割弱から4割台半ばで最も多く、50歳代以上の各年代では「いつでも気軽に相談できる相談体制の充実」が4割台半ばから約5割で最多となっています。

単位：％

	合計	いつでも気軽に相談できる相談体制の充実	感染症対策、食の安全、医療体制などの保健医療施策の充実	認知症高齢者に関する支援の充実	ヤングケアラーへの支援の充実	保健・福祉に関わる専門性の高い人材の育成と確保	子育て家庭を支援するサービスの充実	ひとり親家庭への支援の充実	低所得者の自立支援の充実	障がい者への支援の充実	心と身体の健康づくりの支援の充実
全体	830	44.3	25.5	24.3	23.9	23.4	23.0	20.8	19.8	19.3	18.1
年齢	20歳未満	9	33.3	33.3	22.2	22.2	11.1	22.2	22.2	22.2	33.3
	20～29歳	66	30.3	21.2	10.6	27.3	15.2	37.9	27.3	19.7	21.2
	30～39歳	82	36.6	23.2	11.0	28.0	32.9	45.1	19.5	18.3	24.4
	40～49歳	97	37.1	22.7	20.6	23.7	25.8	38.1	26.8	23.7	23.7
	50～59歳	129	45.0	30.2	33.3	29.5	19.4	20.2	24.0	23.3	19.4
	60～64歳	84	51.2	23.8	25.0	26.2	36.9	13.1	15.5	17.9	15.5
	65～74歳	189	50.8	25.4	26.5	25.4	22.2	18.5	22.8	19.6	14.3
	75歳以上	172	46.5	26.2	29.1	14.0	19.2	9.9	14.0	16.9	11.6

	合計	子ども食堂に関する支援の充実	元気高齢者への支援の充実	孤独・孤立している人への支援	高齢者や障がい者の就労支援の充実	ボランティアや地域住民などによる支え合い活動の充実	福祉教育の充実	ひきこもり支援の充実	ユニバーサルデザインに基づくまちづくり	その他	無回答
全体	830	17.2	17.1	16.0	14.6	13.1	11.4	9.2	6.0	3.0	4.2
年齢	20歳未満	9	44.4	11.1	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	0.0	0.0
	20～29歳	66	18.2	6.1	19.7	13.6	3.0	10.6	9.1	1.5	1.5
	30～39歳	82	18.3	9.8	15.9	7.3	11.0	13.4	6.1	3.7	2.4
	40～49歳	97	21.6	7.2	17.5	13.4	16.5	13.4	9.3	7.2	1.0
	50～59歳	129	20.9	12.4	14.7	17.8	14.7	8.5	15.5	3.9	2.3
	60～64歳	84	10.7	20.2	14.3	19.0	8.3	16.7	8.3	1.2	6.0
	65～74歳	189	18.0	18.5	18.0	19.6	15.3	10.6	10.6	2.1	3.7
	75歳以上	172	12.2	31.4	13.4	8.7	14.5	9.3	4.1	2.3	9.3

6 ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）について

ソーシャル・インクルージョン

「全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う」という理念で、社会全体で包み支え合うことで、誰も排除されず、全ての人々が社会に参画する機会を持つことです。

(1) 社会的排除の状態にある人の存在

問22 あなたの周りに社会的に不利な立場にいる、または孤立していたり排除されている人はいますか（社会的排除）。（例）ひきこもり、ひとり親家庭、望まない非正規雇用者、路上生活者、頼る人がいない高齢者など（〇は1つだけ）

○社会的排除の状態にある人の存在は、「いない」が45.8%で最も多く、以下「わからない」が41.4%、「いる」が11.0%となっています。



○孤独感でみると、孤独感をよく感じる層において、「いる」は33.3%となっており、約3人に1人が周囲に社会的排除の状態にある人がいると回答しています。孤独感を感じる頻度が少ないほど「いない」の割合が高く、孤独感をまったく感じない人ではよく感じる人と比べて約30ポイント上回っています。

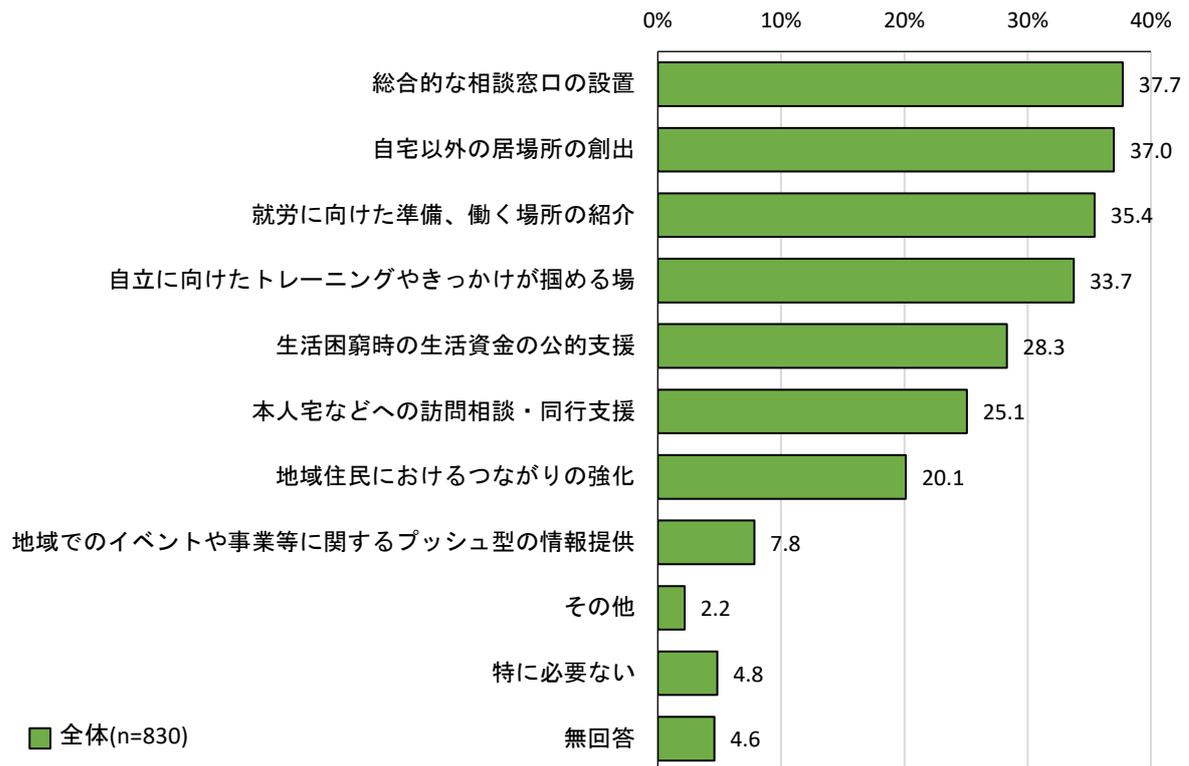
単位: %

		合計	いる	いない	わからない	無回答
全体		830	11.0	45.8	41.4	1.8
孤独感	よく感じる	24	33.3	20.8	33.3	12.5
	しばしば感じる	37	16.2	29.7	51.4	2.7
	たまに感じる	235	11.9	40.0	46.4	1.7
	まったく感じない	484	9.5	51.0	38.4	1.0

(2) 社会的排除の状態にある人への支援に必要な取組

問23 ソーシャル・インクルージョンを推進するために、社会的排除の状態にある方への支援としてどのような取組が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

○社会的排除の状態にある人への支援に必要な取組は、「総合的な相談窓口の設置」が37.7%で最も多く、以下「自宅以外の居場所の創出」が37.0%、「就労に向けた準備、働く場所の紹介」が35.4%、「自立に向けたトレーニングやきっかけが掴める場」が33.7%などとなっています。



○年齢別でみると、20歳未満から40歳代で「自宅以外の居場所の創出」が、50歳代で「就労に向けた準備、働く場所の紹介」（20歳代で同率）が、60歳以上の各年代では「総合的な相談窓口の設置」がそれぞれ最も多く挙げられています。

○近所との関わり方でみると、親しい近所付き合いのある人では「地域住民におけるつながりの強化」が4割台半ば、立ち話やあいさつをする程度の人では「総合的な相談窓口の設置」が約4割、ほとんど近所付き合いのない人では「自宅以外の居場所の創出」が3割半ばでそれぞれ最多となっています。「地域住民におけるつながりの強化」は、近所付き合いが積極的であるほど割合が高くなっています。

単位：%

		合計	総合的な相談窓口の設置	自宅以外の居場所の創出	就労に向けた準備、働く場所の紹介	自立に向けたトレーニングやきっかけが掴める場	生活困窮時の生活資金の公的支援	本人宅などへの訪問相談・同行支援	地域住民におけるつながりの強化	地域でのイベントや事業等に関するプッシュ型の情報提供	その他	特に必要ない	無回答
全体		830	37.7	37.0	35.4	33.7	28.3	25.1	20.1	7.8	2.2	4.8	4.6
年齢	20歳未満	9	22.2	66.7	44.4	22.2	33.3	11.1	22.2	11.1	0.0	11.1	0.0
	20～29歳	66	30.3	39.4	39.4	28.8	31.8	21.2	9.1	4.5	6.1	1.5	1.5
	30～39歳	82	30.5	53.7	46.3	37.8	29.3	24.4	13.4	7.3	1.2	2.4	1.2
	40～49歳	97	32.0	50.5	48.5	47.4	20.6	34.0	20.6	15.5	3.1	3.1	1.0
	50～59歳	129	38.0	42.6	48.1	45.0	29.5	27.9	20.2	10.9	1.6	4.7	0.0
	60～64歳	84	48.8	28.6	38.1	40.5	31.0	28.6	16.7	4.8	2.4	4.8	3.6
	65～74歳	189	47.1	34.4	28.0	28.0	28.6	25.9	23.8	7.4	2.6	5.3	4.2
	75歳以上	172	32.0	22.1	18.6	21.5	27.9	17.4	24.4	4.7	0.6	7.6	14.0
近所との関わり方	親しく付き合っている	67	38.8	34.3	32.8	23.9	28.4	31.3	46.3	19.4	0.0	6.0	6.0
	立ち話をする程度	186	40.3	31.7	31.2	33.9	28.0	28.0	25.8	4.3	1.6	3.2	6.5
	あいさつをする程度	405	41.2	40.0	38.3	36.0	30.6	24.2	16.5	8.9	2.5	4.2	4.2
	ほとんど付き合いがない	167	25.7	36.5	34.7	32.9	23.4	21.6	11.4	4.8	3.0	7.8	2.4

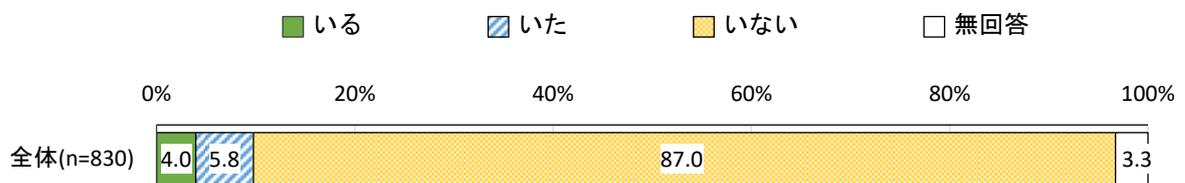
7 ひきこもりについて

(1) ひきこもり状態にある(あった)世帯員

問24 あなたの世帯に、ひきこもり状態にある(あった)方はいますか。(○は1つだけ)

*「ひきこもり状態」とは、さまざまな要因により、社会的参加(就学、就労、家庭外での交遊など)を避け、概ね家庭にとどまり続けている状態

○ひきこもり状態にある(あった)世帯員は、「いない」が87.0%で最も多く、以下「いた」が5.8%、「いる」が4.0%となっています。

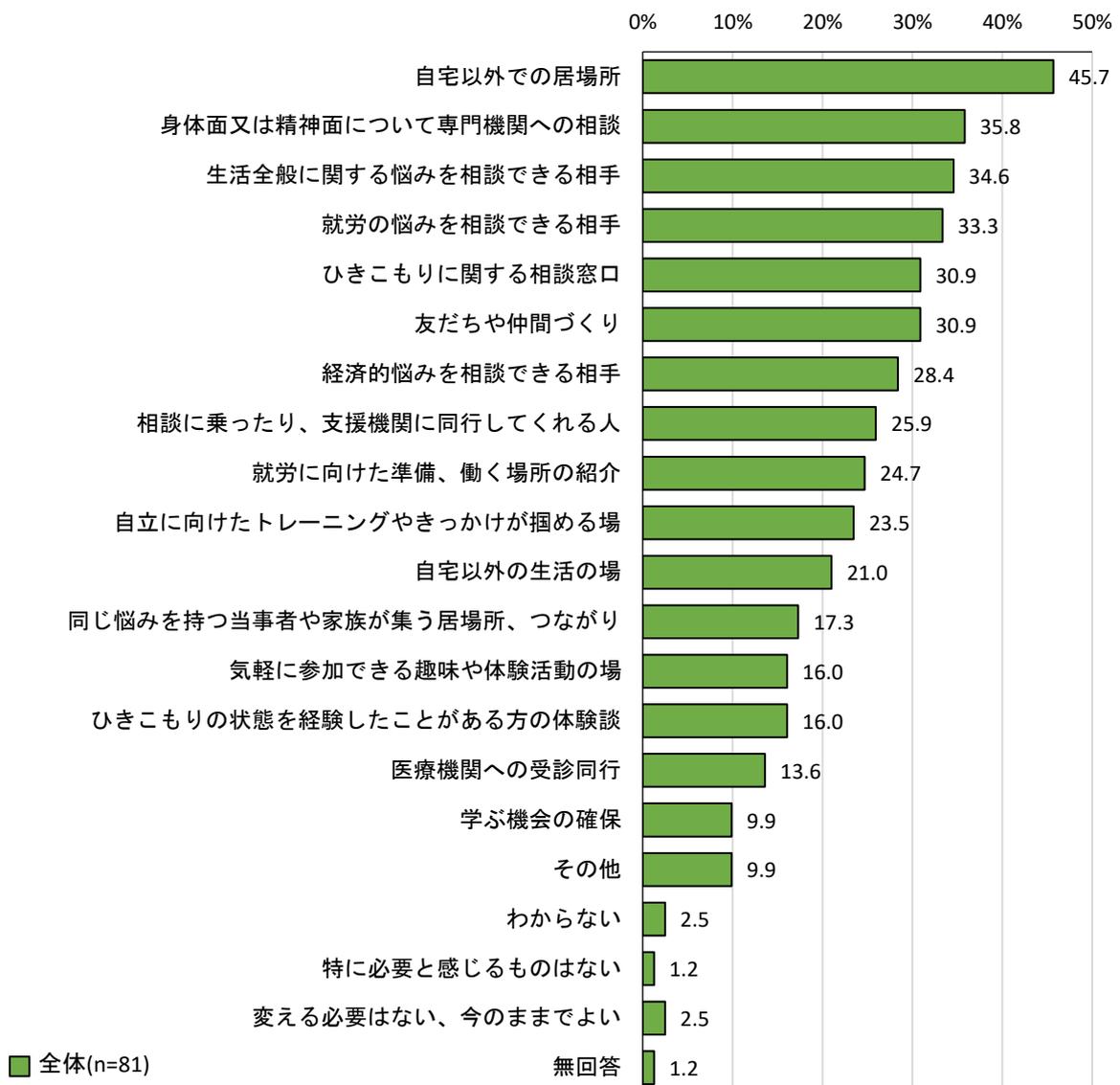


(2) ひきこもり状態の解消に有用なもの

【問24で「1 いる」、「2 いた」を回答した方へ】

※「2 いた」を回答した方…ひきこもり状態にあった方は、当時の状況について、お答えください。
問24-1 ひきこもり状態にある方について、ひきこもりの状態を変えるために、必要であったり、役に立つと思うものをお答えください。(〇はいくつでも)

○ひきこもり状態の解消に有用なものは、「自宅以外での居場所」が45.7%で最も多く、以下「身体面又は精神面について専門機関への相談」が35.8%、「生活全般に関する悩みを相談できる相手」が34.6%、「就労の悩みを相談できる相手」が33.3%、「ひきこもりに関する相談窓口」が30.9%、「友だちや仲間づくり」が30.9%となっています。



○年齢別でみると、20歳代、40歳代、50歳代、65歳以上では「自宅以外での居場所」が、30歳代では「生活全般に関する悩みを相談できる相手」や「経済的悩みを相談できる相手」が多く挙げられています。

単位：%

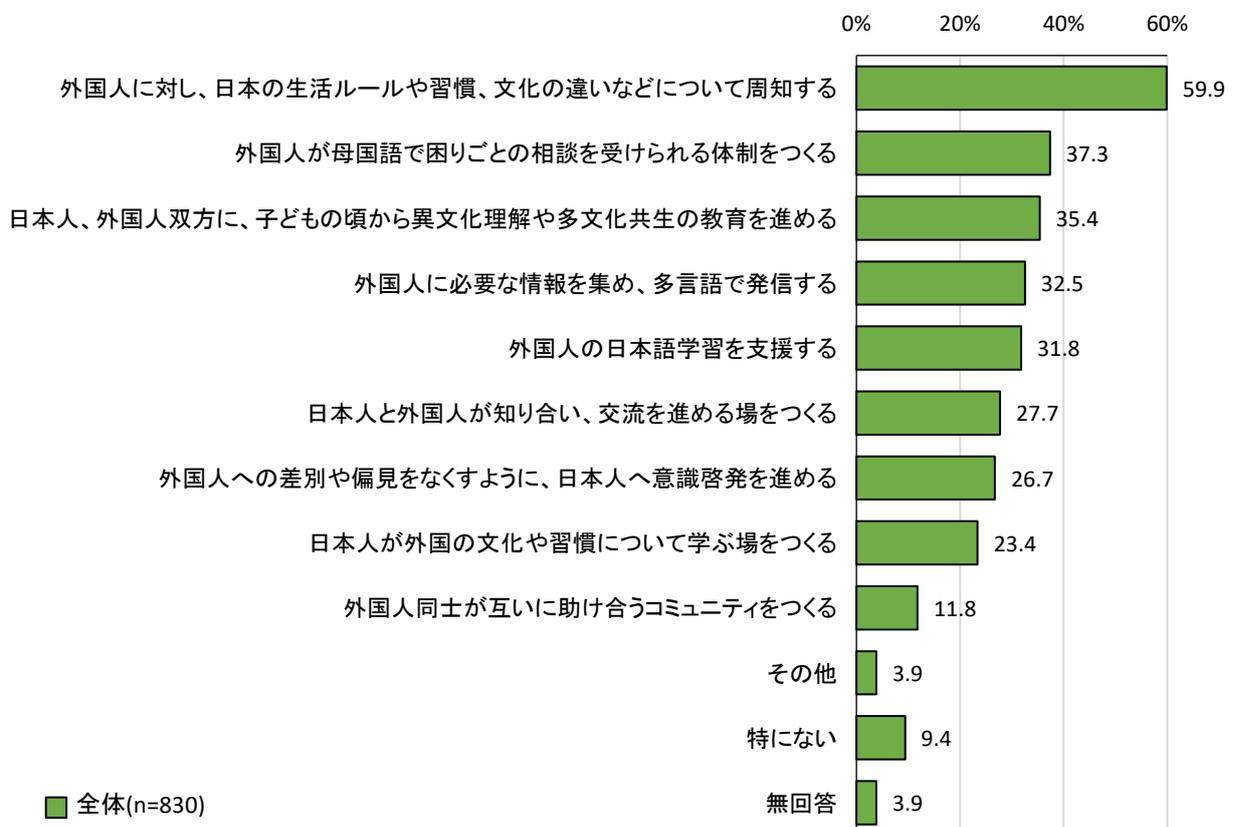
		合計	自宅以外での居場所	身体面又は精神面について専門機関への相談	生活全般に関する悩みを相談できる相手	就労の悩みを相談できる相手	ひきこもりに関する相談窓口	友だちや仲間づくり	経済的悩みを相談できる相手	相談に乗ったり、支援機関に同行してくれる人	就労に向けた準備、働く場所の紹介	自立に向けたトレーニングやきつかけが掴める場	自宅以外の生活の場
全体		81	45.7	35.8	34.6	33.3	30.9	30.9	28.4	25.9	24.7	23.5	21.0
年齢	20歳未満	4	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0
	20～29歳	11	63.6	27.3	36.4	63.6	27.3	54.5	18.2	27.3	27.3	9.1	18.2
	30～39歳	7	28.6	71.4	85.7	57.1	14.3	42.9	85.7	42.9	42.9	42.9	0.0
	40～49歳	15	40.0	33.3	20.0	40.0	26.7	0.0	33.3	20.0	20.0	20.0	20.0
	50～59歳	16	50.0	50.0	25.0	25.0	43.8	31.3	12.5	18.8	25.0	31.3	31.3
	60～64歳	9	11.1	33.3	33.3	11.1	33.3	22.2	44.4	22.2	11.1	11.1	33.3
	65～74歳	14	64.3	21.4	35.7	21.4	28.6	28.6	21.4	28.6	28.6	21.4	14.3
	75歳以上	5	60.0	20.0	40.0	40.0	60.0	60.0	20.0	60.0	20.0	60.0	20.0

8 外国人との共生について

(1) 多様性と活力ある地域社会の実現に向けて行政に求めること

問25 日本人の区民と外国人の区民が共に安心して暮らし、多様性と活力のある地域社会にしているために、行政に求めることをお答えください。(〇はいくつでも)

○多様性と活力ある地域社会の実現に向けて行政に求めることは、「外国人に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する」が59.9%で最も多く、以下「外国人が母国語で困りごとの相談を受けられる体制をつくる」が37.3%、「日本人、外国人双方に、子どもの頃から異文化理解や多文化共生の教育を進める」が35.4%、「外国人に必要な情報を集め、多言語で発信する」が32.5%などとなっています。



○年齢別で見ると、20歳代以上の各年代で「外国人に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する」が最多となっており、なかでも40歳代及び60歳代では約7割を占めています。また、20歳未満から30歳代では「外国人に必要な情報を集め、多言語で発信する」や「日本人、外国人双方に、子どもの頃から異文化理解や多文化共生の教育を進める」が、50歳代以上の各年代では「外国人が母国語で困りごとの相談を受けられる体制をつくる」がそれぞれ上位に挙げられています。

単位：%

	合計	外国人に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する	外国人が母国語で困りごとの相談を受けられる体制をつくる	日本人、外国人双方に、子どもの頃から異文化理解や多文化共生の教育を進める	外国人に必要な情報を集め、多言語で発信する	外国人の日本語学習を支援する	日本人と外国人が知り合い、交流を進める場をつくる	
全体	830	59.9	37.3	35.4	32.5	31.8	27.7	
年齢	20歳未満	9	33.3	22.2	44.4	44.4	22.2	33.3
	20～29歳	66	50.0	30.3	30.3	42.4	30.3	21.2
	30～39歳	82	58.5	37.8	37.8	37.8	31.7	31.7
	40～49歳	97	70.1	35.1	40.2	26.8	37.1	27.8
	50～59歳	129	63.6	45.0	33.3	38.8	37.2	29.5
	60～64歳	84	70.2	42.9	40.5	36.9	33.3	38.1
	65～74歳	189	65.1	41.8	37.0	36.0	33.9	26.5
	75歳以上	172	45.9	28.5	30.2	18.0	22.7	23.3

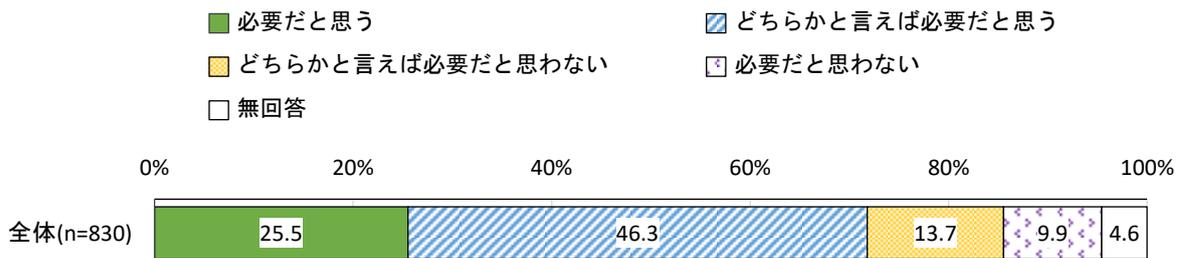
	合計	外国人への差別や偏見をなくすように、日本人へ意識啓発を進める	日本人が外国の文化や習慣について学ぶ場をつくる	外国人同士が互いに助け合うコミュニティをつくる	その他	特にない	無回答	
全体	830	26.7	23.4	11.8	3.9	9.4	3.9	
年齢	20歳未満	9	33.3	11.1	22.2	11.1	0.0	
	20～29歳	66	30.3	22.7	22.7	7.6	3.0	0.0
	30～39歳	82	20.7	25.6	11.0	7.3	7.3	2.4
	40～49歳	97	21.6	21.6	13.4	6.2	4.1	0.0
	50～59歳	129	25.6	24.8	14.7	5.4	7.8	0.8
	60～64歳	84	34.5	32.1	13.1	1.2	4.8	4.8
	65～74歳	189	33.3	26.5	12.7	1.6	11.6	3.7
	75歳以上	172	20.9	15.1	2.9	1.7	16.9	10.5

9 再犯防止に向けた取組について

(1) 罪を犯した人への支援の必要性

問26 あなたは、罪を犯した人への支援が必要だと思いますか。(○は1つだけ)

○罪を犯した人への支援の必要性は、「どちらかと言えば必要だと思う」が46.3%で最も多く、以下「必要だと思う」が25.5%、「どちらかと言えば必要だと思わない」が13.7%、「必要だと思わない」が9.9%となっています。



○年齢別でみると、「必要だと思う」は20歳未満で33.3%と他年代より高く、「どちらかと言えば必要だと思う」と合わせた割合は77.7%にのぼります。20歳未満に次いで、65～74歳、50歳代において支援の必要性を感じる割合が高くなっています。

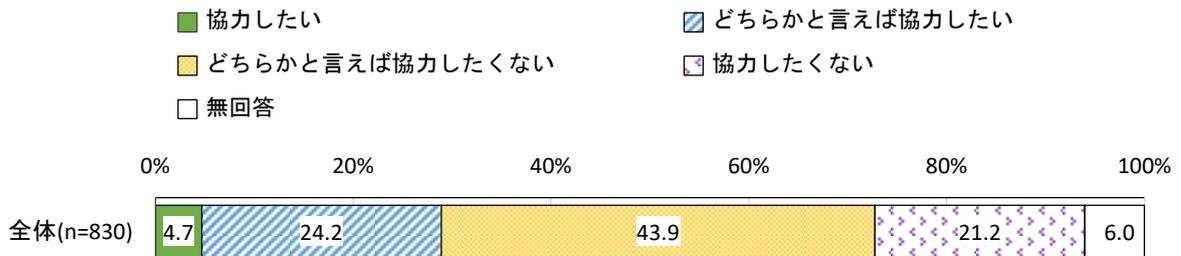
単位: %

	合計	必要だと思わない				必要だと思わない	無回答
		必要だと思わない	どちらかと言えば必要だと思わない	どちらかと言えば必要だと思わない	必要だと思わない		
全体	830	25.5	46.3	13.7	9.9	4.6	
年齢	20歳未満	9	33.3	44.4	0.0	22.2	0.0
	20～29歳	66	25.8	39.4	13.6	19.7	1.5
	30～39歳	82	20.7	46.3	18.3	13.4	1.2
	40～49歳	97	22.7	48.5	17.5	9.3	2.1
	50～59歳	129	25.6	49.6	15.5	6.2	3.1
	60～64歳	84	23.8	48.8	15.5	9.5	2.4
	65～74歳	189	29.1	47.1	11.6	7.9	4.2
	75歳以上	172	26.2	43.0	9.9	9.3	11.6

(2) 罪を犯した人の立ち直りに協力したいと思うか

問27 あなたは、罪を犯した人の立ち直りに協力したいと思いますか。(○は1つだけ)

○罪を犯した人の立ち直りに協力したいと思うかは、「どちらかと言えば協力したくない」が43.9%で最も多く、以下「どちらかと言えば協力したい」が24.2%、「協力したくない」が21.2%、「協力したい」が4.7%となっています。



○年齢別でみると、20歳未満では「どちらかと言えば協力したい」が4割台半ばと多くなっていますが、20歳代では「協力したくない」が約4割を占め、30歳代以降の各年代においても「どちらかと言えば協力したくない」が最も多くなっています。一方、60歳代以降では「どちらかと言えば協力したい」が次第に増え、年齢とともにやや協力的になると見受けられます。

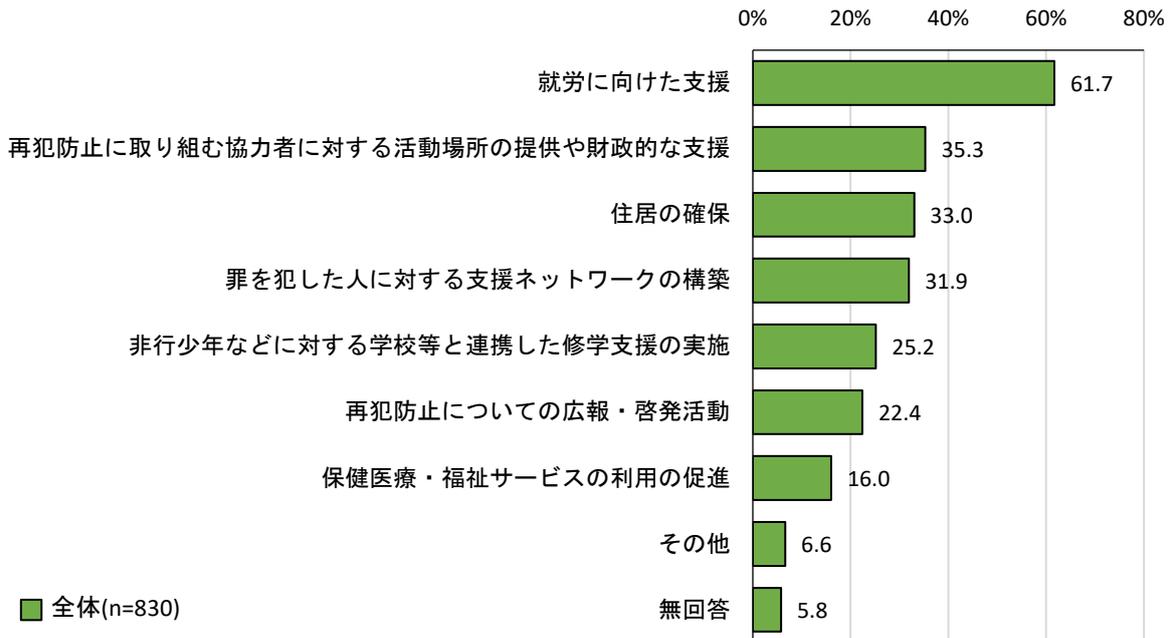
単位: %

		合計	協力したい	どちらかと言えば協力したい	どちらかと言えば協力したくない	協力したくない	無回答
全体		830	4.7	24.2	43.9	21.2	6.0
年齢	20歳未満	9	0.0	44.4	33.3	22.2	0.0
	20～29歳	66	6.1	18.2	34.8	39.4	1.5
	30～39歳	82	4.9	17.1	43.9	31.7	2.4
	40～49歳	97	2.1	16.5	50.5	26.8	4.1
	50～59歳	129	4.7	24.0	49.6	17.1	4.7
	60～64歳	84	2.4	22.6	51.2	20.2	3.6
	65～74歳	189	5.3	28.6	43.9	15.3	6.9
	75歳以上	172	6.4	29.7	36.0	15.7	12.2

(3) 再犯防止に向けて区に求められる取組

問28 罪を犯した人が、出所後、再び罪を犯さないようにするために、区はどのような取組を行っていくことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

○再犯防止に向けて区に求められる取組は、「就労に向けた支援」が61.7%で最も多く、以下「再犯防止に取り組む協力者に対する活動場所の提供や財政的な支援」が35.3%、「住居の確保」が33.0%、「罪を犯した人に対する支援ネットワークの構築」が31.9%などとなっています。



○年齢別で見ると、全ての年代において「就労に向けた支援」が最も多くなっています。次いで、「再犯防止に取り組む協力者に対する活動場所の提供や財政的な支援」が20歳代から60～64歳で、「住居の確保」が65歳以上で上位に挙げられています。

単位：%

		合計	就労に向けた支援	再犯防止に取り組む協力者に対する活動場所の提供や財政的な支援	住居の確保	罪を犯した人に対する支援ネットワークの構築	非行少年などに対する学校等と連携した修学支援の実施	再犯防止についての広報・啓発活動	保健医療・福祉サービスの利用の促進	その他	無回答
全体		830	61.7	35.3	33.0	31.9	25.2	22.4	16.0	6.6	5.8
年齢	20歳未満	9	44.4	44.4	33.3	22.2	44.4	33.3	33.3	11.1	0.0
	20～29歳	66	53.0	34.8	30.3	24.2	30.3	27.3	13.6	9.1	3.0
	30～39歳	82	50.0	35.4	28.0	34.1	31.7	15.9	9.8	9.8	2.4
	40～49歳	97	56.7	43.3	27.8	34.0	35.1	28.9	15.5	11.3	1.0
	50～59歳	129	64.3	38.8	30.2	38.0	22.5	22.5	14.7	8.5	3.1
	60～64歳	84	61.9	45.2	33.3	39.3	23.8	22.6	15.5	7.1	4.8
	65～74歳	189	70.4	31.2	40.7	32.8	24.3	23.3	22.2	4.2	5.8
	75歳以上	172	62.2	27.9	33.1	24.4	17.4	17.4	13.4	2.3	14.0

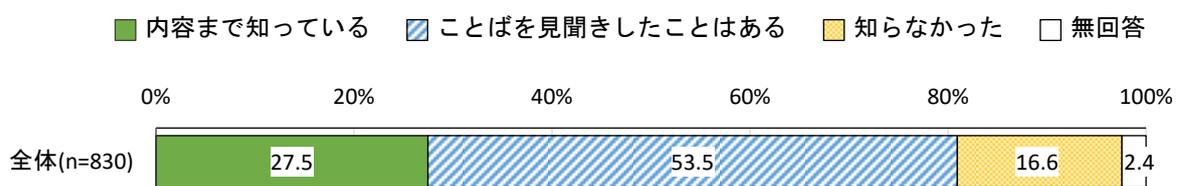
10 行政の相談先や福祉等の関連用語について

(1) 相談支援窓口及び福祉・保健関連用語の認知度

問29 あなたは、下記に示す本区の相談支援窓口や、福祉・保健に関連のある用語を知っていますか。それぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

(本アンケートで知った場合は、「知らなかった」を選択してください。)

○民生委員・児童委員は、「ことばを見聞きしたことはある」が53.5%で最も多く、以下「内容まで知っている」が27.5%、「知らなかった」が16.6%となっています。



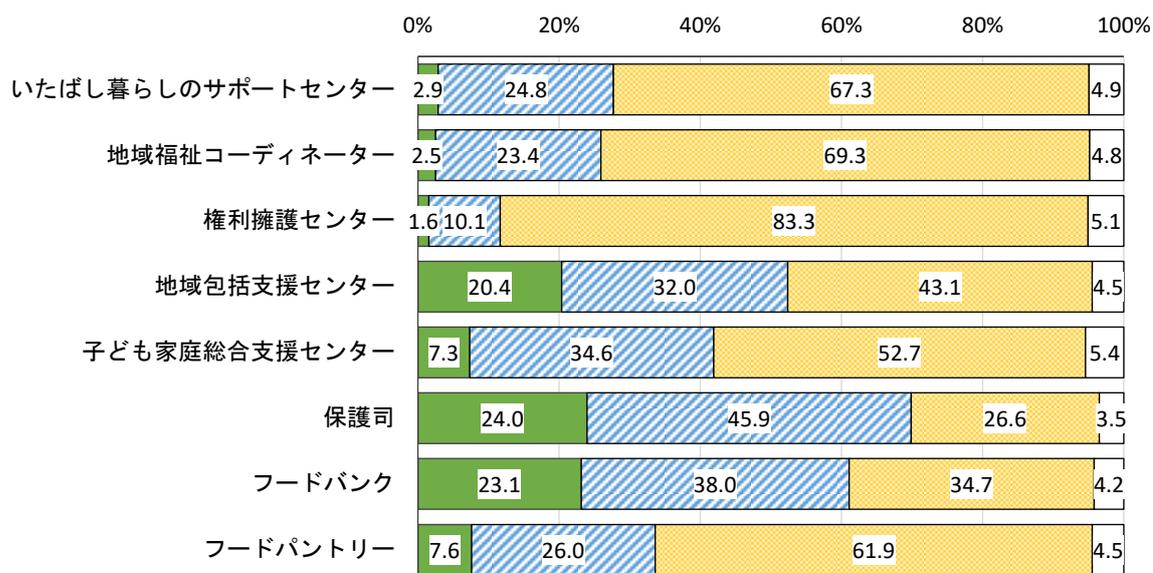
○年齢別でみると、「内容まで知っている」は20歳未満で4割半ば、「ことばを見聞きしたことはある」は30歳代以降すべての年代で割合が高くなっています。一方、「知らなかった」は、20歳代で半数超えと認知度が最も低くなっています。

単位:%

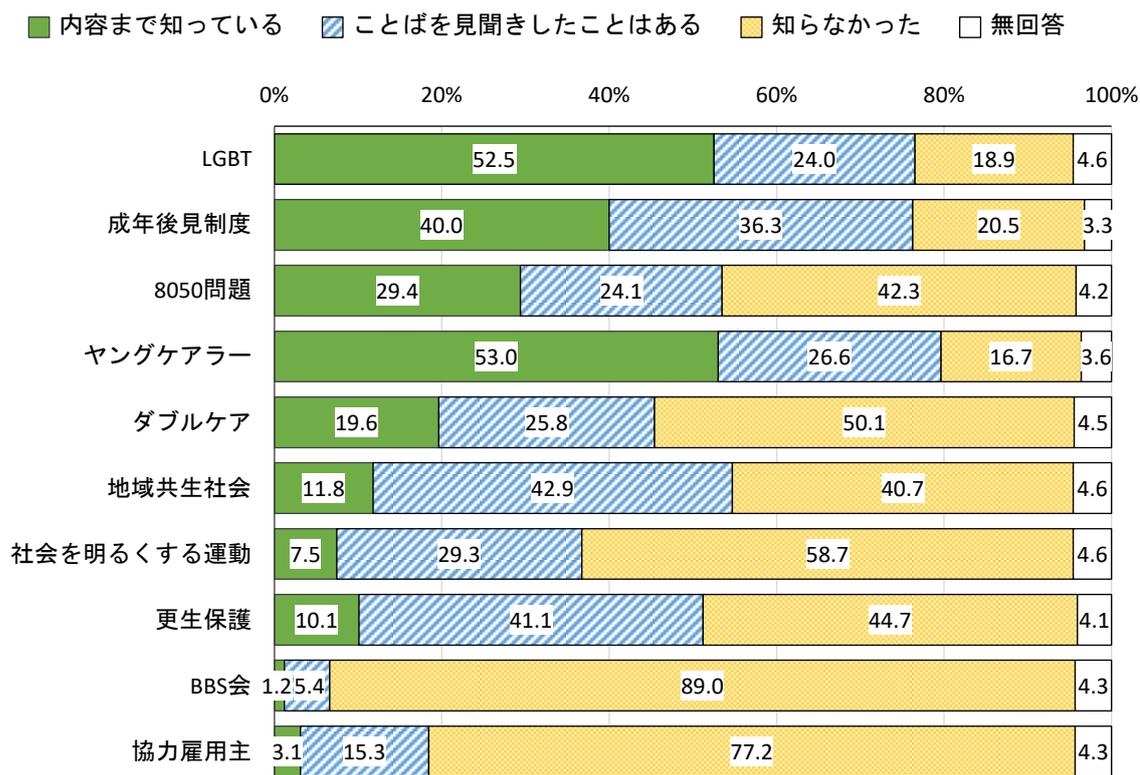
		合計	内容まで知っている	ことばを見聞きしたことはある	知らなかった	無回答
全体		830	27.5	53.5	16.6	2.4
年齢	20歳未満	9	44.4	33.3	22.2	0.0
	20～29歳	66	12.1	33.3	54.5	0.0
	30～39歳	82	11.0	51.2	36.6	1.2
	40～49歳	97	17.5	59.8	22.7	0.0
	50～59歳	129	27.1	56.6	14.0	2.3
	60～64歳	84	34.5	58.3	6.0	1.2
	65～74歳	189	30.2	59.8	8.5	1.6
	75歳以上	172	40.1	47.7	5.2	7.0

○行政の相談先について、「内容まで知っている」が多い相談先は、『保護司』が24.0%で最も多く、以下『フードバンク』が23.1%、『地域包括支援センター』が20.4%などとなっています。「ことばを見聞きしたことはある」を合わせると、上位3位は変わらず、『保護司』が69.9%で最も多く、以下『フードバンク』が61.1%、『地域包括支援センター』が52.4%でいずれも過半数を占めています。一方、他の項目では「知らなかった」が過半数を占めており、『権利擁護センター』では83.3%と認知度が最も低くなっています。

■ 内容まで知っている ■ ことばを見聞きしたことはある ■ 知らなかった □ 無回答



○福祉等の関連用語について、「内容まで知っている」が多い相談先は、『ヤングケアラー』が53.0%で最も多く、以下『LGBT』が52.5%、『成年後見制度』が40.0%などとなっています。「ことばを見聞きしたことはある」を合わせると、上位3位は変わらず、『ヤングケアラー』が79.6%で最も多く、以下『LGBT』が76.5%、『成年後見制度』が76.3%でいずれも8割弱を占めています。また、『地域共生社会』が54.7%、『8050問題』が53.5%、『更生保護』が51.2%と過半数が認知しています。一方、他の4項目では「知らなかった」が過半数を占めており、『BBS会』では89.0%と認知度が最も低く、次いで『協力雇用主』が77.2%となっています。



11 意見・要望・感想

意見・要望として、155件の回答がありました。テーマ別に整理をすると次のような結果となっています。

テーマ別の主な意見・要望は以下のとおりです。

テーマ	件数
(1) 福祉サービス・相談支援	40
(2) ケア・共生・社会的包摂	29
(3) 生活環境・防犯・防災	15
(4) 地域保健福祉	15
(5) 地域活動・ボランティア活動	13
(6) アンケート	18
(7) その他	25

(1) 福祉サービス・相談支援について

- 板橋区は子どもに対する施策が手厚くいつもとても助かっています。一方、育児家庭の悩みや問題を包括的に相談できる窓口などがあるとありがたいと感じています。乳児期は保健師さんに相談していたのですが幼児期となった今は相談先に悩むことがあります。子育てと家庭のあり方など総合的に相談できる場があると大変助かります。(女性、30-39歳、二世帯、常盤台)
- 児童館をよく利用させてもらっています。プログラムは充実しているし、職員さんはいつも優しく迎えてくださります。少子化で子どもの数は減っていく一方ですが、このような施設を減らさないでほしいです。(女性、30-39歳、二世帯、志村)
- 障がい者が休日に過ごせる場、一時支援を増やしてほしいです。親が病気等になった時に預けやすい場所、仕組みを整えてほしい。今もそういう場所はあるが、預けにくいし使いにくい。(女性、30-39歳、二世帯、志村)
- 一つ一つの活動はとても考えて行ってくださっていると感じ感謝しております。しかし他の事業に関して関連性が高いものでも連携されておらず、という印象を受けて残念に思うことが多くありました。渋谷区では地域共生サポートセンターというこれまでの行政では中々難しい狭間のつながりをつないでいこうという場がはじまっているので、そのような場もあると良いなと思いました。今後の板橋が心地よい地域に発展していくことを願っています。(女性、30-39歳、二世帯、高島平)
- 本当に困っている時に相談窓口を探すという行動を起こすこと自体が難しい。本当に困って悩んでいる時は余裕がない。そのためこんなことで困っている、と話せてそこから相談窓口へと繋ぐ仕組みができればいいと思う。(女性、40-49歳、二世帯、常盤台)
- 実際に困りごとがないから問題ないが、困りごとが発生した時に板橋区のどこに何を相談できるのか分からないし知らない。それが問題だと思います。(男性、50-59歳、夫婦のみ、板橋)
- 一人暮らしの69歳です。住居を含めあらゆる面で終活をしていくにあたり、相談窓口があればとても心強いと思います。例えば、持ち家の売却とか公団への移住とかです。(女性、65-74歳、単身、高島平)
- 要支援、要介護の認定を受けている方々には相談の窓口があるようですが、認定を取れていない高齢者でも相談やグループの会に参加できたらいいのにとと思います。高齢の一人暮らしだとそう思います。(女性、75歳以上、単身、板橋)

(2) ケア・共生・社会的包摂について

- 1つの家で8050、ヤングケアラー、ダブルケアラーなど多重問題となっている場合が多い。専門職同士の横の繋がりが大切になってくると思う。(女性、40-49歳、二世帯、常盤台)
- 家族に精神障がい者がいますが、症状が悪くなった時、入院につなげる支援や手段がなさすぎると思います。家族に丸投げ状態で非常に辛いです。また、入院ではなく、誰か見てくれる人がいる施設も少なすぎます。家族がこれだと疲れ果てて精神的に病んでしまいます。ヤングケアラーだけでなく、ケアラー全体の支援をお願いしたいです。(女性、40-49歳、二世帯、板橋)
- これからますます高齢化し、単身世帯が増えてくると思う。またヤングケアラーなど隠れた問題世帯も多いと思う。それらの方々のために、色々な対策をつくることは大切ですが、それが使いやすいもの、相談しやすいものか、当事者目線で考えないと行政のひとりよがりになると思う。AIが取りざたされているが、地域保健福祉はデリケートな問題が多いので、関わる方々の人間味が必要だと思う。これからの板橋区の取り組みに期待しております。(女性、60-64歳、二世帯、常盤台)
- 高齢者への支援は比較的他区に比べて充実している面が見られますが、障がい児・者への支援にはまだきめ細かさが足りないと思われます。ひとり親家庭、ヤング・ダブルケアラーへの支援も同様の感じがあります。(女性、65-74歳、単身、高島平)
- 親族含めて6人は介護をしてきたので、やっと今自分の時間、孫との時間を楽しんでいるところ。福祉に関しては、是正すべきことはいっぱいあると思いますが、自分の参加、協力まではまだ中々気持ちの余裕がない。自分の周りの人との交流は積極的にしていきたい。日本ではボランティアの土壌がなく、外国のように教会などが一つの芯の中で発展していったものとは比べものにならない。(女性、65-74歳、夫婦のみ、志村)

(3) 生活環境・防犯・防災について

- 外国人との共生についてですが、最近まわりの外国人の方が夜騒いだり、大声で話したり、ゴミ捨てるルールを守らず少し不快に思うことが続いております。もちろん日本人でも守らない方もいらっしゃると思いますが、意見としてご一考いただけますと幸いです。10年近く板橋区に住んでいますが、とても住みやすく行政もしっかり機能しているので安心して過ごせております。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。(女性、30-39歳、単身、板橋)
- 子どもや女性を狙った犯罪が板橋区内でも毎日のように起きています。そうした犯罪を抑止する取組とともに、被害に遭われた方が相談し、被害届を出しやすい環境を作っていただきたいです。どうせ犯人は捕まらないだろうからと被害届が受理されない経験をしたこともあります。こうした犯罪を「よくあること」とせず、本気で犯人を検挙してほしいと思います。福祉としても、そうした犯罪を減らすために、対応をいただければありがたいです。(女性、30-39歳、夫婦のみ、板橋)
- 犬と一緒に生活しているので地域としても動物と一緒に入れる施設や設備、災害時の対応についても検討していただけると嬉しいです。単身のため町内会への参加は難しいですが、町内会主催のお祭りがあると人も集まり街も盛り上がり、活気ある街へ変わると思います。(女性、40-49歳、単身、志村)

- 街路樹の剪定、公園樹木の剪定を希望します。歩道を歩いていたり自転車で通ると顔くらいまで伸びている枝、葉があたって通りづらい場がよくあります。多くの場を管理することは大変だと思いますが、ケガをする前に積極的な対応を望みます。(女性、40-49歳、夫婦のみ、高島平)
- 近所でルールを守らない人がいた場合、近所同士では注意しにくいので、代わりに注意してくれたら助かります。(女性、65-74歳、夫婦のみ、板橋)

(4) 地域保健福祉について

- アンケートに回答していて自分の住む地域福祉についてわからないことが多いと感じました。アンケートから板橋区の抱える課題点は推察できますが、板橋区としてできること、やらなければならないことは山積みだと思います。SNSを活用して若い世代を取り込み、世代横断的に社会課題に取り組まなければ板橋区が寂れてしまうと思います。みんなで課題点を洗い出して、共通認識を持って社会課題に取り組む仕組みづくりがまず必要ではないでしょうか。(女性、20-29歳、その他、高島平)
- 知らないことがたくさんです。自分は困っていないが他を支援したい。(男性、40-49歳、二世帯、常盤台)
- 地域保健福祉について行政の直接的な関わりは不可欠であり、充実させる必要があるが、長中期にサステナブルなものとするためには、住民の理解と参加が重要である。やるべきことは大きく捉えすぎると参加者が減ってしまうので、小さなことでも広く参加してもらうような取組を進めてほしい。関係者の尽力に感謝している。(男性、50-59歳、二世帯、板橋)
- 地域保健福祉活動の範囲を板橋区としてどこまで支援、援助するのかを明確にして、年度ごとの目標値を定めて活動展開を区民に広報されてはと思います。(男性、75歳以上、夫婦のみ、板橋)
- 板橋区では福祉についてその他の地域の方と話をした時に充実している方だと思いました。一人一人の方が生活、健康に関心を持ち、地域の方との交流を心がけて、行政につなげて、困った時は助けてもらう、良い生きがいにして過ごしていきたいと思います。(女性、75歳以上、三世帯、常盤台)

(5) 地域活動・ボランティア活動について

- 何かを充実させるためには支援が必要だと思うから、支援を優先させて保護施設などを作ったり、人を派遣して課題を解決してから充実させたらいいと思いました。中高生の意見も良い意見があるので夏休みとかに参加型の作文、課題解決の案などを集めたりして取り入れていけたらいいと思います。(女性、20歳未満、二世帯、赤塚)
- 多様性、ダイバーシティ、個人の尊重が以前よりさらに強く求められる昨今で、地域で取り組むべき課題は益々増加している状況だと思います。板橋は好きなので何かできることがあれば担っていきたくてと思いました。良い情報収集のやり方があればボランティアに参加する機会なども逃さないで知りたいです。(女性、20-29歳、単身、高島平)

- 軽度の知的障がいを持つ息子がおります。休みの日に身体を動かしたり、参加できるイベントがあればいいなと思っています。地域の方々と関われる機会も今はほとんどないので、これからボランティア参加も検討したいので、情報があると嬉しいです。(女性、40-49歳、二世帯、板橋)
- 子どもの貧困やひきこもり等は将来世代への支援として機会があれば活動に参加したく、たまにネット検索をしていますが、よい情報を見つけられません。板橋区が情報発信してくだされば支援したいと思います。(女性、50-59歳、二世帯、志村)
- 何か協力できることがあればやりたい気持ちはあるのですが、何ができるかも分からずストレスになるようなことがあるのではと積極的になれずにいます。低いハードルで始められるボランティアがあればやらせていただきたいと思っています。(女性、60-64歳、夫婦のみ、板橋)

(6) アンケートについて

- 福祉に関する情報を自らインターネットで検索することがほぼないため、今回の調査票の存在で考える機会になった。またそのことからパンフレットやポスターなど紙製作物として情報を手に取るタイミングがあると、単なるWEB上の情報発信よりも効果をもたらすのではと思った。(女性、20-29歳、二世帯、板橋)
- 板橋区のために頑張ってくださいありがとうございます。素人意見で申し訳ないですが、まず紙媒体よりインターネットなどの媒体を使用した方がいいと思います。ただこのような機会をいただけたことは大変嬉しく思っております。今後とも板橋区をよろしくお願い致します。(男性、20-29歳、その他、板橋)
- 自分のことで精一杯で地域へ目が向けられていませんが、少しずつ生活にも慣れてきました。子育てが大変ですが、このアンケートに答えたことで色々なことを知る機会になりました。ありがとうございました。(女性、20-29歳、その他、高島平)
- 恐らく高齢になるにつれて回答率が上がり、高齢者寄りの意見が偏って集まると思う。若年層はどのレベルの発言をしていいのか、どこまで期待していいものなのか。そもそも社会福祉という概念を持ち合わせていないから、イメージのしようがない。というのが実情だと思う。(男性、30-39歳、単身、常盤台)
- 区によって違いがあり、戸惑うことも多い。他区での成功例を取り入れるのもいいと思う。このアンケートにしても本当に困っている人にはこのアンケートは記入も難しいと思う。具体的な例をあげられる場にはなっていないかも。(女性、50-59歳、二世帯、板橋)

(7) その他

- 内容に興味はあるが、多忙で余力がありません。(男性、50-59歳、単身、板橋)
- 新たな事をやろうとする前に、行政が率先してこれまでの施策の効果を検証して、無駄を減らす努力をすべきだと思う。(男性、50-59歳、二世帯、板橋)
- 自分の生活だけで精一杯で何もできません。すみません。(女性、65-74歳、二世帯、志村)
- コロナの時以来活動内容があまりわかりません。(男性、75歳以上、夫婦のみ、高島平)
- 各種の税金が高すぎて生活しづらい人が多数だと思われます。税金がどのように使われているのかさっぱりわかりません。市民に根差した行政が大切だと思います。(女性、75歳以上、二世帯、板橋)

第3章 調査結果概要

1 人とのつながりについて

- 離れて暮らす家族や友人とは、SNSや電子メールを活用したコミュニケーションが比較的多くなっていますが、高齢者では全くないとの回答が多く、家族・友人がいないことやデジタル機器の使用が困難なことなどが想定されます。また、コミュニケーションの頻度が低いほど孤独感が高くなっていることもうかがえます。
- 孤独を感じる頻度が高い人（7.4%）は1割弱ですが、男性や単身世帯で比較的多くなっています。また、近所との関わりが浅いほど孤独感が高くなっていることがうかがえます。

2 相談に関する状況について

- 悩みや困りごとの相談先は、身近な家族や友人が大半を占めています。一方で、「相談しようと思わない」（8.4%）は1割弱となっており、30歳代及び40歳代、単身世帯で多く、支援の必要性が高い層であることがうかがえます。
- 現在の生活について相談したい内容は、心身の健康や経済的なことが多くなっています。また、若年層では仕事や子育てに関することが多く、生活が苦しい世帯では経済的なことが多くなっています。
- 行政の相談窓口の利用経験がある人（17.7%）は2割弱となっており、そのうち4人に1人が「具体的な解決につながらなかった」（25.2%）、5人に1人が「複数の窓口相談しなければならなかった」（19.0%）と回答しています。また、行政の相談窓口を利用しない人も、その理由として5人に1人が「どこの窓口で相談してよいかわからなかった」（20.4%）と回答しており、自由記述欄にも改善を求める声が挙げられています。
- 相談支援体制の充実に必要なこととして、「困りごとが不明瞭で相談先がわからない場合でも相談できる仕組み」（50.1%）、「分野を問わず相談を受け止めてくれる仕組み」（45.3%）、「身近な地域で気軽に相談できる仕組み」（39.6%）が上位に挙げられており、上記の相談窓口とともに、相談支援の仕組みづくりが重要視されています。加えて、若年層では「相談機関とのオンライン等のリモートによる相談環境の整備」のニーズが比較的高くなっています。
- 現在の生活について、「苦しい」（7.0%）と「やや苦しい」（31.6%）を合わせた4割弱が苦しいと実感しており、なかでも世帯年収が200万円未満や孤独をよく感じている層では過半数を占めています。

3 地域づくりについて

- 近所との関わり方は、「あいさつをする程度」（48.8%）、「立ち話をする程度」（22.4%）、「ほとんど付き合いがない」（20.1%）の順で、「親しく付き合っている」（8.1%）との回答は1割未満となっています。また、「親しく付き合っている」と「立ち話をする程度」は65歳以上で多く、年齢が高いほど親しい近所付き合いをしていることがうかがえます。加えて、単身世帯や孤独感の高い層、生活が苦しいと感じる層で関わりが薄くなっています。

- 望ましい近所との関わり方は、「あいさつをする程度」(45.7%)と「立ち話をする程度」(38.4%)が多く、「親しく付き合いたい」(10.5%)は約1割にとどまっており、深い関わりを望まない人が多いことがうかがえます。
- 地域とのつながりの必要性を感じている人は8割弱(79.2%)となっており、深い関わりは望まないものの、地域とのつながりは必要であることがうかがえます。
- 住民同士が自主的に支え合ったり助け合ったりするために必要な取組は、「地域の人が気軽に集まれる場所をつくる」(32.4%)、「自ら進んで日頃から住民相互のつながりを持つように心がける」(28.0%)、「町会・自治会が中心となって住民相互の交流活動を進める」(27.2%)の順となっています。
- 地域活動やボランティア活動には、参加していない人(67.0%)が過半数を占めています。参加している人の活動は、30歳代及び40歳代で「学校・子ども会・PTAの活動」が最も多く、50歳代以降では「町会・自治会の活動」が年代の高まりとともに多くなっています。
- 地域活動やボランティア活動で課題や負担に感じることは、「活動している参加者の高齢化」(49.4%)、「活動している参加者の減少」(37.3%)、「活動するための時間を確保すること」(33.1%)の順となっており、全国的な傾向と同様に、板橋区においても高齢化や担い手不足といった問題が多くなっていることがうかがえます。
- 地域活動やボランティア活動に参加しなかった理由は、「きっかけや誘いがなかった」(30.9%)、「仕事が忙しかった」(29.7%)、「参加したいと思わない」(29.3%)の順となっています。
- 今後参加したい地域活動やボランティア活動は、「自分の趣味に合った活動」(37.2%)、「健康づくりに関するイベント」(21.1%)、「町会・自治会などの地域活動」(14.7%)の順となっている一方、「今後も参加しようとは思わない」(27.3%)が3割弱で、なかでも30歳代(37.8%)や単身世帯(34.4%)が多くなっています。
- 地域活動やボランティア活動に求めることは、「気軽に参加できる」(49.5%)、「活動の内容に賛同できる」(42.8%)、「身近な場所で活動できる」(42.2%)、「自由な時間に参加できる」(40.4%)の順となっており、参加しなかった理由との関連が深いことが見て取れます。
- 地域活動やボランティア活動の活性化に必要なことは、「一緒に活動する仲間や支援者がいること」(43.6%)、「若い世代が参加しやすいこと」(33.1%)、「自分の趣味や特技をいかせるような活動であること」(29.8%)の順となっており、参加しやすさが求められていることがうかがえます。
- 公共施設における休憩スペースの充実度は、6割強(63.3%)が不足していると回答しています。
- 地域の居場所は、7割強(71.4%)がないと回答しており、地域の交流の場として望む場所として、「公共施設内における交流スペース」(18.8%)、「カフェなどの商業施設」(16.9%)、「ベンチなどの街中における小休憩スペース」(15.1%)などが多く挙げられており、20歳代から50歳代では「カフェなどの商業施設」が多く、60歳代以上では「公共施設内における交流スペース」が多くなっています。

4 日常生活の課題について

- 日常的な外出頻度は、「ほぼ毎日」(68.7%)が最も多く、次いで「週に3～4日」(19.3%)となっており、「外出はしない」(0.7%)との回答はごくわずかです。
- 地域や日常生活における優先課題は、「災害時の避難支援」(38.3%)、「子どもの貧困への支援」(33.9%)、「ヤングケアラーへの支援」(31.7%)、「高齢者への支援」(31.4%)の順となっており、20歳代、50歳代、60～64歳では「災害時の避難支援」、30歳代では「子どもの貧困への支援」、40歳代では「ヤングケアラーへの支援」、65歳以上では「高齢者への支援」が最も多くなっています。
- 困りごとや悩みの解決に必要なと思うことは、「話を聞いてくれる人がいること」(59.9%)、「相談支援・サービスの充実」(37.6%)、「家族や親族の理解・支援」(35.5%)、「専門機関・専門職のアドバイス」(32.8%)の順で、すべての年代で「話を聞いてくれる人がいること」が最上位となっています。また、20歳未満から40歳代では「家族や親族の理解・支援」、50歳代以降では「相談支援・サービスの充実」が次いで多くなっています。さらに、30歳代では「職場などの理解」、60～64歳では「相談窓口が1か所で済むこと」が比較的多くなっています。
- 地域保健福祉の推進に向けて強化してほしい取組は、「いつでも気軽に相談できる相談体制の充実」(44.3%)、「感染症対策、食の安全、医療体制などの保健医療施策の充実」(25.5%)、「認知症高齢者に関する支援の充実」(24.3%)、「ヤングケアラーへの支援の充実」(23.9%)の順となっており、20歳未満では「子ども食堂に関する支援の充実」、20歳代から40歳代では「子育て家庭を支援するサービスの充実」、50歳代以上では「いつでも気軽に相談できる相談体制の充実」が最も多くなっています。

5 ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）について

- 社会的排除の状態にある人は、1割強が「いる」(11.0%)と回答しており、4割半が「いない」(45.8%)、4割強が「わからない」と回答しています。
- 社会的排除の状態にある人への支援に必要な取組は、「総合的な相談窓口の設置」(37.7%)、「自宅以外の居場所の創出」(37.0%)、「就労に向けた準備、働く場所の紹介」(35.4%)、「自立に向けたトレーニングやきっかけが掴める場」(33.7%)の順となっています。

6 ひきこもりについて

- ひきこもり状態にある(あった)世帯員は、9割弱が「いない」(87.0%)と回答しており、「いた」(5.8%)と「いる」(4.0%)が1割未満となっています。
- ひきこもり状態の解消に有用なものは、「自宅以外での居場所」(45.7%)、「身体面又は精神面について専門機関への相談」(35.8%)、「生活全般に関する悩みを相談できる相手」(34.6%)、「就労の悩みを相談できる相手」(33.3%)、「ひきこもりに関する相談窓口」(30.9%)、「友だちや仲間づくり」(30.9%)などとなっています。

7 外国人との共生について

○多様性と活力ある地域社会の実現に向けて行政に求めることは、「外国人に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する」(59.9%)、「外国人が母国語で困りごとの相談を受けられる体制をつくる」(37.3%)、「日本人、外国人双方に、子どもの頃から異文化理解や多文化共生の教育を進める」(35.4%)、「外国人に必要な情報を集め、多言語で発信する」(32.5%)の順となっており、自由記述欄にも外国人のマナーなどに関することが挙げられています。

8 再犯防止に向けた取組について

○罪を犯した人への支援は、7割強(71.8%)が必要だと感じています。

○罪を犯した人の立ち直りには、6割半(65.1%)が協力的に否定的、3割弱(28.9%)が協力的に肯定的となっており、支援の必要性は高いものの、自身の協力は難しいと考えていることがうかがえます。

○再犯防止に向けて区に求められる取組は、「就労に向けた支援」(61.7%)、「再犯防止に取り組む協力者に対する活動場所の提供や財政的な支援」(35.3%)、「住居の確保」(33.0%)、「罪を犯した人に対する支援ネットワークの構築」(31.9%)の順となっています。

9 行政の相談先や福祉等の関連用語について

○民生委員・児童委員の認知度は、5割強が「ことばを見聞きしたことはある」(53.5%)、3割弱が「内容まで知っている」(27.5%)、2割弱が「知らなかった」(16.6%)と回答しています。

○行政の相談先について、「内容まで知っている」が多い相談先は、『保護司』(24.0%)、『フードバンク』(23.1%)、『地域包括支援センター』(20.4%)の順となっています。「ことばを見聞きしたことはある」を合わせると、上位3位は変わらず、『保護司』(69.9%)、『フードバンク』(61.1%)、『地域包括支援センター』(52.4%)でいずれも過半数を占めています。一方、他の項目では「知らなかった」が過半数を占めており、『権利擁護センター』(83.3%)では認知度が最も低くなっています。

○福祉等の関連用語について、「内容まで知っている」が多い相談先は、『ヤングケアラー』(53.0%)、『LGBT』(52.5%)、『成年後見制度』(40.0%)の順となっています。「ことばを見聞きしたことはある」を合わせると、上位3位は変わらず、『ヤングケアラー』(79.6%)、『LGBT』(76.5%)、『成年後見制度』(76.3%)でいずれも8割弱を占めています。また、『地域共生社会』(54.7%)、『8050問題』(53.5%)、『更生保護』(51.2%)も過半数が認知しています。一方、他の4項目では「知らなかった」が過半数を占めており、『BBS会』(89.0%)は認知度が最も低く、次いで『協力雇用主』(77.2%)となっています。

資料編

「板橋区地域保健福祉計画」策定のためのアンケート調査

～ご協力のお願い～

区民の皆さまには、日頃より区政へのご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
板橋区では、だれもが地域で健やかに暮らせるよう、地域における保健福祉の一体的な取り組みを目指した「板橋区地域保健福祉計画」の推進を図っています。

本調査は、現在の計画が目標年次に達することに伴い、次期計画の準備を進めている中で、主に「地域福祉」に関して、区民の皆さまの実態や意識、さまざまな取組み、ご意見等をお聞かせいただき、今後の計画策定の基礎資料として活用させていただくために行うものです。

今回、無作為に選ばせていただいた18歳以上の方へ、アンケート調査票をお送り致しました。お答えいただいた内容につきましては、上記基礎資料とすること以外には決して使用致しません。また、調査は無記名で行い、調査結果につきましては統計的な処理をいたしますので、回答の内容が他に漏れるなど、ご迷惑をお掛けするようなことは一切ございません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

令和6年7月

ご記入にあたってのお願い

- お答えは、質問にしたがってあてはまる番号を○で囲むか、ことばや数字を記入してください。お答えが「その他」の場合は、回答番号を○で囲んだうえで、その内容を()の中に具体的に書してください。
- 質問文の中で「あなた」とある場合は、このアンケート票が送られたあての方(ご本人)を指しています。ご本人がお答えにならないときは、ご家族の方などがご本人の立場からお答えくださいますようお願い致します。
- この調査票についてのお問い合わせは下記までお願い致します。[平日：9時～17時]

板橋区 福祉部 生活支援課 TEL. 03-3579-2352

【調査実施委託先】株式会社 アイ アール エス TEL. 03-3357-7181

調査票の回収は…

ご記入いただきました調査票は、お手数ですが**8月21日(水)までに**、同封の返信用封筒に入れて投函してください。住所、名前などをご記入いただく必要はありません。また、切手を貼る必要もありません。

★当アンケートには、WEB（パソコンやスマホ）でご回答いただくこともできます★

ご回答は、紙面（郵送）かWEBか、いずれかをお選びいただけます。
アンケートフォームには、右のQRコードまたは下のURLからアクセスできます。
WEBでご回答の場合には、この紙の調査票の回答・返送はご遠慮ください。
アンケートページURL： <https://www.c2-wee.com/ff/r6tabashi.php>
調査票の入力パスワード： 小文字半角で「**Itabashi**」
・右欄内の番号は、紙とWEBの2重調査防止等のために利用するものです。



—あなたご自身のことについてうかがいます—

ア あなたの性別をお答えください。(○は1つだけ)

1 男性 2 女性 3 回答しない

イ あなたの年齢をお答えください。(令和6年7月1日現在)(○は1つだけ)

1 20歳未満 4 40～49歳 7 65～74歳
2 20～29歳 5 50～59歳 8 75歳以上
3 30～39歳 6 60～64歳

ウ あなたの家族構成は、次のうちどれにあてはまりますか。(○は1つだけ)

1 単身(ひとり暮らし) 5 三世帯世帯(18歳未満の子どもと同居)
2 夫婦のみ 6 三世帯世帯(その他)
3 二世帯世帯(18歳未満の子どもと同居) 7 兄弟姉妹と同居
4 二世帯世帯(その他) 8 その他()

エ あなたの国籍をお答えください。(○は1つだけ)

1 日本 2 外国籍

オ あなたのお住まいの地区名をお答えください。(○は1つだけ)

※別紙「お住まいの地域について」を参考に選択してください。

1 板橋 6 大谷口 11 蓮根 16 成増
2 熊野 7 常盤台 12 舟渡 17 徳丸
3 仲宿 8 清水 13 前野 18 高島平
4 仲町 9 志村坂上 14 桜川
5 富士見 10 中台 15 下赤塚

カ あなたは板橋区に何年住んでいますか。(○は1つだけ)

1 住み始めて1年未満 4 住み始めて5年～10年未満
2 住み始めて1年～3年未満 5 住み始めて10年～20年未満
3 住み始めて3年～5年未満 6 住み始めて20年以上

キ お住まいは次のどれにあたりますか。(○は1つだけ)

1 持ち家(一戸建て) 5 公営住宅・UR賃貸
2 持ち家(分譲マンション等集合住宅) 6 官舎・寮・社宅等
3 賃貸住宅(一戸建て) 7 その他()
4 賃貸住宅(マンション、アパート等)

1

ク あなたの現在の就労・就学等の状況はどれになりますか。(○は1つだけ)

1 正規職員・従業員 6 専業主婦・主夫
2 非正規の従業員(派遣社員、契約社員・嘱託、パート・アルバイト ※学生アルバイトを除く) 7 学生
3 会社などの役員 9 収入をともなう仕事をしていない(求職中)
4 自営業主 10 その他()
5 家族従業者・内職 8 収入をともなう仕事をしていない(求職をしていない)

ケ あなたの現在の世帯年収についてお答えください。(○は1つだけ)

1 0～200万円未満 3 400～700万円未満
2 200～400万円未満 4 700万円以上

—人とのつながりについてうかがいます—

問1 あなたは普段、離れて暮らす家族やお友だちとどれくらいコミュニケーションを取りますか。①～③ごとにそれぞれお答えください。(①～③について、それぞれ○は1つだけ)
※仕事や学校、近所での付き合い、SNS(X, Facebook, Instagramなど)上での交流など、場所や手段は問いません。

	週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない
①直接会って話す	1	2	3	4	5	6	7
②電話(ビデオ通話含む)	1	2	3	4	5	6	7
③SNSや電子メールなど	1	2	3	4	5	6	7

*同居している人がいる場合にお答えください。

問1-1 あなたと同居している人たちのコミュニケーションについて、直接話す頻度を答えください。(○は1つだけ)

1 週4～5回以上 5 月1回程度
2 週2～3回程度 6 月1回未満
3 週1回程度 7 全くない
4 2週間に1回程度

問2 あなたはどの程度、孤独であると感じるがありますか。(○は1つだけ)

1 よく感じる 3 たまに感じる
2 しばしば感じる 4 まったく感じない

2

—相談に関する状況についてうかがいます—

問3 あなたは悩みや困りごとをどなたに相談しますか。(○はいくつでも)

1 家族(配偶者・親・子・きょうだい等) 9 NPO等の民間団体
2 親戚 10 民生委員・児童委員
3 友人・知人 11 医療・介護関係者
4 近所の人 12 専門の相談機関
5 職場や仕事関係の人 13 SNS等オンライン上の知人
6 区役所の相談窓口 14 その他()
7 国や東京都の相談窓口 15 誰に相談したらよいかわからない
8 社会福祉協議会 16 相談しようと思わない

問4 あなたは、もし現在の生活について相談をしたらどのようなことを相談したいと思いますか。(○はいくつでも)

1 家族の介護・世話 8 職場環境(仕事の負荷・人間関係など)
2 人間関係に関すること 9 就学環境(学業の負荷・人間関係など)
3 近所のつきあい 10 経済面(収入・支出)に関すること
4 育児・子育てに関すること 11 災害に関すること
5 自分の心身の健康に関すること 12 防犯・地域の安全
6 家族の心身の健康に関すること 13 その他()
7 仕事に関すること(就労) 14 特にない

問5 あなたは、生活における困りごとに関して、これまで行政の相談窓口にご相談したことはありますか。(○は1つだけ)

1 ある 2 ない

問5-1 【問5で「1.ある」を回答した方へ】

行政の窓口で相談をした際に、どのようなことに困りましたか。(○はいくつでも)

1 複数の窓口で相談しなければならなかった
2 相談内容が伝わらなかった
3 具体的な解決につながらなかった
4 待ち時間が長かった
5 その他()
6 特に困ったことはない

問5-2 【問5で「2.ない」を回答した方へ】

行政の相談窓口で相談したことがないのはなぜですか。(○はいくつでも)

1 複数の窓口で相談しなければならず、面倒だった
2 どこの窓口で相談してよいかわからなかった
3 窓口が混雑していた
4 相談に行く時間がない
5 行政に相談したくない
6 その他()

3

問6 あなたは、困りごとに対する相談支援体制を充実させるには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 分野を問わず相談を受け止めてくれる仕組み
- 2 困りごとが不明瞭で相談先がわからない場合でも相談できる仕組み
- 3 支援機関が地域に向い支援助が必要な人を見出し、適切な他機関につなぐ取組み
- 4 身近な地域で気軽に相談できる仕組み
- 5 相談機関とのオンライン等のリモートによる相談環境の整備
- 6 AI(人工知能)を活用した相談システムによる受付・案内などの環境整備
- 7 その他()

- 問7 あなたは、現在の生活をどのように感じていますか。(〇は1つだけ)
- 1 ゆとりがある
 - 2 ややゆとりがある
 - 3 やや苦しい
 - 4 苦しい

ー地域づくりについてうかがいますー

- 問8 あなたは現在、ご近所とどのような関わり方をしていますか。(〇は1つだけ)
- 1 親しく付き合っている
 - 2 立ち話をする程度
 - 3 あいさつをする程度
 - 4 ほとんど付き合いがない

- 問9 あなたが望ましいと思う、ご近所との関わり方はどれですか。(〇は1つだけ)
- 1 親しく付き合いたい
 - 2 立ち話をする程度
 - 3 あいさつをする程度
 - 4 付き合いたくない

- 問10 あなたは、地域とのつながりが必要だと思いますか。(〇は1つだけ)
- 1 とても必要だと思う
 - 2 ある程度必要だと思う
 - 3 あまり必要だと思わない
 - 4 必要だと思わない

【問10で「1 とても必要だと思う」、「2 ある程度必要だと思う」を回答した方へ】
問10-1 あなたは住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりするためには、どのような取組みが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 自ら進んで日頃から住民相互のつながりを持つように心がける
- 2 地域の人が気軽に集まれる場所をつくる
- 3 町会・自治会が中心となって住民相互の交流活動を進める
- 4 ボランティアやNPO(民間非営利組織)の活動を盛んにする
- 5 社会福祉協議会が地域活動をするうえでの相談体制や、地域活動への支援を充実する
- 6 行政機関が地域における相談体制や、活動への支援を充実する
- 7 わからない
- 8 その他()

4

問13 あなたが活動へ参加するに当たって求めることは何ですか。(〇はいくつでも)

- 1 活動の内容に興味できる
- 2 活動情報の提供がある
- 3 身近な場所で活動できる
- 4 自由な時間に参加できる
- 5 事前の研修や説明会がある
- 6 指導者やリーダーがいる
- 7 特技や知識が活かせる
- 8 役員や当番などがない
- 9 車椅子や杖などでも参加できる
- 10 気軽に参加できる
- 11 参加費用があまりかからない
- 12 その他()
- 13 特になし

問14 今後、地域活動やボランティア活動を活性化していくためには何が重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 一緒に活動する仲間や支援者がいること
- 2 地域活動を推進するリーダーがいること
- 3 活動経費に対する経済的支援が得られること
- 4 自分の趣味や特技をいかなせるような活動であること
- 5 活動に対して地域や行政が理解、支援してくれること
- 6 ボランティアに関する講座や人材養成の取組みがあること
- 7 家族の理解が得られること
- 8 若い世代が参加しやすいこと
- 9 その他()
- 10 特になし

問15 板橋区の公共施設には、気軽に立ち寄れる休憩スペースが充実していると思いますか。(〇は1つだけ)

- 1 充実している
- 2 どちらかといえば充実している
- 3 どちらかといえば不足している
- 4 不足している

問16 あなたは、地域に気軽に立ち寄れる居場所があると良いと思いますか。(〇は1つだけ)

- 1 ある
- 2 どちらかといえばある
- 3 どちらかといえばない
- 4 ない

問17 地域の交流の場として、どのような場所があると良いと思いますか。(〇は最も必要と思う場所1つだけ)

- 1 公共施設内における交流スペース
- 2 空き家・空き店舗を活用した交流スペース
- 3 カフェなどの商業施設
- 4 公園などの屋外スペース
- 5 ベンチなどの街中における小休憩スペース
- 6 その他()
- 7 特に必要なない

6

問11 あなたは過去1年くらいの間に、以下のような地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|------------------------|-------------------------------|
| 1 町会・自治会の活動 | 10 防災活動や災害時援助活動 |
| 2 学校・子ども会・PTAの活動 | 11 募金活動やチャリティバザーの開催など |
| 3 運動・スポーツ・文化に関する活動支援 | 12 子ども食堂運営・協力活動 |
| 4 高齢者の身の回りの世話や話し相手 | 13 フードバンク・フードバンク等の食糧寄付 |
| 5 障がい者の日常生活における支援や話し相手 | 14 国際交流や外国人への支援活動 |
| 6 手話通訳・点字ボランティア | 15 インターネットやコミュニティ誌による地域への情報提供 |
| 7 子育ての支援や相談 | 16 公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動 |
| 8 地域での学習活動の指導・助言・運営協力 | 17 その他() |
| 9 交通安全や防犯活動 | 18 いずれにも参加していない |

【問11で1~17を回答した方へ】
問11-1 活動を行う上での課題や負担に感じていることはどれですか。(〇はいくつでも)

- 1 活動している参加者の高齢化
- 2 活動している参加者の減少
- 3 活動に伴う経費負担
- 4 活動するための時間を確保すること
- 5 活動するための場所を見つけること
- 6 その他()

【問11で18を回答した方へ】
問11-2 あなたが参加しなかった理由はなんですか。(〇はいくつでも)

- 1 仕事が忙しかった
- 2 看護や介護が忙しかった
- 3 子育てで忙しかった
- 4 きっかけや誘いがなかった
- 5 参加方法がわからなかった
- 6 興味のある活動がなかった
- 7 他者と関わりたくない
- 8 自分や家族の健康状態が不安だった
- 9 参加したいと思わない
- 10 その他()

問12 今後、どのような地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 町会・自治会などの地域活動
- 2 健康づくりに関するイベント(ウォーキング、体操教室、講演会など)
- 3 子ども関係の活動(PTA、子ども会、子ども食堂、子育て支援の相談など)
- 4 福祉関連ボランティア(高齢者や障がい者の話し相手、手話、点字など)
- 5 環境保全に関する活動(清掃・リサイクル、花や緑の活動など)
- 6 自分の趣味に合った活動
- 7 生涯学習、地域教育など(外国人交流支援、学習支援)
- 8 インターネットやコミュニティ誌による地域への情報提供
- 9 その他()
- 10 今後も参加しようとは思わない

5

ー日常生活の課題についてうかがいますー

問18 あなたは、日常どのくらい外出していますか。(通勤・通学を含む) (〇は1つだけ)

- 1 ほぼ毎日
- 2 週に3~4日
- 3 週に1~2日
- 4 月に1~2日
- 5 年に数日
- 6 外出はしない

問19 地域や日常生活における優先課題だと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

- 1 地域・住民とのつながりの促進
- 2 世代間の交流の促進
- 3 地域活動の促進
- 4 地域における交流の場への支援
- 5 高齢者への支援
- 6 障がい者への支援
- 7 ひきこもりの人への支援
- 8 ひとり親家庭への支援
- 9 孤立している人への支援
- 10 子どもの貧困への支援
- 11 ヤングケアラーへの支援*
- 12 複合課題を抱える人への支援
- 13 災害時の避難支援
- 14 その他()
- 15 特になし

*ヤングケアラー=本人が拒否と想定されている家事や介護の世話などを日常的に行っている子どものこと。
*8050問題=80代の親がひきこもりなどの問題を抱える50代の子どもの生活を支える中で、世帯が孤立化・閉鎖化するといった問題。
*ダブルケア=子育てと養育の介護が同時に発生する状態のこと。

問20 困りごとや悩み解決において必要だと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

- 1 話を聞いてくれる人がいること
- 2 地域におけるつながりがあること
- 3 専門機関・専門職のアドバイス
- 4 相談支援・サービスの充実
- 5 相談窓口が1か所済むこと
- 6 家族や親族の理解・支援
- 7 職場などの理解
- 8 その他()
- 9 特になし
- 10 わからない

問21 板橋区では、地域の保健福祉の推進に取り組んでいますが、あなたはどのようなことに力を入れてほしいですか。(〇はいくつでも)

- 1 ボランティアや地域住民などによる支え合い活動の充実
- 2 いつでも気軽に相談できる相談体制の充実
- 3 保健・福祉に関わる専門性の高い人材の育成と確保
- 4 福祉教育の充実
- 5 子育て家庭を支援するサービスの充実
- 6 ひとり親家庭への支援の充実
- 7 子ども食堂に関する支援の充実*
- 8 ヤングケアラーへの支援の充実
- 9 障がい者への支援の充実
- 10 認知症高齢者に関する支援の充実
- 11 元気高齢者への支援の充実
- 12 高齢者や障がい者の就労支援の充実
- 13 低所得者の自立支援の充実
- 14 ひきこもり支援の充実
- 15 孤独・孤立している人への支援
- 16 ユニバーサルデザインに基づくまちづくり
- 17 心と身体の健康づくりの支援の充実
- 18 感染症対策、食の安全、医療体制などの保健医療施策の充実
- 19 その他()

*子ども食堂=地域の子どもや保護者が気軽に立ち寄り、栄養バランスの取れた食事をとりながら、相互に交流する場を民間団体等が提供する取組み。

7

ーソーシャル・インクルージョン(社会的包摂)についてうかがいますー

※ソーシャル・インクルージョンは「全ての人々を排除や孤立、排除や摩滅から保護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う」という理念。社会全体で包み支え合うことで、誰も排除されず、全ての人が社会に参画する機会を持つことです。

問22 あなたの周りに社会的に不利な立場にいる、または孤立していたり排除されている人はいいますか(社会的排除)。

(例)ひきこもり、ひとり親家庭、望まない非正規雇用者、路上生活者、頼る人がいない高齢者など(○は1つだけ)

1 いる
2 いない
3 わからない

問23 ソーシャル・インクルージョンを推進するために、社会的排除の状態にある方への支援としてどのような取組みが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1 地域住民におけるつながりの強化
2 自宅以外の居場所の創出
3 総合的な相談窓口の設置
4 本人宅などへの訪問相談・同行支援
5 地域でのイベントや事業等に関するプッシュ型の情報提供
6 自立に向けたトレーニングやきっかけが掴める場(就労体験・ボランティア体験などへの参加)
7 就労に向けた準備、働く場所の紹介
8 生活困窮時の生活資金の公的支援
9 その他()
10 特に必要ない

ーひきこもりについてうかがいますー

問24 あなたの世帯に、ひきこもり状態にある(あった)方はいますか。(○は1つだけ)

*「ひきこもり状態」とは、さまざまな要因により、社会的参加(就学、就労、家庭外での交遊など)を避け、概ね家庭にとどまり続けている状態

1 いる	2 いた	3 いない
------	------	-------

【問24で「1 いる」、「2 いた」を回答した方へ】

※「2 いた」を回答した方へひきこもり状態にあった方は、当時の状況について、お答えください。問24-1 ひきこもり状態にある方について、ひきこもりの状態を変えるために、必要であったり、役に立つと思うものをお答えください。(○はいくつでも)

1 ひきこもりに関する相談窓口	12 自立に向けたトレーニングやきっかけが掴める場(就労体験・ボランティア体験などへの参加)
2 生活全般に関する悩みを相談できる相手	13 自宅以外の生活の場
3 経済的(生活費)悩みを相談できる相手	14 相談に乗ったり、支援機関に同行してくれる人
4 就労(仕事探し)の悩みを相談できる相手	15 医療機関への受診同行
5 友だちや仲間づくり	16 就労に向けた準備、働く場所の紹介
6 気軽に参加できる趣味や体験活動の場	17 その他
7 自宅以外での居場所	18 わからない
8 身体面又は精神面について専門機関への相談	19 特に必要と感じるものはない
9 同じ悩みを持つ当事者や家族が集う居場所、つながり	20 変える必要はない、今のままでよい
10 ひきこもりの状態を経験したことがある方の体験談	
11 学ぶ機会の確保	

ー外国人との共生についてうかがいますー

問25 日本人の区民と外国人の区民が共に安心して暮らし、多様性と活力のある地域社会にしていけるために、行政に求めることをお答えください。(○はいくつでも)

1 外国人に必要な情報を集め、多言語で発信する
2 外国人が母国語で困りごとの相談を受けられる体制をつくる
3 外国人に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する
4 外国人の日本語学習を支援する
5 日本人が外国の文化や習慣について学ぶ場をつくる
6 日本人と外国人が知り合い、交流を進める場をつくる
7 外国人同士が互いに助け合うコミュニティをつくる
8 外国人への差別や偏見をなくすように、日本人へ意識啓発を進める
9 日本人、外国人双方に、子どもの頃から異文化理解や多文化共生の教育を進める
10 その他()
11 特にない

ー再犯防止に向けた取組みについてうかがいますー

問26 あなたは、罪を犯した人への支援が必要だと思いますか。(○は1つだけ)

1 必要だと思う	3 どちらかと言えば必要だと思う
2 どちらかと言えば必要だと思う	4 必要だと思わない

問27 あなたは、罪を犯した人の立ち直りに協力したいと思いますか。(○は1つだけ)

1 協力したい	3 どちらかと言えば協力したくない
2 どちらかと言えば協力したい	4 協力したくない

問28 罪を犯した人が、出所後、再び罪を犯さないようにするために、区はどのような取組みを行っていくことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1 住居の確保	6 罪を犯した人に対する支援ネットワークの構築
2 就労に向けた支援	7 再犯防止についての広報・啓発活動
3 保健医療・福祉サービスの利用の促進	8 その他()
4 非行少年などに対する学校等と連携した修学支援の実施	
5 再犯防止に取り組む協力者に対する活動場所の提供や財政的な支援	

ー行政の相談先や福祉等の関連用語についてうかがいますー

問29 あなたは、下記に示す本区の相談支援窓口や、福祉・保健に関連のある用語を知っていますか。それぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。(本アンケートで知った場合は、「知らなかった」を選択してください。)

	項目	内容まで知っている	ことばを見聞きしたことはある	知らなかった
A) 行政の相談先	ア 民生委員・児童委員	1	2	3
	イ いたばし暮らしのサポートセンター	1	2	3
	ウ 地域福祉コーディネーター	1	2	3
	エ 権利擁護センター	1	2	3
	オ 地域包括支援センター	1	2	3
	カ 子ども家庭総合支援センター	1	2	3
	キ 保護司	1	2	3
ク フードバンク	1	2	3	
ケ フードパントリー	1	2	3	

	項目	内容まで知っている	ことばを見聞きしたことはある	知らなかった
B) 用語	コ LGBT	1	2	3
	サ 成年後見制度	1	2	3
	シ 8050 問題	1	2	3
	ス ヤングケアラー	1	2	3
	セ ダブルケア	1	2	3
	ソ 地域共生社会	1	2	3
	タ 社会を明るくする運動	1	2	3
	チ 更生保護	1	2	3
	ツ BBS会 (Big Brothers and Sisters Movement)	1	2	3
	テ 協働雇用主	1	2	3

◆◇最後に、いままでお聞きしたことの他に、地域保健福祉に関するご意見・ご要望・ご感想などがありましたらお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。記入漏れがないか、もう一度お確かめください。

ご記入いただきました調査票は、お手数ですが **8月21日(水)** までに、同封の返信用封筒に入れて投函してください。住所、名前などをご記入いただく必要はありません。また、切手を貼る必要もありません。

板橋区地域福祉に関するアンケート調査 調査報告書

令和7年2月

企画・実施 板橋区 福祉部 生活支援課
〒173-8501 東京都板橋区板橋二丁目66番1号
TEL 03-3579-2352 FAX 03-3579-2046

集計・分析 株式会社アイアールエス
〒160-0004 東京都新宿区四谷3丁目1-3 第1 富澤ビル7F
TEL 03-3357-7181 FAX 03-3357-7180

【刊行物番号】R06-129